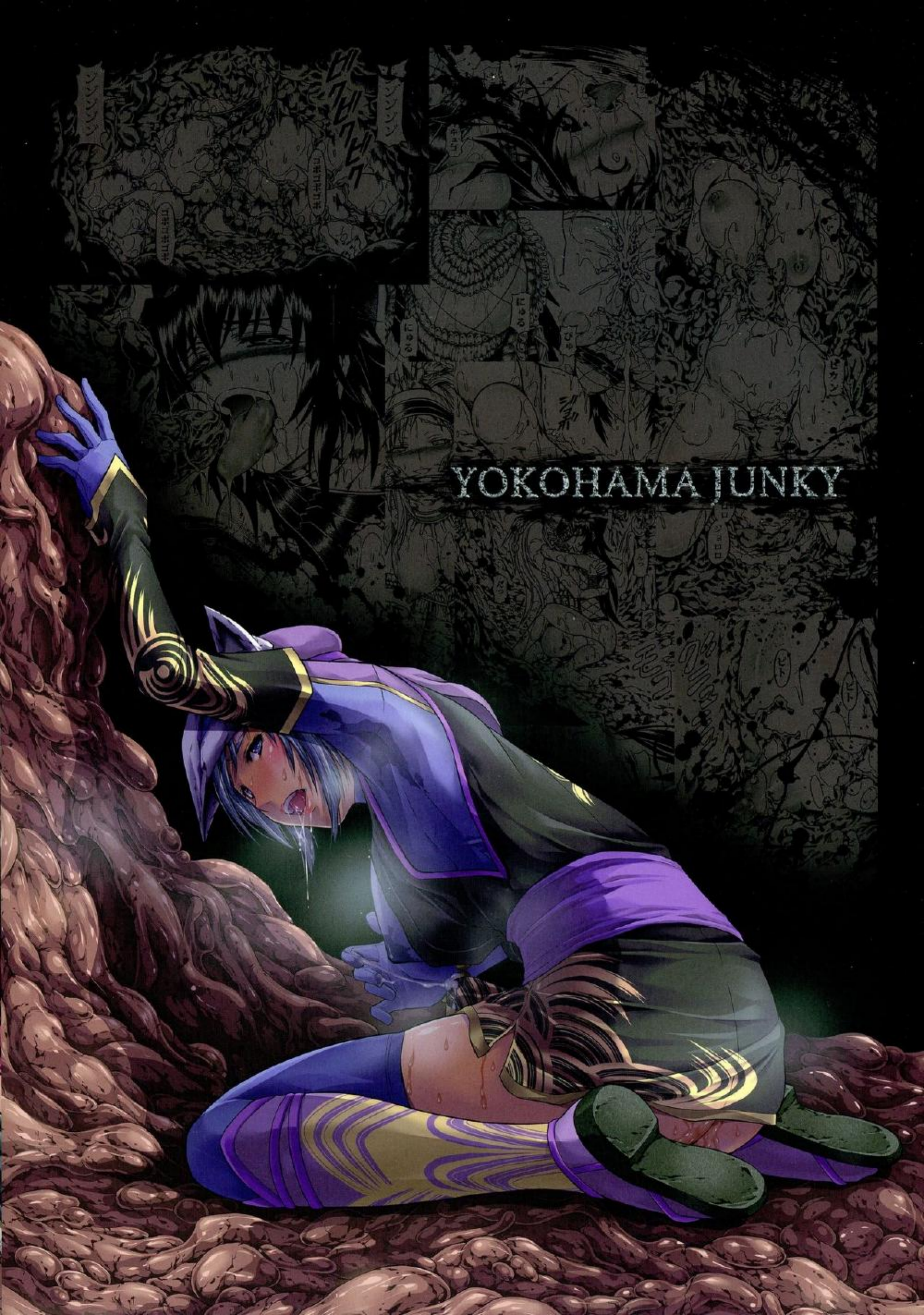




ADULT ONLY

ソロハンター達の生態



YOKOHAMA JUNKY

人々は賞賛する

未知の恐怖とそれを討ち取る英雄達の伝説を



まあ それは素晴らしい事ですわ

心強いものですよね

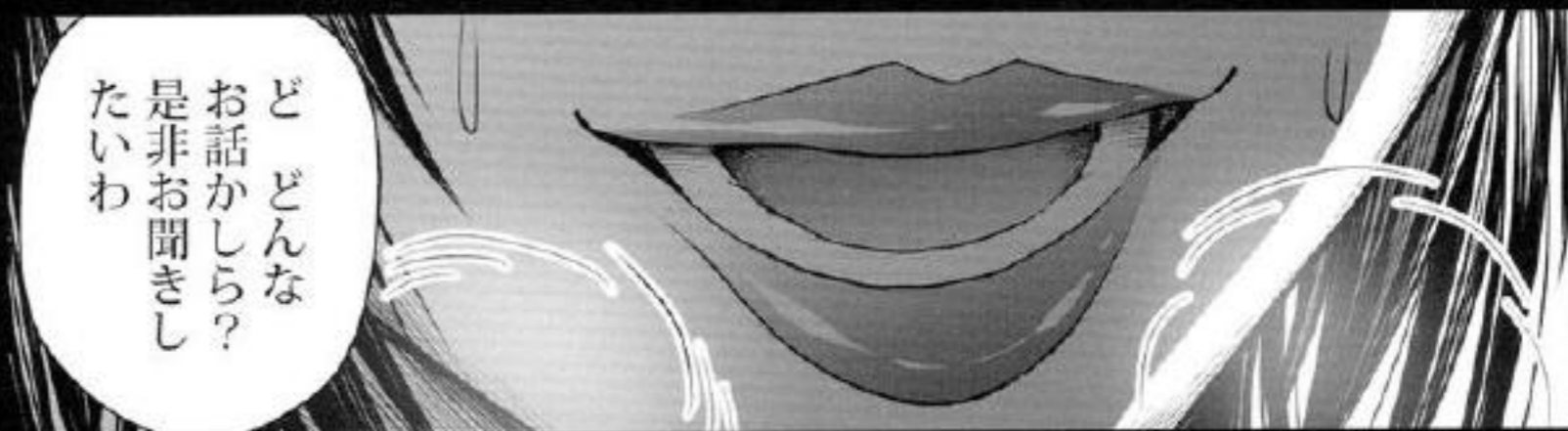
人々は嗤う

未知の暴力とそれに蹂躞された哀れな人々の末路を



大きな声では言えないのでけれど……こんな悲惨な話もあるんですよ

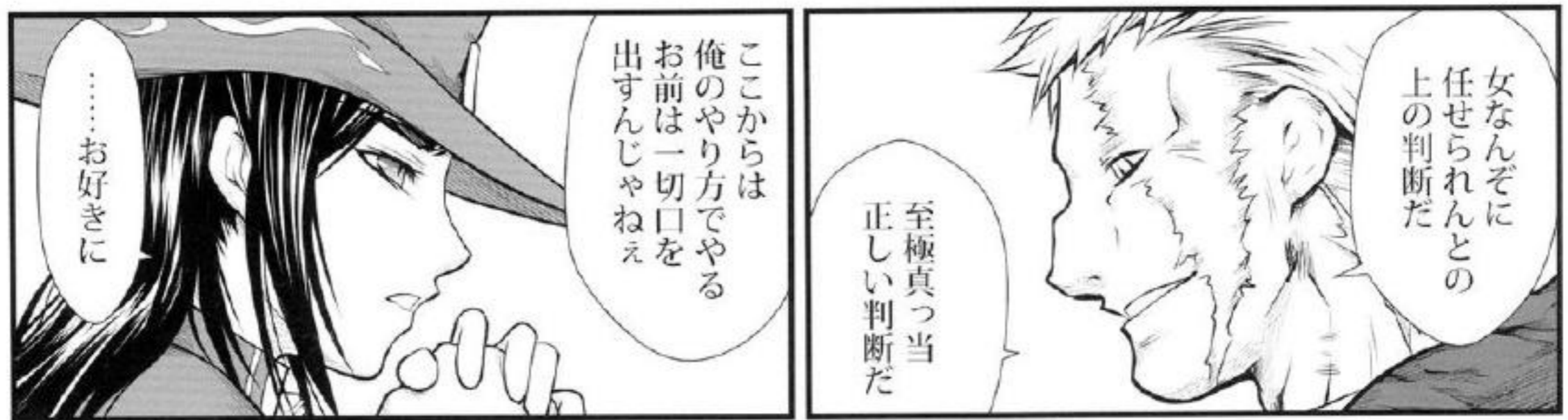
ど どんなお話かしら？是非お聞きしたいわ



ウフフフ
どこからお話ししましょうか



ソロハンター達の生態



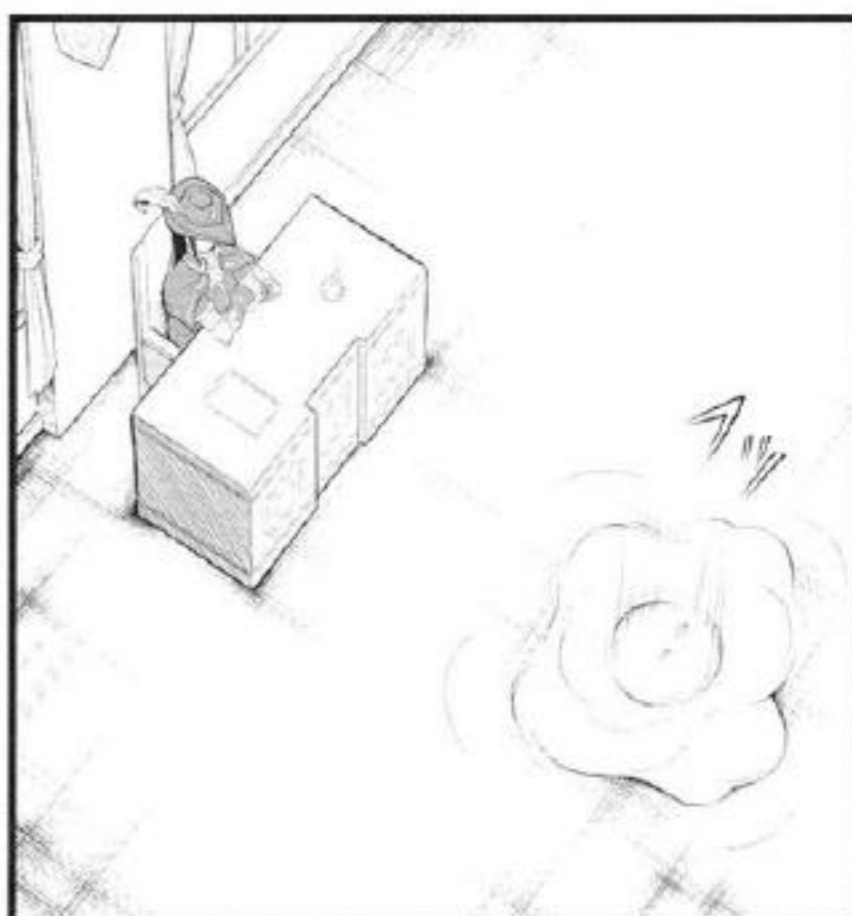


使える物は
何でも使わないとな



さて どうなるか
有能だが……
問題は体の方か

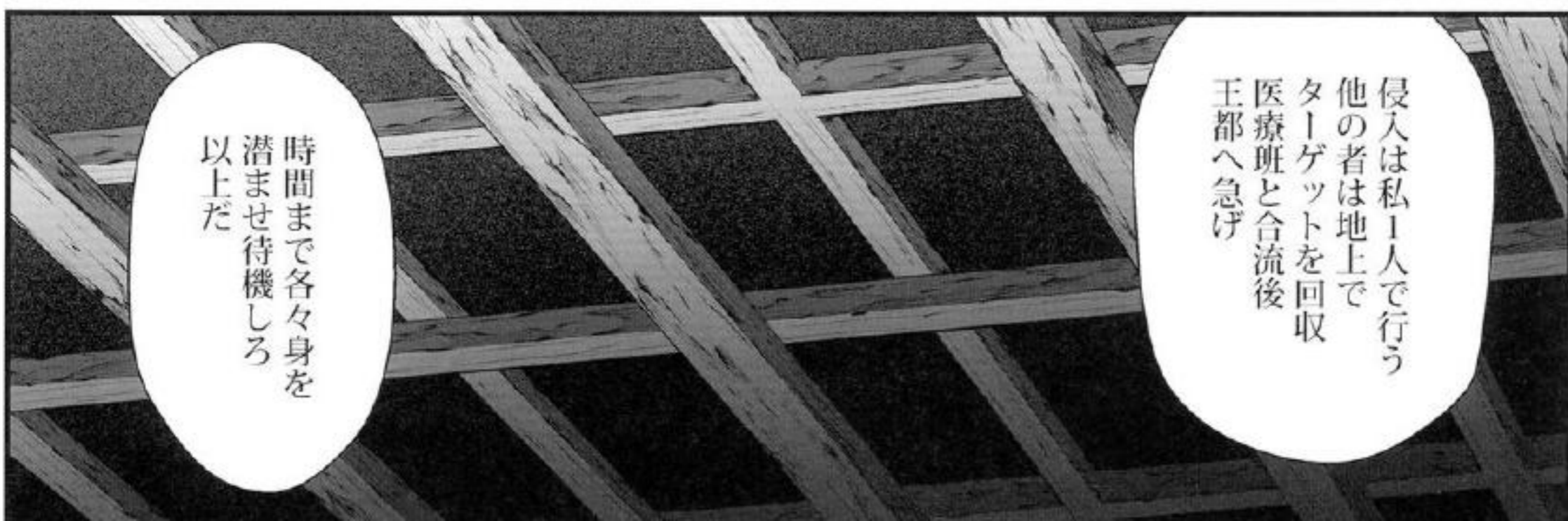
ハサ



失敗すればライバルは失脚
成功すれば私は出世だ

果報は寝て待て……だな

お……



侵入は私1人で行う
他の者は地上で
ターゲットを回収
医療班と合流後
王都へ急げ

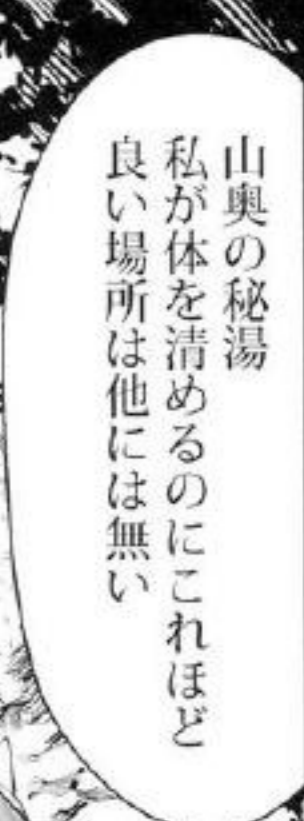
時間まで各々身を
潜ませ待機しろ
以上だ



私には人には言えぬ秘密がある
任務では無い 上官にも決して
知られてはならない個人的な秘密だ



あの時……
私はいつものように



山奥の秘湯
私が体を清めるのにこれほど
良い場所は他には無い



人間は誰も立ち入らず
危険なモンスターもさほど
生息していない最高の場所だ



この忌まわしい体のせいで
私は人前で肌を晒すことが
出来ない……そう



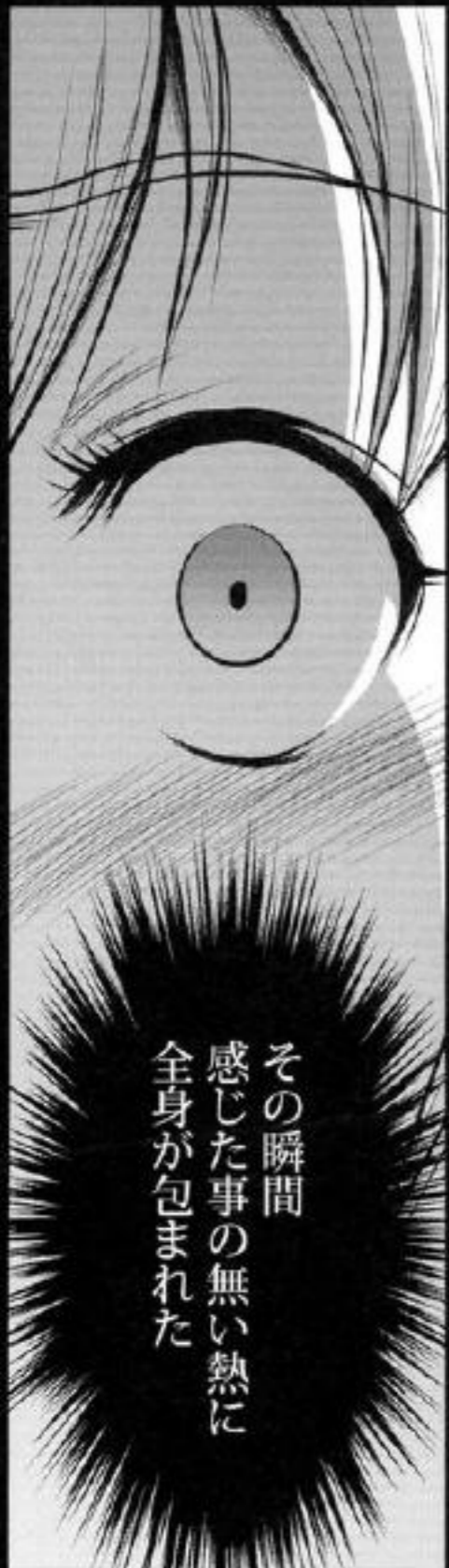
何か居る!?



女の身でありながら
男の性器を宿したこの
呪われた体のせいで



人……か?



その瞬間
感じた事の無い熱に
全身が包まれた





私は今まで他人に劣情を
抱いた事は一度も無い
男にも女にもだ



考えるよりも早く
肉体は浅ましい行為に
耽っていた



膣はあの女に
甘えたいと蜜を漏らし



ペニスはあの女に
包まれないと硬く反り返る

それなのに今
私の肉体は一目見ただけの女体に
完全に屈服していた





な…なんだ…これは？



だが何だ？
この全身を包む甘い感覚は？
普段の自慰行為とはまるで違う



私とて性処理の経験くらいはある
このような身の上だ
任務に支障をきたさぬように
適切に肉体をコントロール
しなければならない

ハア



もしこんな所を見られて
しまったら……



ダメだ止められない



一体どうしてしまったんだ私は？

ずっとこの幸福な甘さに
浸っていたいと感じてしまう





あう

あっ

あっ

ピュル

ブルブル

ブルブル

ガク

ガク



焦燥

羞恥



絶望



そしてその全ての感情が官能に変わる

ブリッ



人生で初めて感じる
異様なまでに
深く長い射精の快感



醜態を隠す事より吐精の快楽が
勝った 私は肉欲のままに
ペニスを絞り続ける この快感の
ためならどうなっても構わない
心の底からそう感じていた

道端の石ころがたまたま
視界に入っただけ
そんな目だった

彼女の何の感情も無
い瞳に見下ろされながら
私は浅ましい射精を繰り返して
返していた









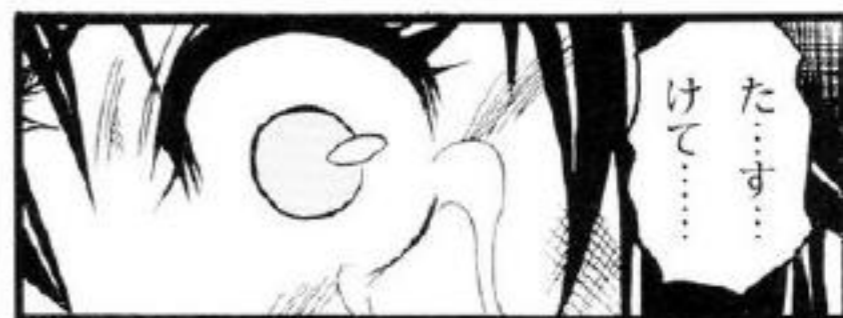


誰か助けてえ!!



こんな筈じゃ……
こんな筈じゃ無かつたのに

ダメだ……まるで
歯が立たない







私が最後に見たのは
彼女の蔑むような
冷たい瞳だった

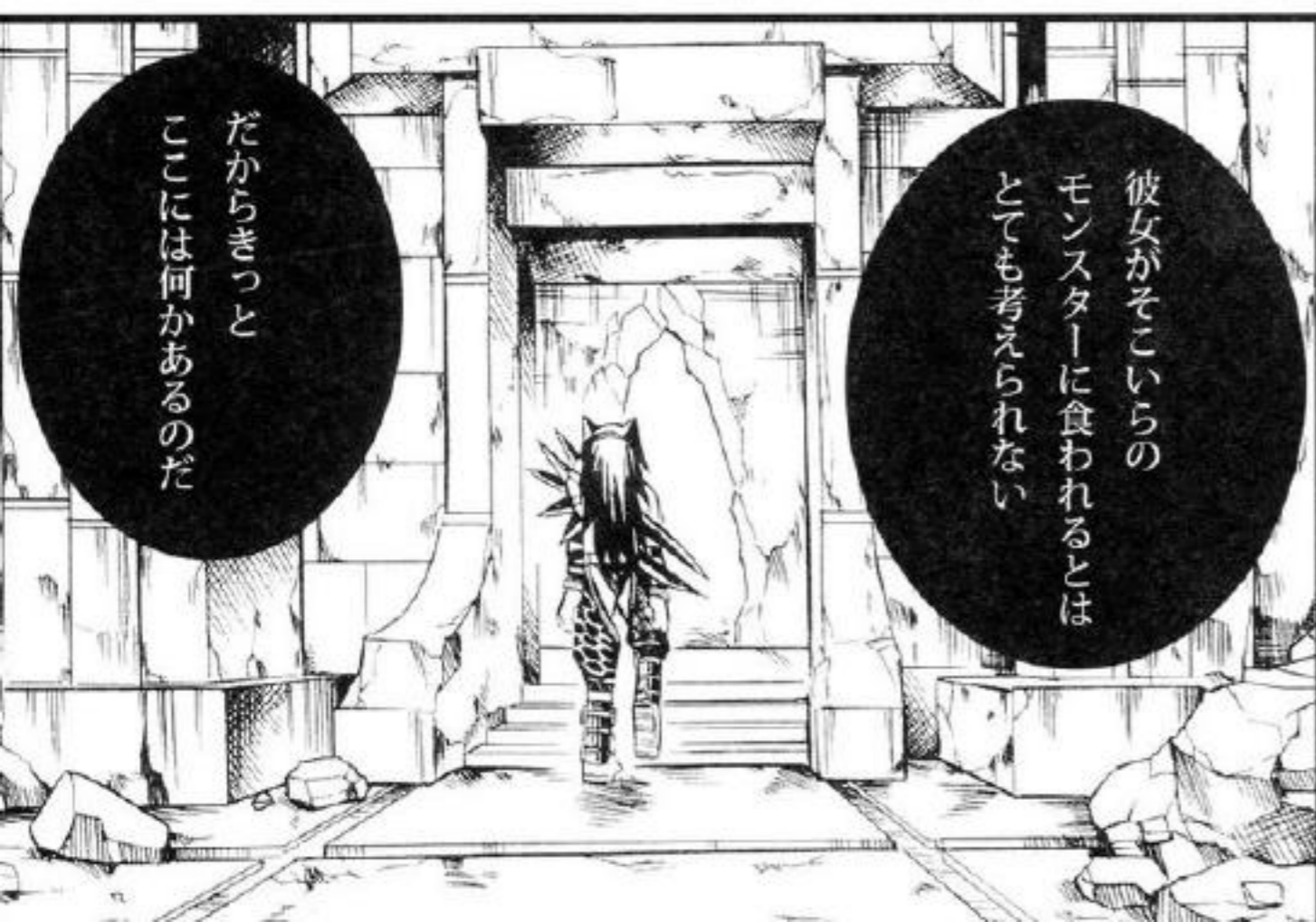


あの日以来
ずっと彼女を
追いかけて来た

あの気高く美しい瞳に
もう一度逢いたい
彼女と肩を並べて狩りを
してみたい
そんな思いが私を支配していた

彼女の足跡を追い
私はここに辿り着いた

樹海に佇む古塔
ギルドの話では
彼女は二ヶ月前に
ここで消息を断つたらしい



だからきつと
ここには何かあるのだ

彼女がそこいらの
モンスターに食われるとは
とても考えられない



以前にも
何人かのハンターが
ここで消えている

ギルドには行くなど
きつく止められた

ギルドすら知らない何か



な……

何だ
コイツは？

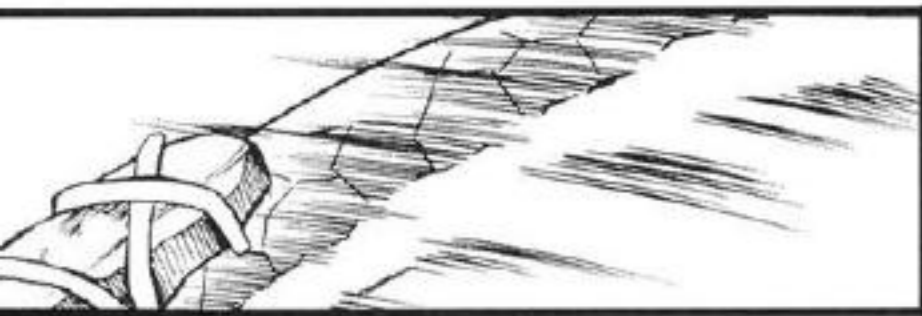
蛸……いや……
龍……なのか？

カチャ



なんてデカさだ
この大きさなのに
翼も無しに浮いてる……
どうなってるんだ？





遅い

大きいだけだ
動作が緩慢過ぎる

あの人こんなモンスターに
やられるとはとても思えない
……ハンターの失踪とは関係
無いただの新種か？

それなら
素材を貰うまでだ

タツ

え？

カッ

大雷光虫!?

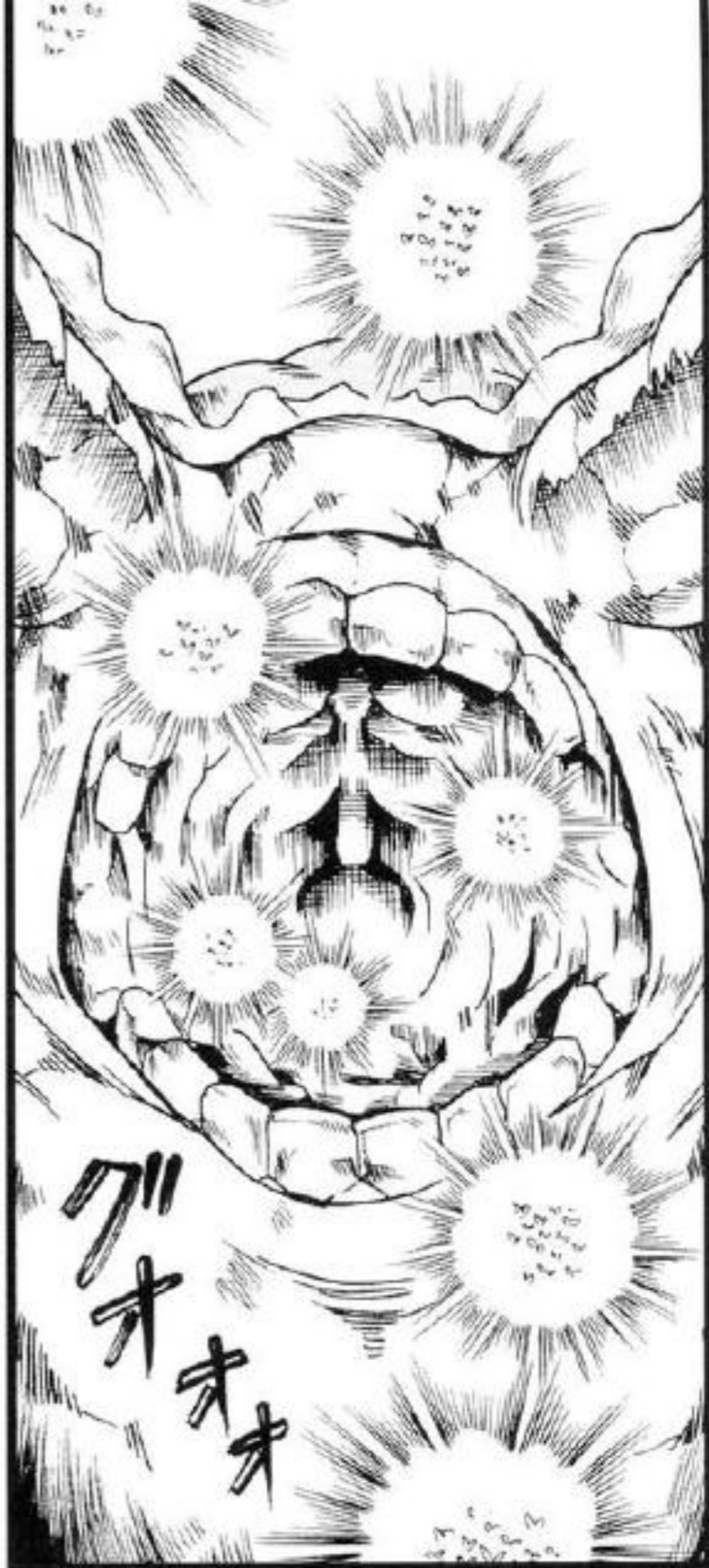
ドカ

どうして!?
さっきまでは一匹も
居なかったはず



こ…こいつ
体の中に大雷光虫を
飼っているのか？

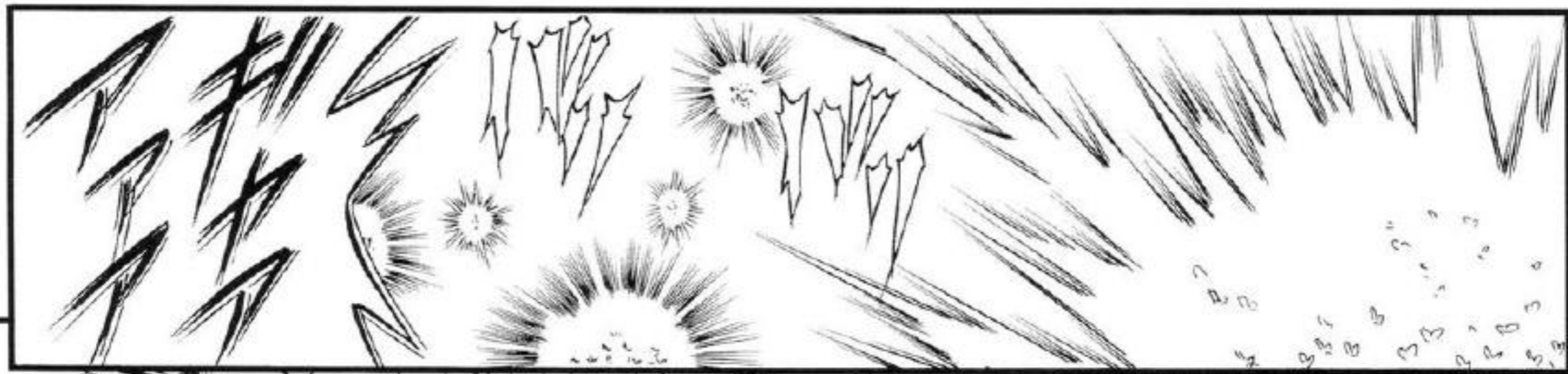
なんて数だ
こんな大量の大雷光虫に
群がられたら



カオオオ



死



ビクッ

ビクッ

ビクッ

チヨロ
チヨロ



ビクン
ビクン

あがっ

が……

あ……が……



体中が痺れて
……痙攣が止まらない



あ……あ

早く……
早く逃げないと
まずいのだ



体が動かな

はっ

ビク

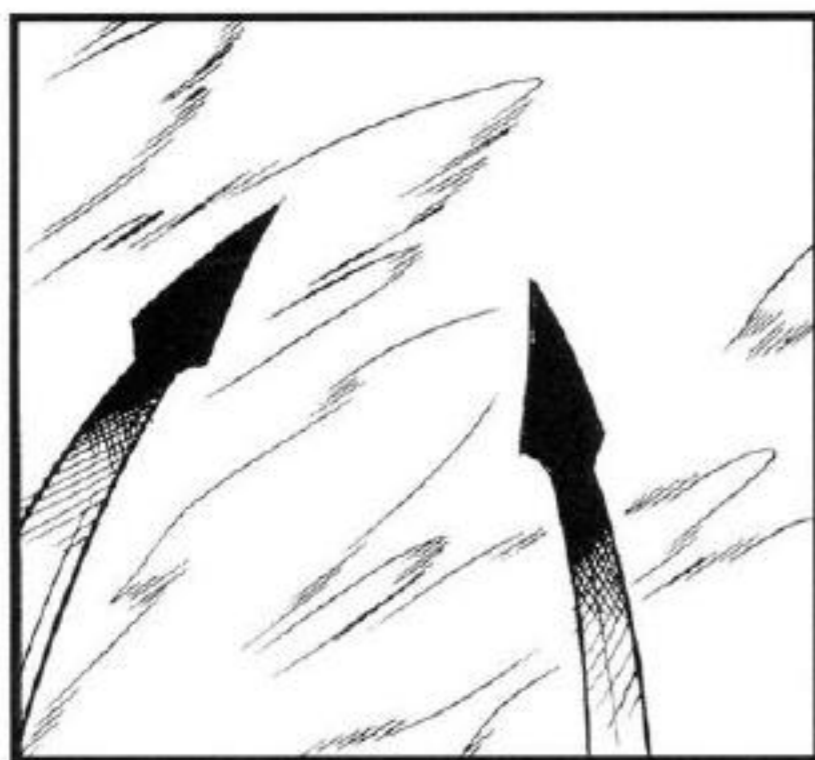
ビク

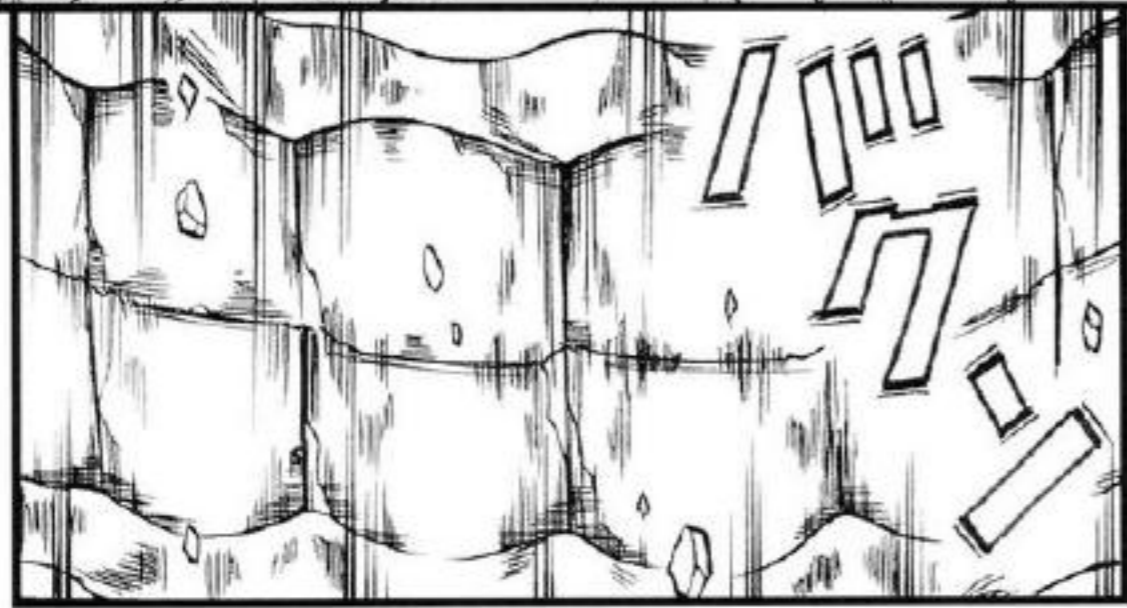
ス……

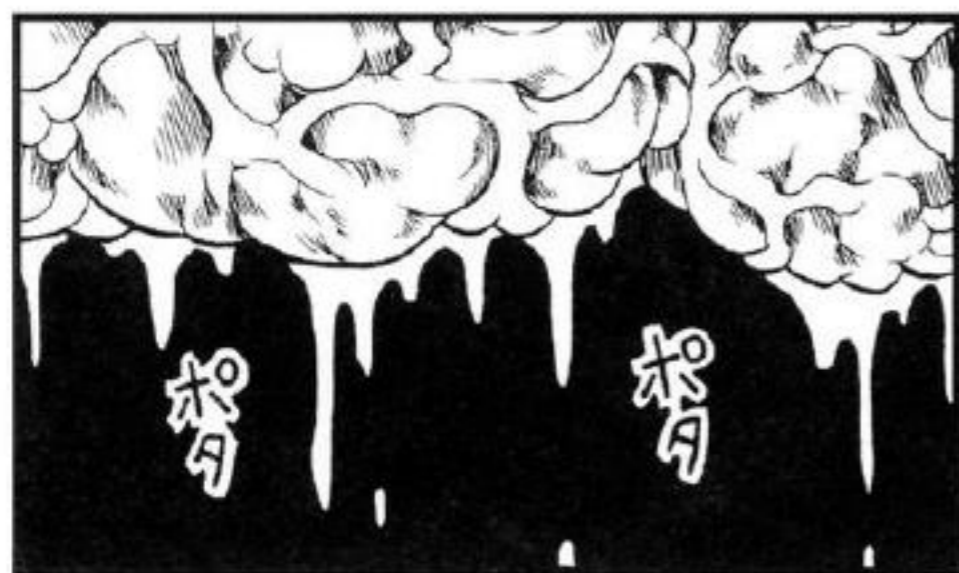
はっ

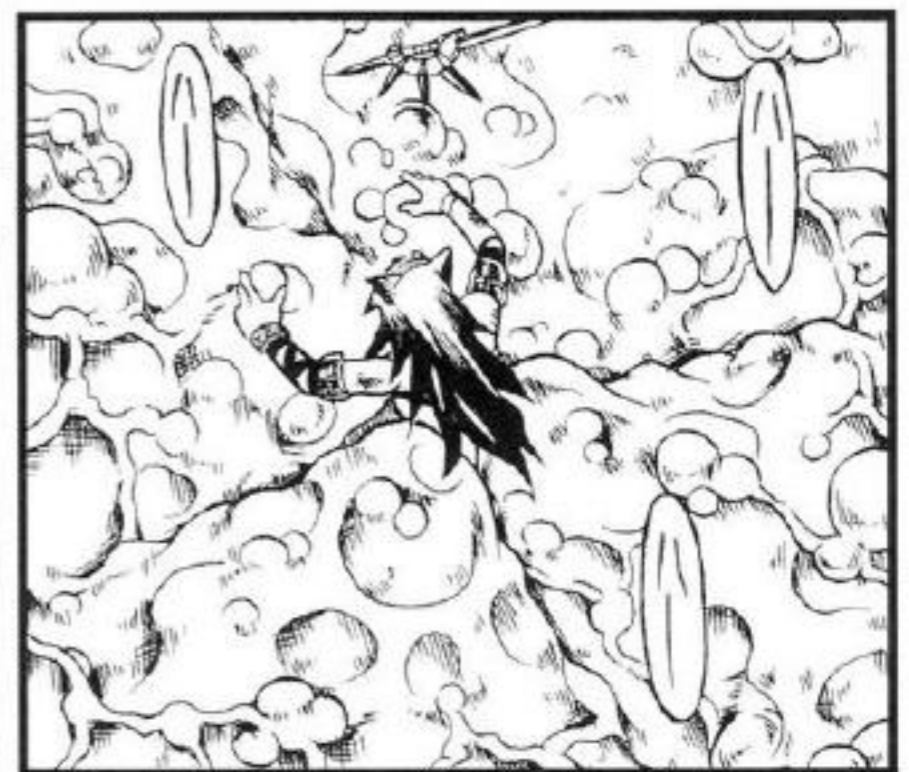
ゴクゴクオオオ









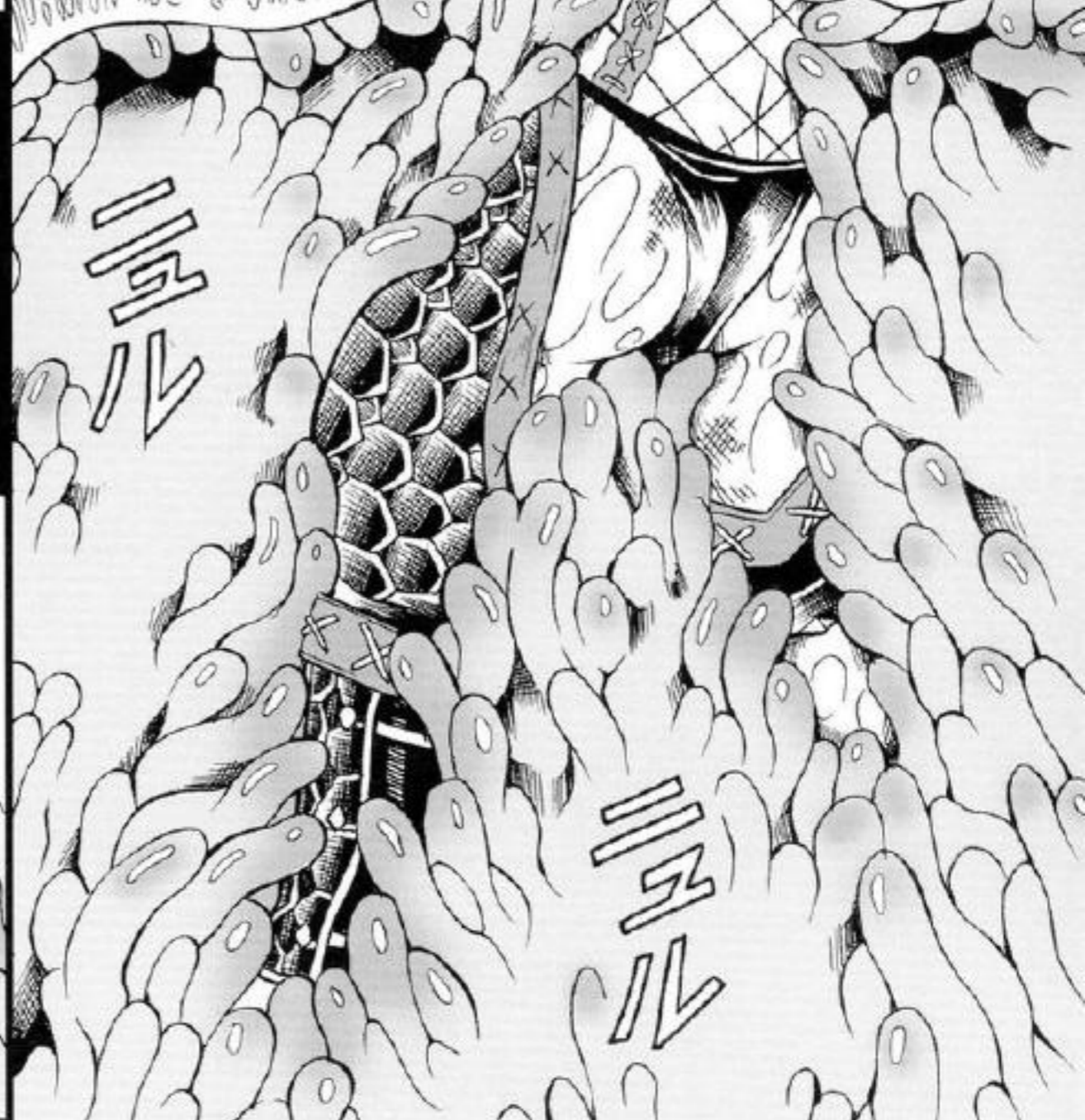




いや……気色悪いと言っより……むしろ



細かい突起が肌に絡みついてきて……心地いい



ここはモンスターの体内なんだぞ！早く脱出しなければ消化されて死ぬんだ！

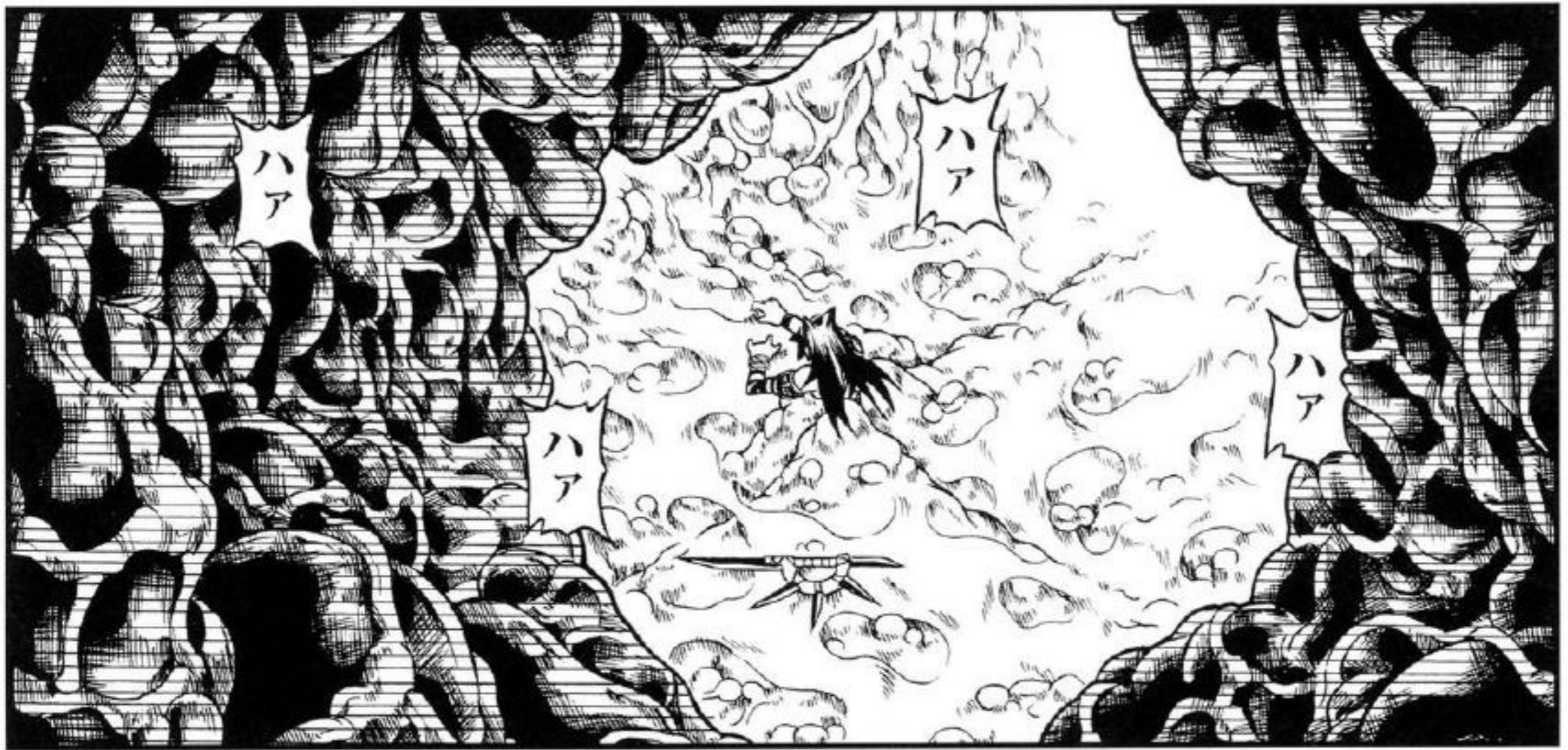
しっかりしろ！私はハンターだぞ！！

な、何を考えているんだ私は！！

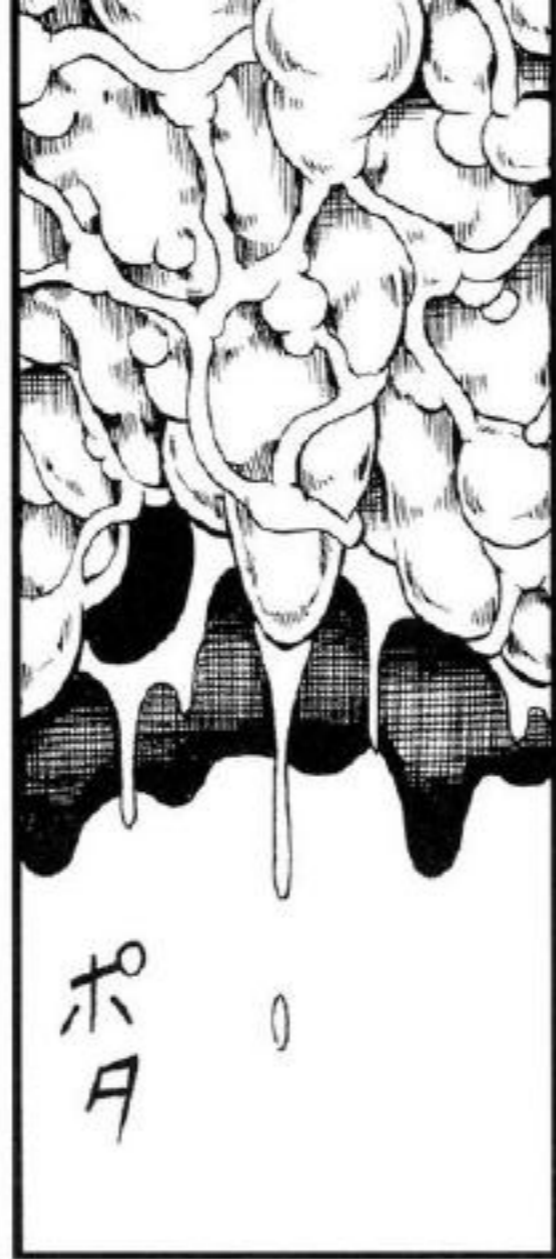


あつ

はあ

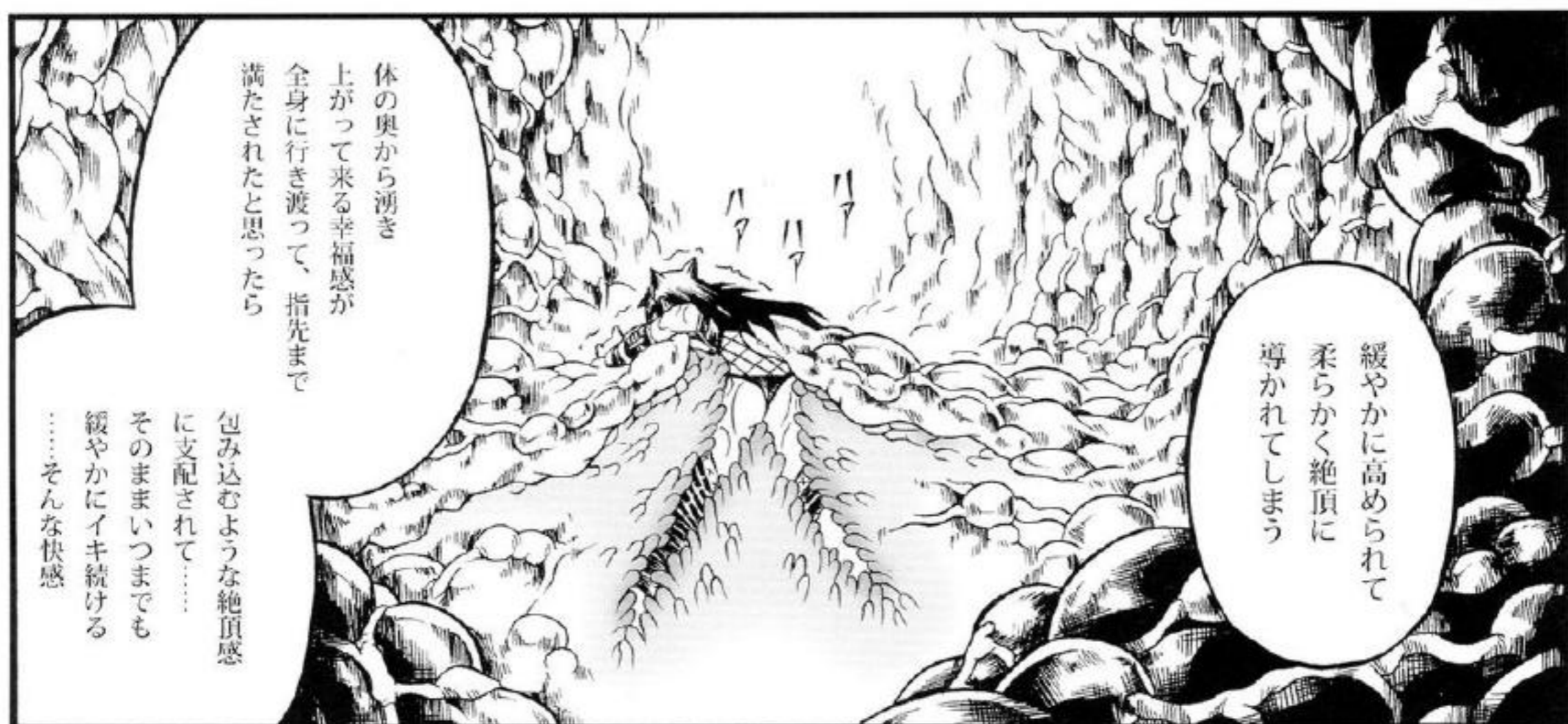








す…凄い
こんなに優しい絶頂は
初めてだ



緩やかに高められて
柔らかに絶頂に
導かれてしまう

体の奥から湧き
上がって来る幸福感が
全身に行き渡って、指先まで
満たされたと思ったら

包み込むような絶頂感
に支配されて……
そのままいつまでも
緩やかにイキ続ける
……そんな快感



もう一回……
もう一回だけ……

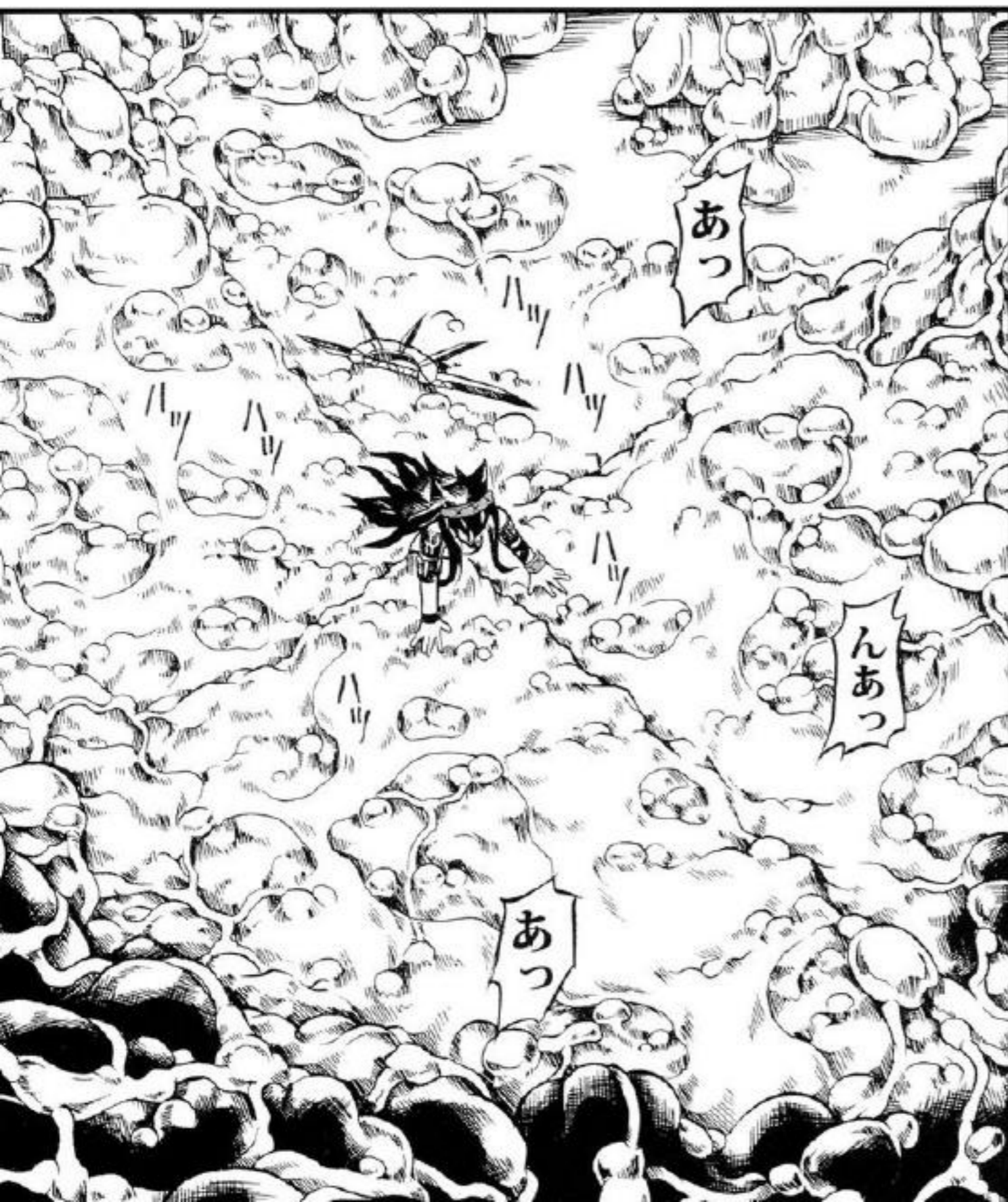
後一回イッたら脱出しよう
大丈夫、武器は手の届く所に
あるんだから



こんな事人間には
絶対に真似出来ない
今しか味わえない
至高の悦楽だ

ちゅむ

ちゅむ





あああ
あああ
あああ



ヤマツカミは雄の
個体しか居ないん
だって

でもそれじゃ
繁殖出来ないでしょ？
だからヤマツカミは
特殊な方法で子孫を残すの

特殊な方法？





はあ

はあ

はあ



ああ...いい...
これいい...



肌にはゆるにゆるの
突起が優しく
絡みついてきて

指の先端まで
体中くまなく
満たされていく

ニユル
ニユル
ニユル



あ

あん

はあん

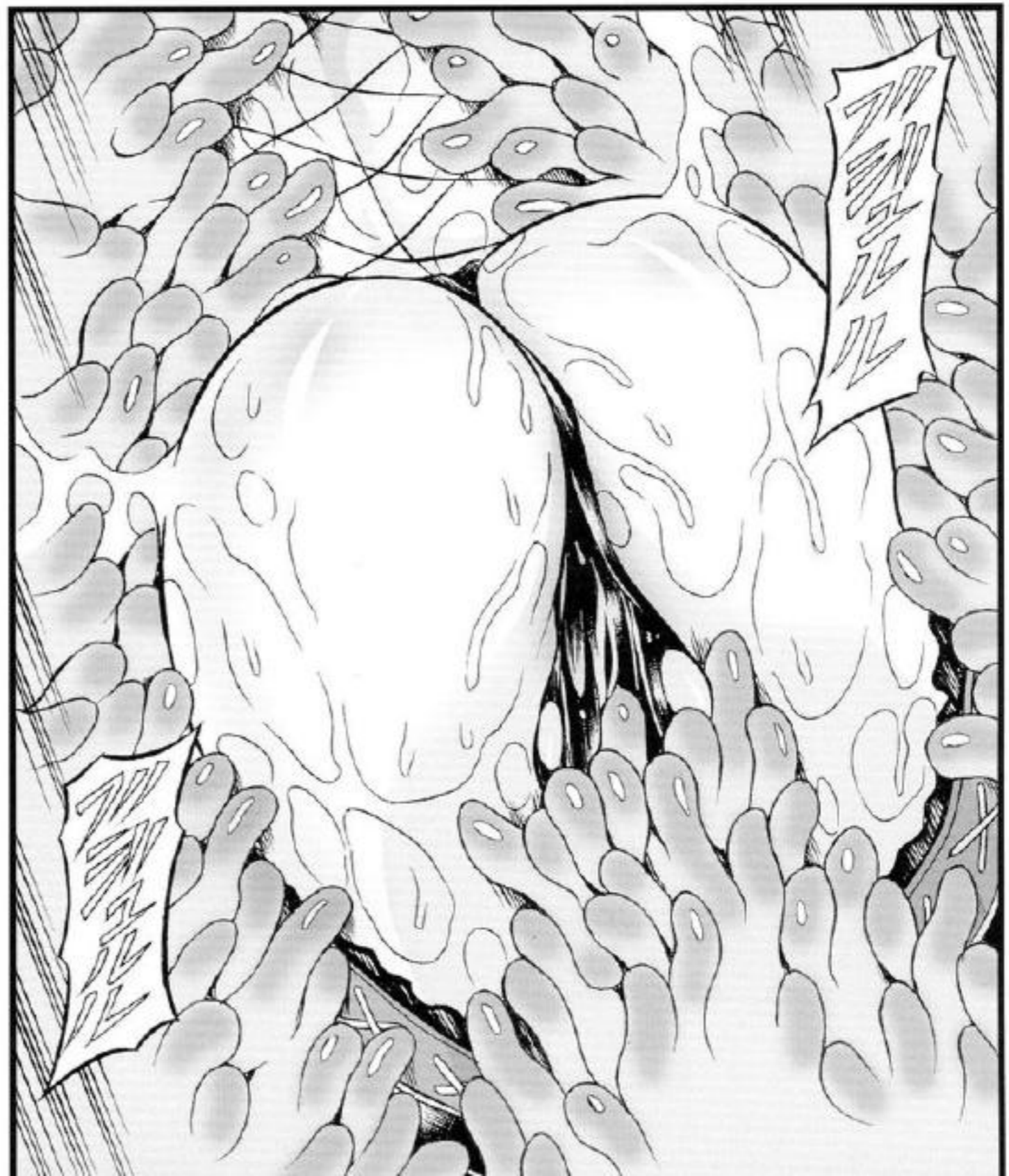
モニユ

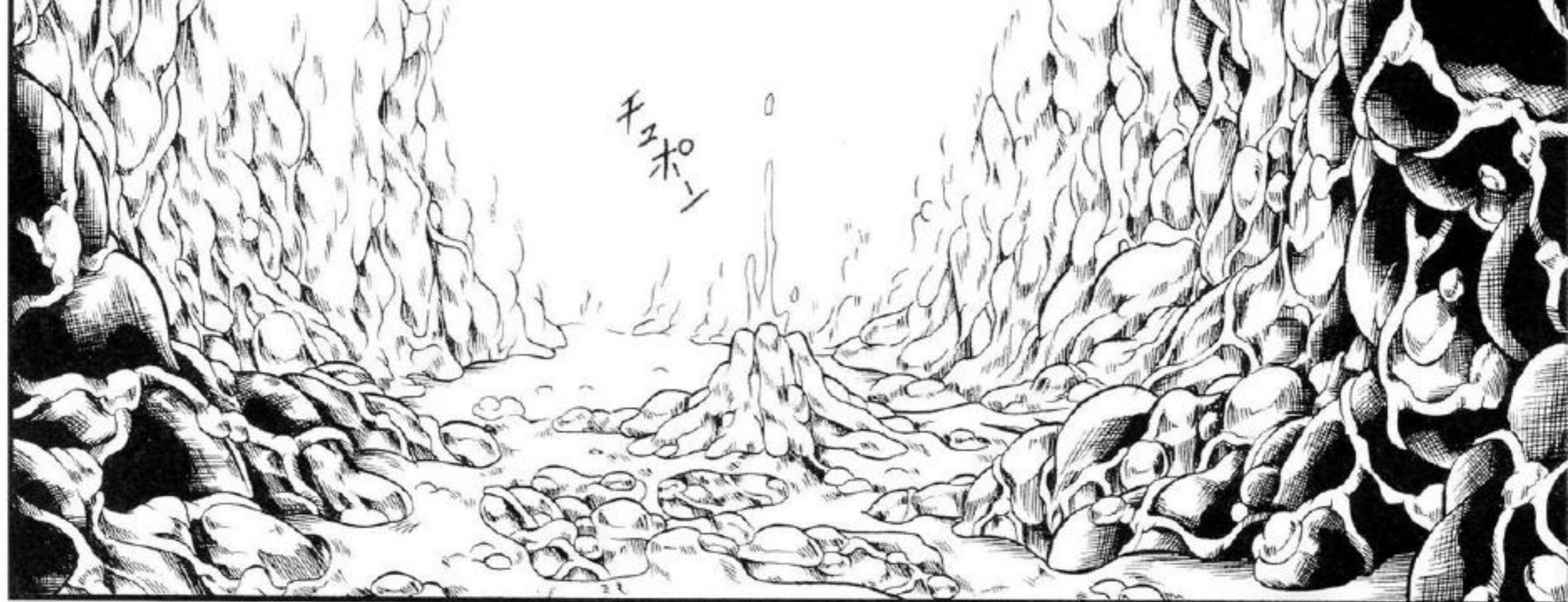
んんん

モニユ

モニユ

まるで天国に
いるみたい





キョホン



ぐにゅ

ダメ!!
このままじゃダメ!

ぐにゅ

凄い力で吸い込まれてる
私、消化されちゃうの!?

ぐにゅ



ダメなのに

あつ

ああ



んああ

ムルムル

んんああ

ああ

うぞ

うぞ

うぞ

ムルムル



おんえおんえ
あああ

ドロ

ドロ

ドロ

なんでこんな
気持ちいいの!!

アガ

アガ



はへっ

やめへえ

やめへえ
ええええ



ひやびやあ
ああああ

フキユル

狂っひやう

狂ひやう
はらああ

あびいいい
いいいいい

ウネ

ウネ

イグッ

またイグッ
うううううう

んおっ

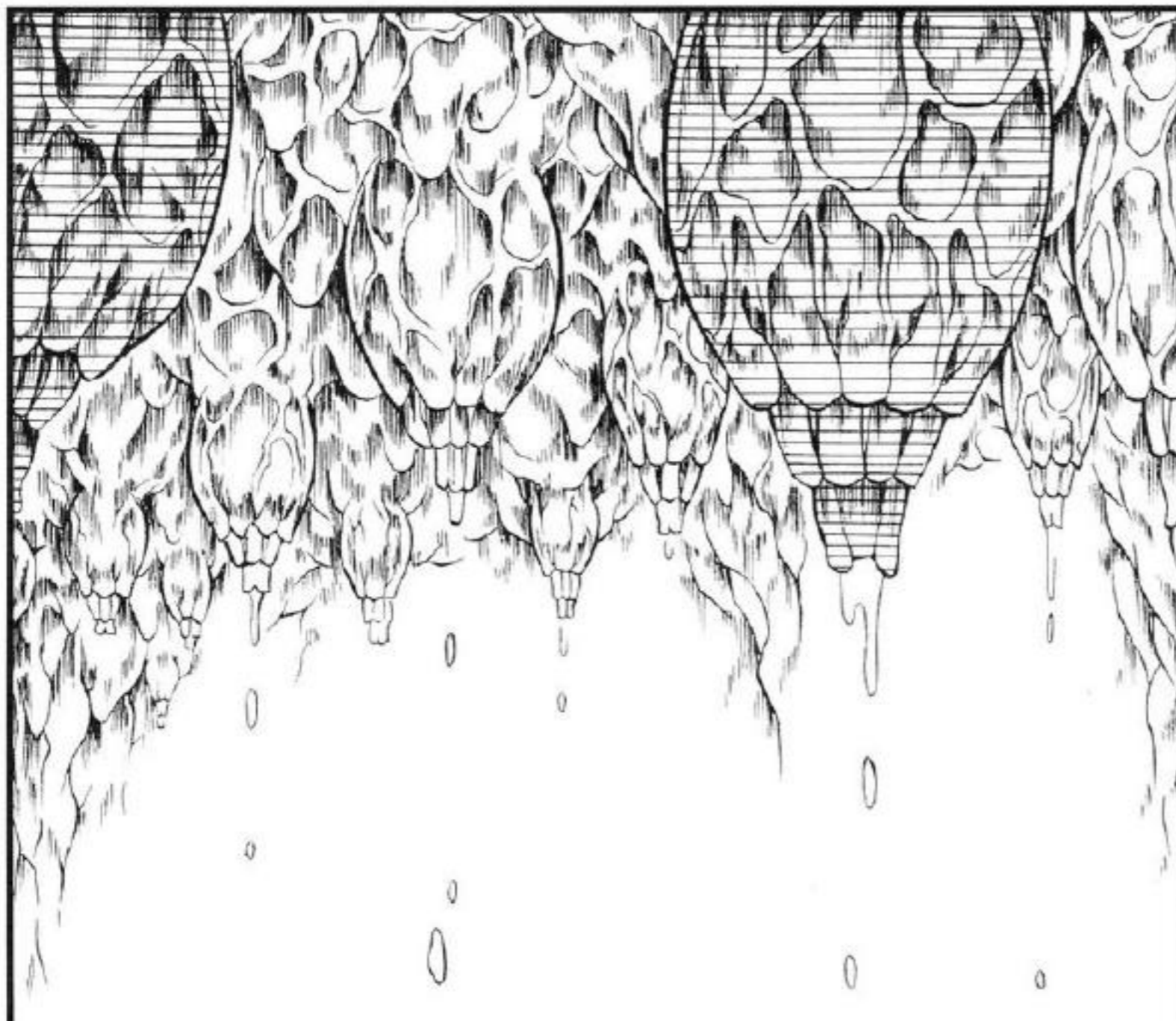
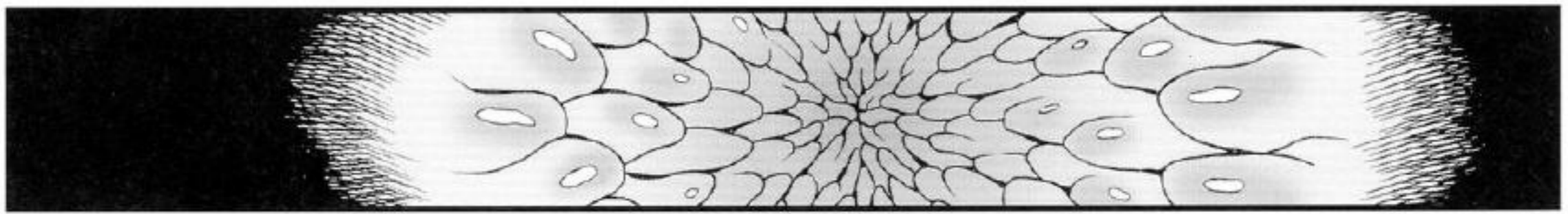
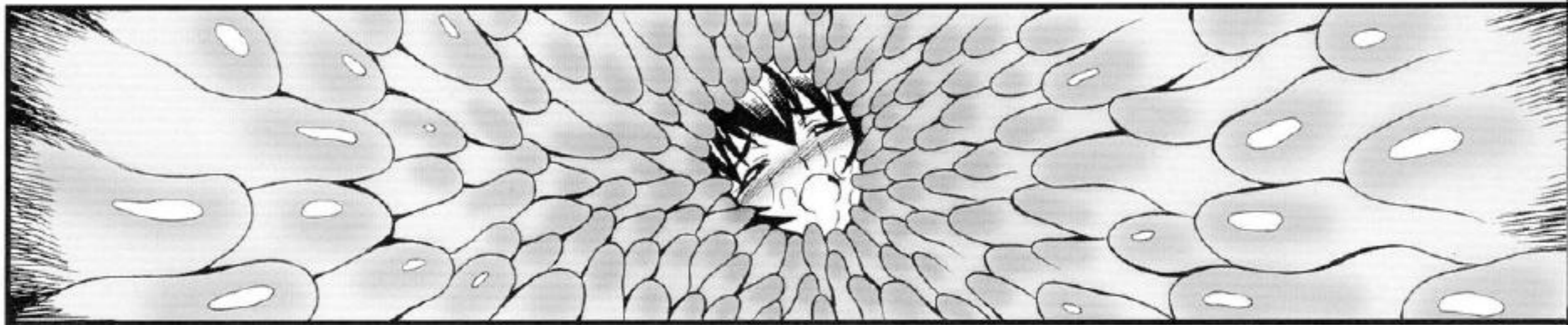
おお

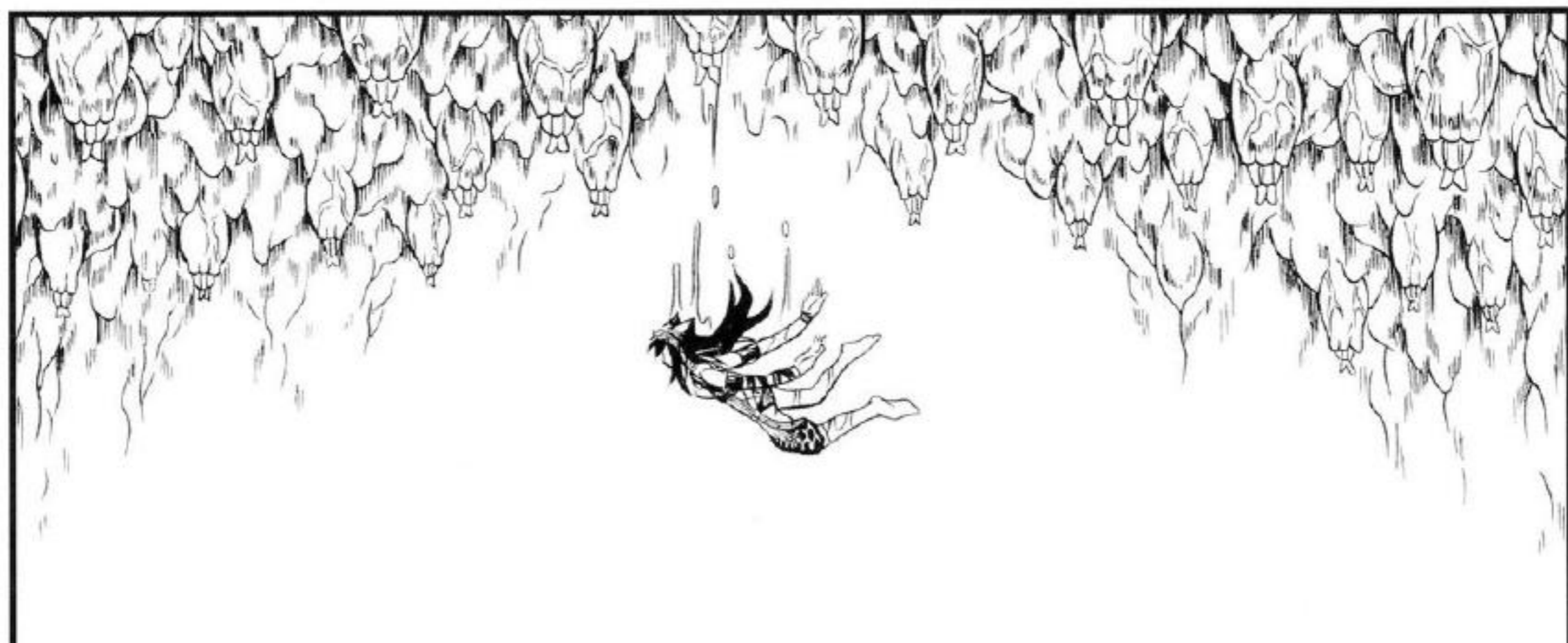
おっ

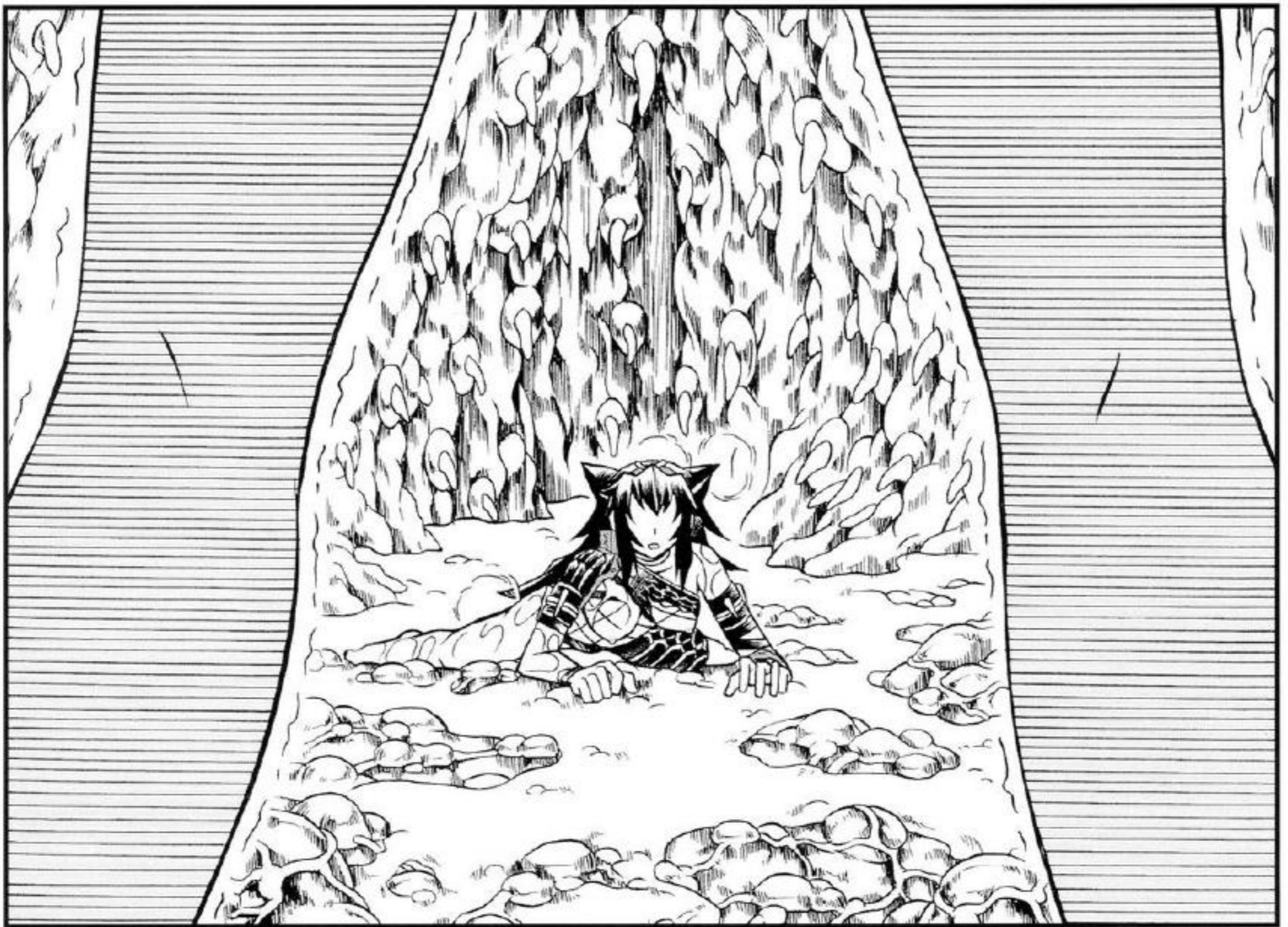
あたまおかしく
なりゆうううづ
づうううううう

ぐんぶぐんぶ
うらうらうら









to be continued



前回のあらすじ

一人のハンターによって命を救われた主人公は、彼女への憧れを胸にハンターとして成長を遂げる。

「もう一度逢いたい」

成長した自分を見てほしいのか、尊敬の念を伝えたいのか、共に狩りに出たいのか、あるいはその全てか。

それは主人公自身にも分からなかった。

ただ、崇拜にも近い憧れは主人公を駆り立て、あの日自分を救った美しいハンターの背中を追わせた。

主人公は彼女の足跡を辿り、各地を放浪する。

そんな主人公に、憧れのハンターが樹海で消息を断ったという話が飛び込んできた。

彼女の敗北など考えられない主人公は、真実を確かめに樹海へ向かい、巨大なモンスターに遭遇する。

古龍ヤマツカミ

ギルドでも一部の人間しか知らない古の巨龍。

主人公がその存在を知る筈も無かった。

油断と過信。生態も知らない龍に準備もなく挑むという愚行を犯した主人公は巨龍の体内に取り込まれてしまう。

体内の消化器官で目を覚ました主人公は脱出を試みるが、肉壁に体を絡めとられ、動きを封じられる。

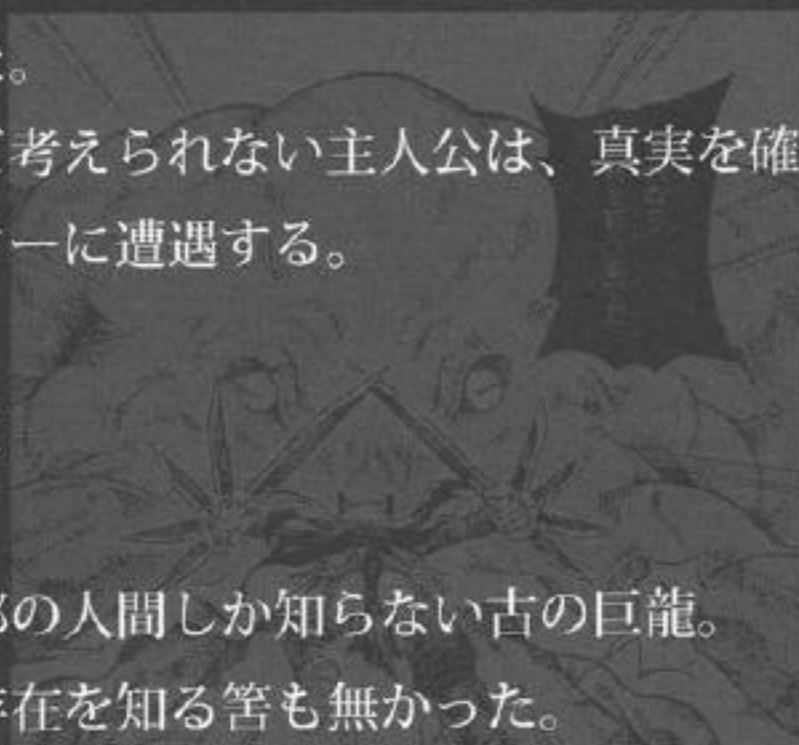
肉壁はまるで愛撫をするかのように主人公の体に優しい刺激を与え、主人公の正常な思考を奪っていった。

「もう少し……もう少しだけ」

快楽に抗えない主人公は、自ら肉壁の奥へ体を差し出し、更なる快感を得ようとする。

その時、消化器官全体が強烈な蠕動運動を始め、主人公は強烈な力で奥へと引きずり込まれてしまう。為す術も無く、更に奥の器官に引き込まれる主人公。

顔を上げた自身の目に写った物は……







あの人は

711
16

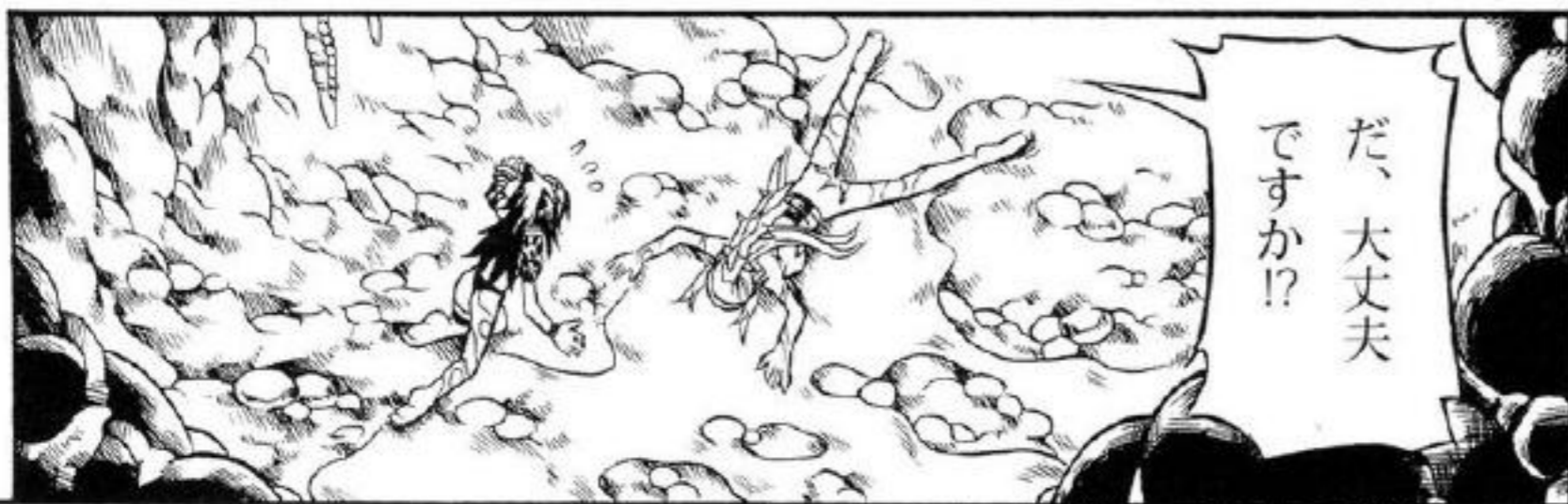
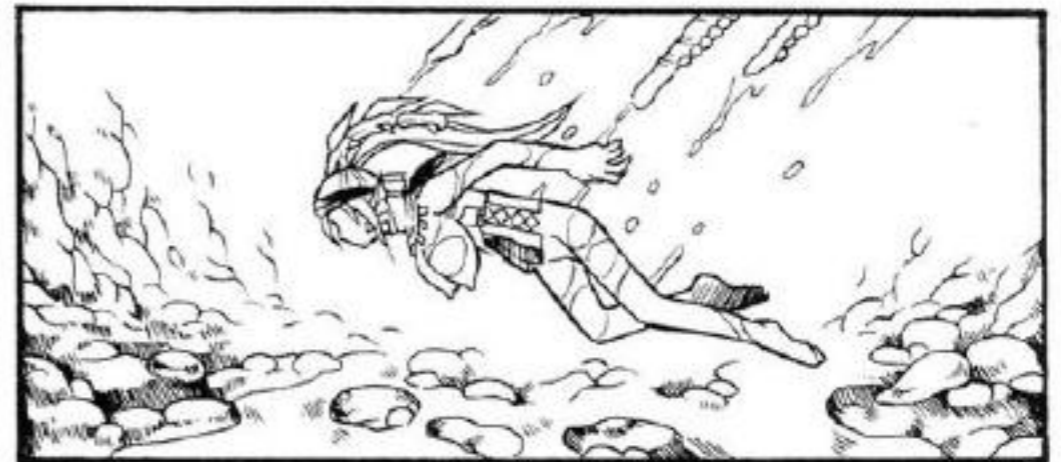
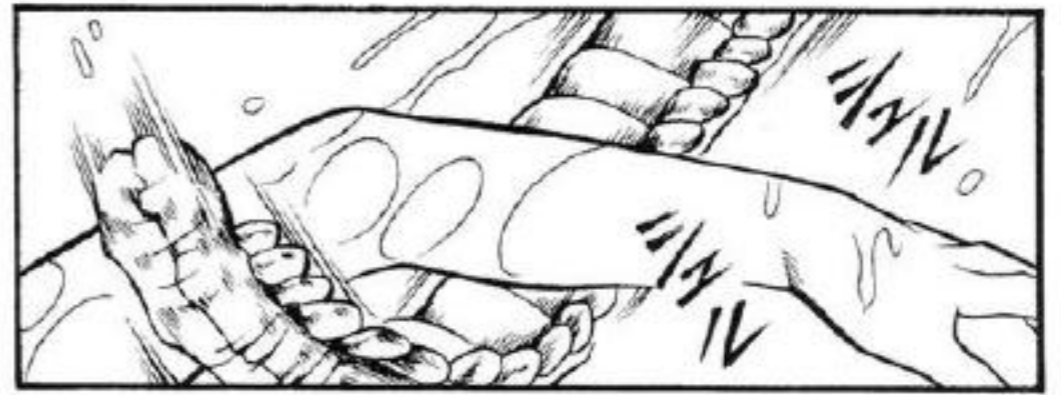
711
16

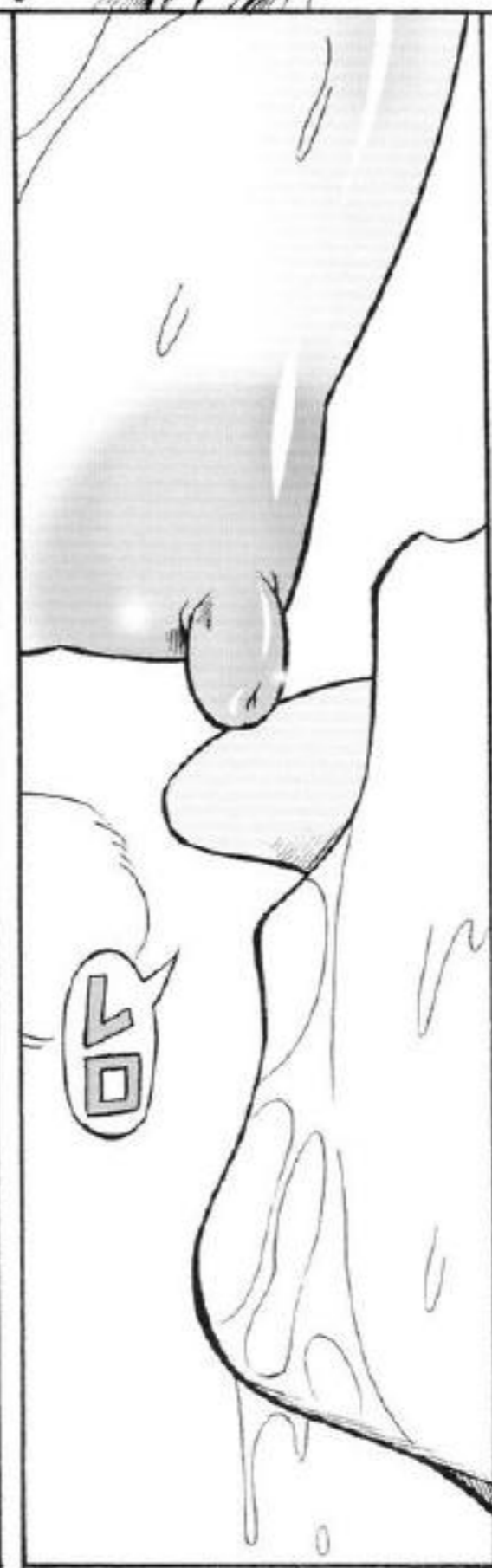
711
16

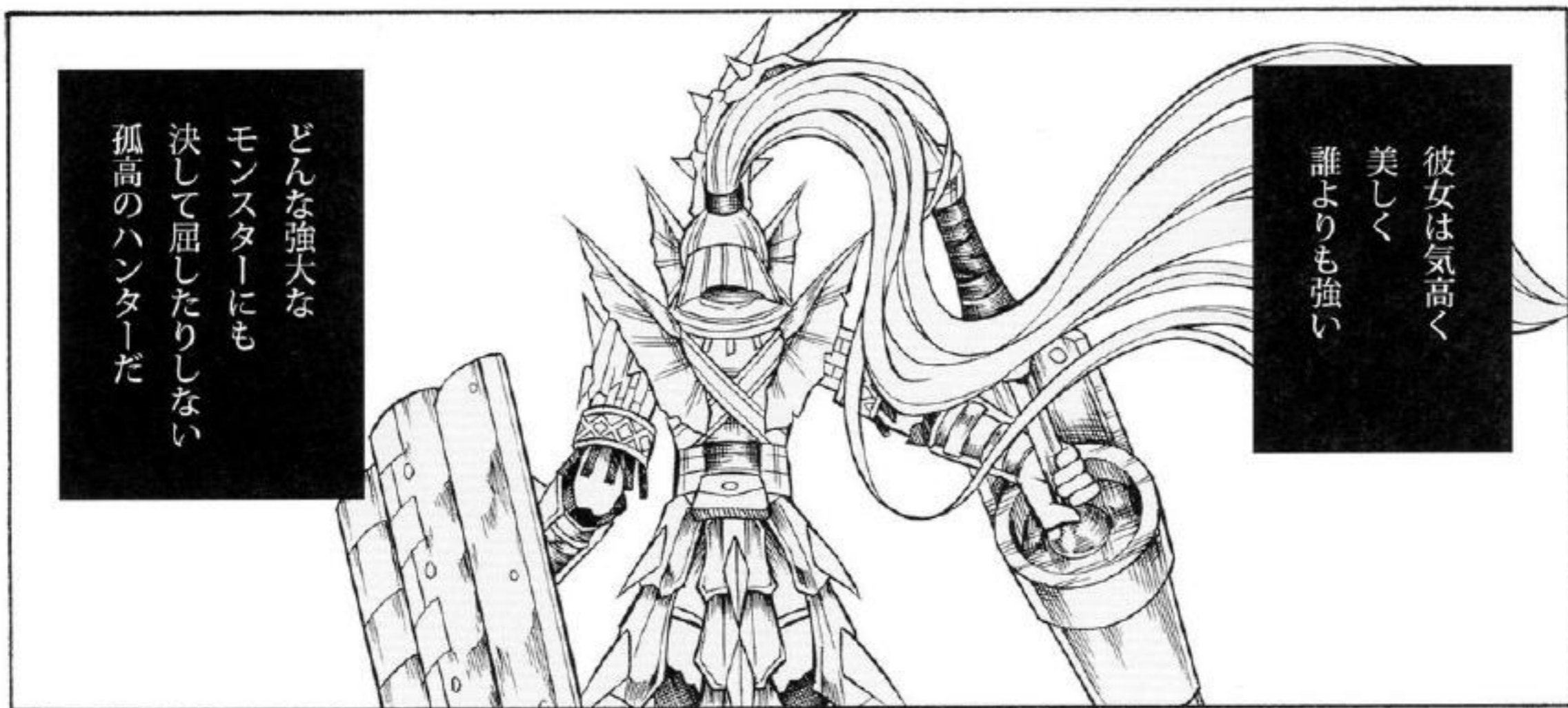
711
16













クリクリ
貴女も胃袋からきたのでしょう？

あそこは雌を振り分ける器官でもあるのよ



ハア
ハア
貴女、おかしな事を言うのね



あ、あんたハンターだろ狩るべき相手の腹の中でよがり狂って恥ずかしくないのか？



はあ
戦いを放棄して快楽に身を任せた雌だけがここに送られて来るの

はあ
外に出ようと足掻いていたら今頃強力な消化液で溶かされている頃だわ

はあ
貴女だって剣を捨てて快楽を甘受する事を選んだはずよ



ち、違う！
私はそんな愚かな人間じゃない！

私は



ハア
ハア
もぞもぞ
心当たりがあるのではなくて？

これで
本当に最
もつと



尊敬していたのに



私は
アンタの事を
……



どこへ行くの？

こんな所に
居たくない!!



ホッ

メス豚が



いずれにしろ
通ってきたルートを
戻るわけにはいかない以上
ここしか無い



肉壁に
切れ目がある

隣の臓器に行けるか？
それともただの窪み？





……かつ

……んか



ハ
サ
ツ



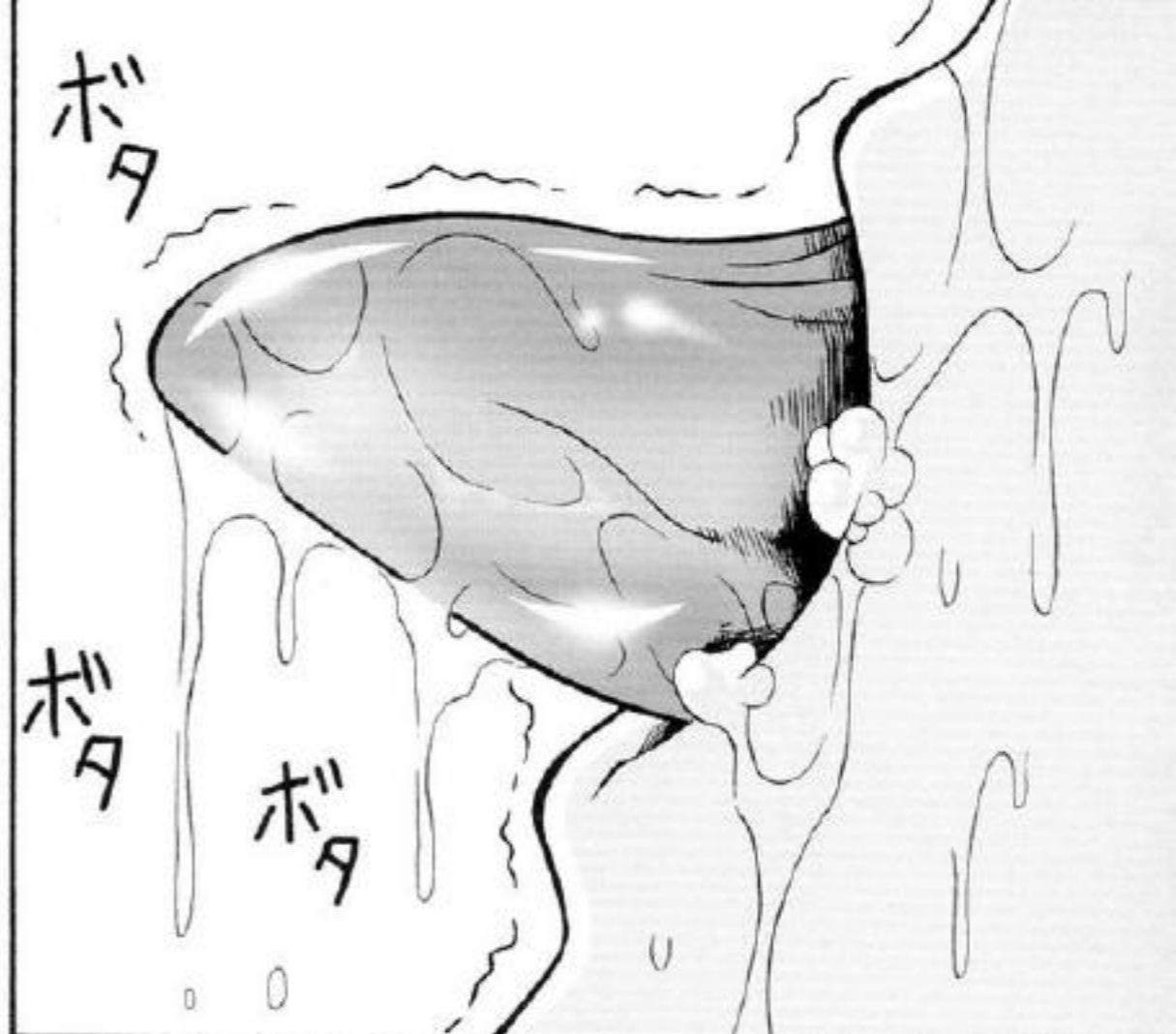
肺も喉も痙攣して
息が吸えない

苦しい
せめて、せめて
呼吸を



カ
ヒ
ッ

何なんだこのガスは！
まるで全身を
砕かれるような激痛だ







キユゴ

キユゴ

ブルブル

……んかつ

ブルブル

神……さ……ま……

……んかつ



ゴッ

ゴッ

ゴッ



フヨ

ボタ

ボタ



モッ

モッ

グワウウウ







な、何を!?

ウフフ、当たり前よ
ここは体の中で一番大事な
器官だもの

ねろ...



生殖器よ、貴女にも
あるでしょう?

クチ
クチ

や、やめ
やめろ
触るな!!



ニユルル

感じやすいのね
もうヌルヌルに
なっているわ

素敵な体ね
ここではその方が
幸せになれるもの

やめろ!

ボクッ

ボクッ

教えてあげるわ
貴女がこれから
どうなるのか

やめ...
やめてえ!!

第一段階は触手が貴女の体に絡みついて性感帯を刺激するの気が狂うほど何度も絶頂に導かれるわ

性器と肛門に凝縮されて結晶化した高濃度の性フェロモンの塊が挿入されるわ
その塊は体内で融解して強烈な悦楽と共に女体に変化をもたらす

そのうち貴女の体は触手快楽の中毒になるの
与えられる快感の事以外何も考えられなくなって
毎日絶頂を繰り返すだけの存在になるわ
脳が快楽に抗えなくなったら第二段階

ウフフフ
素敵でしょう？

この古龍の卵を育てる事ができる体になれるのよ

へ…変化？

な!?

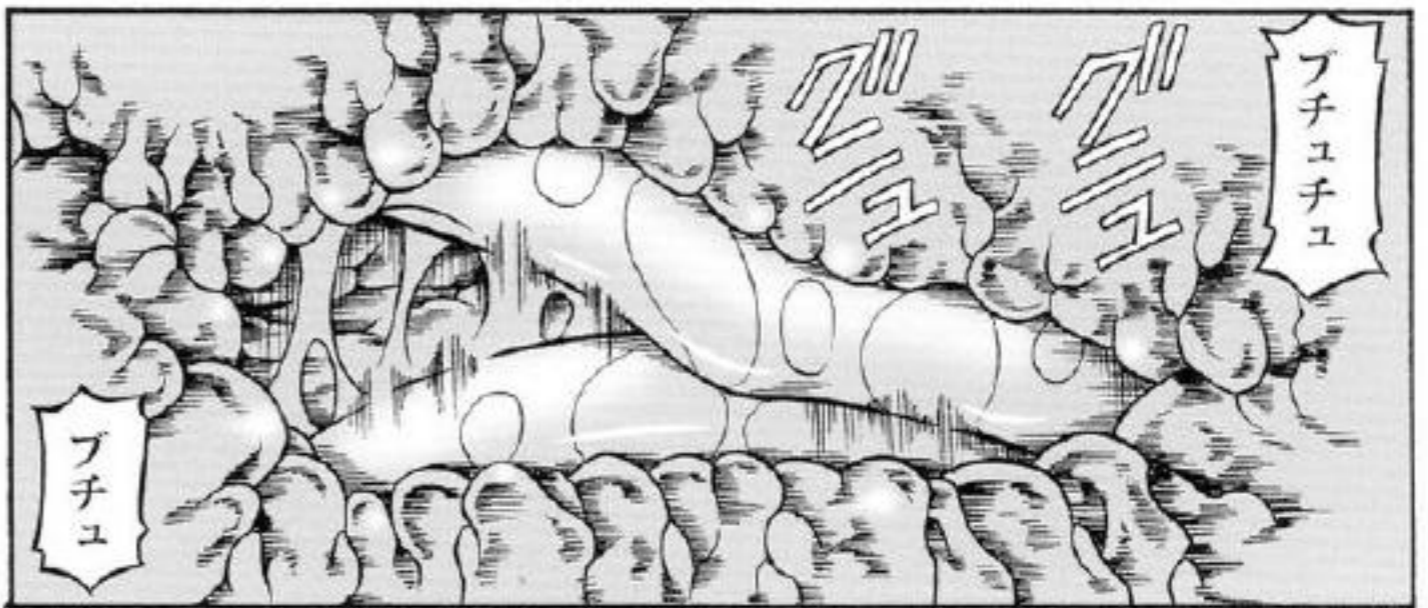


グリグリ

きゅきゅきゅ



だ、ダメ
いっ!!



プチュチュ

プチュ



あら、イッたのね
やっぱり敏感な体ね
こんなに早く
絶頂出来るなんて

んくっ

んくっ

ゴクゴク

ゴクゴク

プッ

プッ

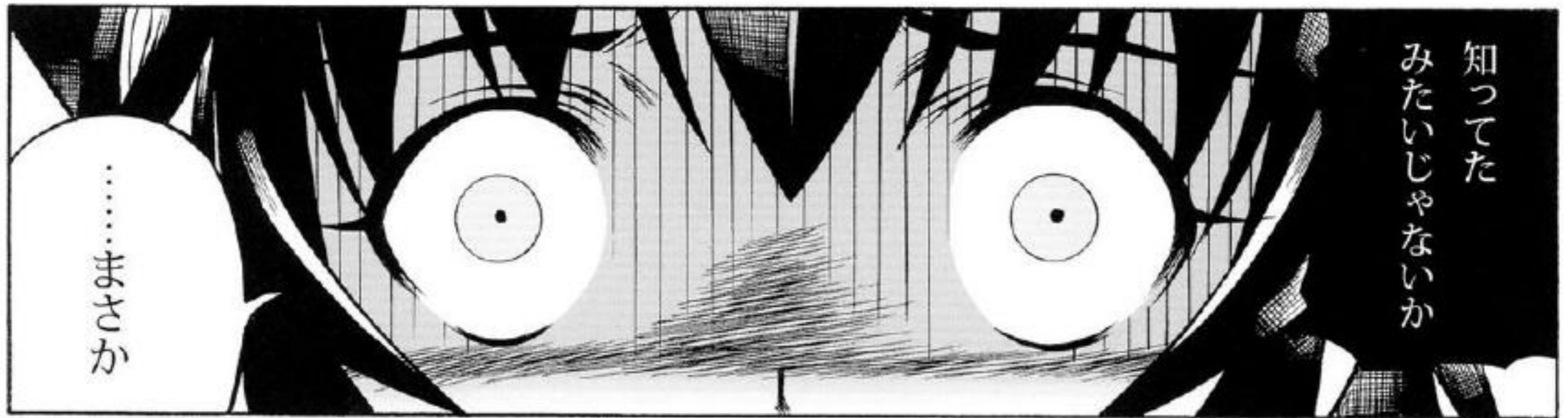


ち、違う！
イッてなんかいない



私はアンタみたいなの
最低のハンターに
イカされたりしない

大体何なんだアンタは
どうしてそんなに詳しいんだ
おかしいじゃないか
それじゃまるで——



知ってた
みたいじゃないか

……まさか



……快樂の為に



アンタ……
知ってたのか？

全部分かってて
ここへやって来た？



それじゃあ
私は……

私は
何の為に……

勘がいいのね
貴女

この古龍の事を
知ってから何ヶ月も
探し回ったわ

お察しのとおり
わたしは自分から
喰われに来たのよ

なんで……

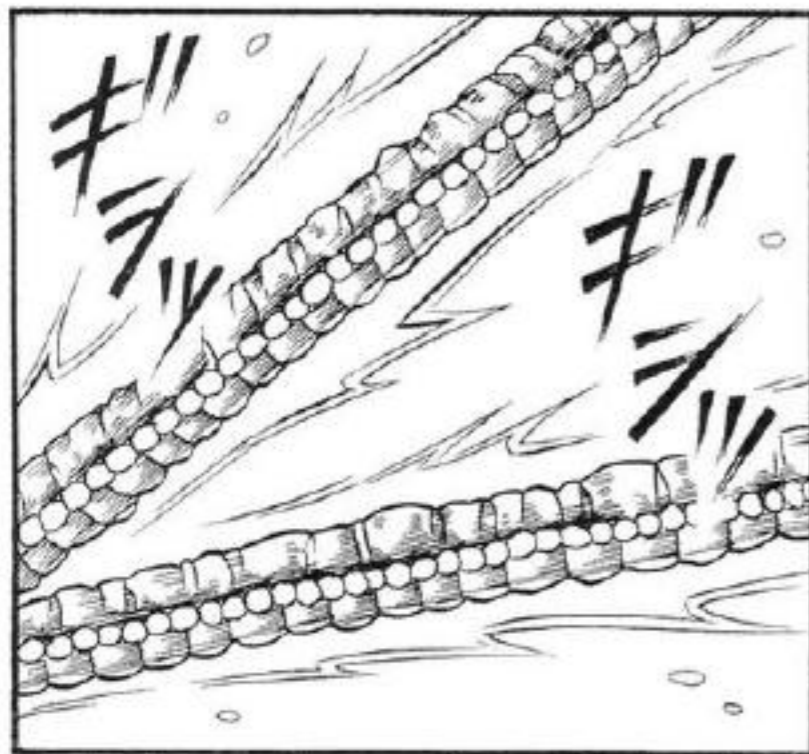
なんでよう……

大丈夫、貴女もすぐに
わたしの気持ちか
分かるようになるわ

快樂の事しか
考えられない
牝の気持ちか

クニユ

クニユ







苦しい
首が折れそうな程に
締め上げられて
呼吸が出来ない



体は動かず、息も吸えない
私に許されているのは
涙と涎を垂れ流し
心の中で命乞いをする事だけ

舌の先まで痺れてきて
少しずつ意識が薄れていく

苦しくて仕方が
ないはずなのに

霞がかかる意識とは裏腹に
弄ばれる性感帯からの
快感が無尽蔵に私を
高めていく

本来ならとつくに
絶頂を迎えている
はずなのに

まるで何かのリミッターが
外れたかのように
際限なく快感が高まって
しまう

ギリリ

カクン

ズクズク

カクン

ズクズク





ブポッ

ブポッ

ブポッ



だぐかつ

んかつ

んかつ

ガッ

苦しさが無くなって
脳が快樂で
満たされていく



かつ

んかつ

私、このままじゃ
死ぬのに
体中が幸福感に
包まれてしまう



ダ、ダメ
意識が遠くなる

ガッ

ホッ

ホッ



幸せで幸せで
仕方がない

この世にこんな
悦楽があるなんて
知らなかった

早く逝かせて欲しい
その瞬間にはきつと
至高の幸福が得られるのだ



逝かせてえ！

早く

早く

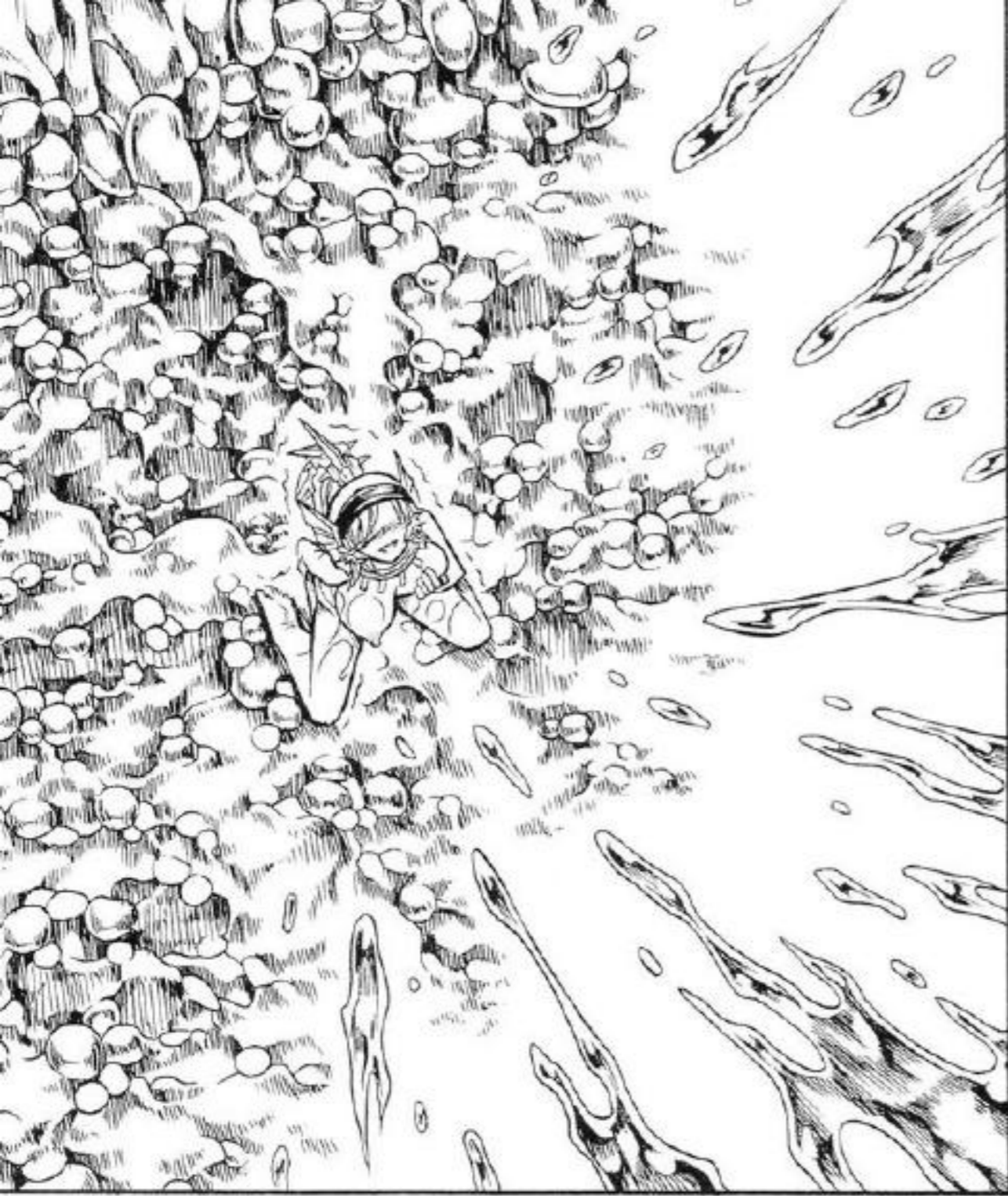
早く

早く

早く

私を逝かせてええ
ええええええ！！







樹海某所



しかし
随分集まった
もんね



報酬いいしね
古龍相手じゃギルドも
慎重にならざるを
えないって事じゃない？

にしても人数多過ぎよ
足の引っ張り合いに
ならないといいけど



大丈夫じゃない？
かなりランクの高い
ハンターばかりだし

ほら、あそこで
座ってるの
IONAよ



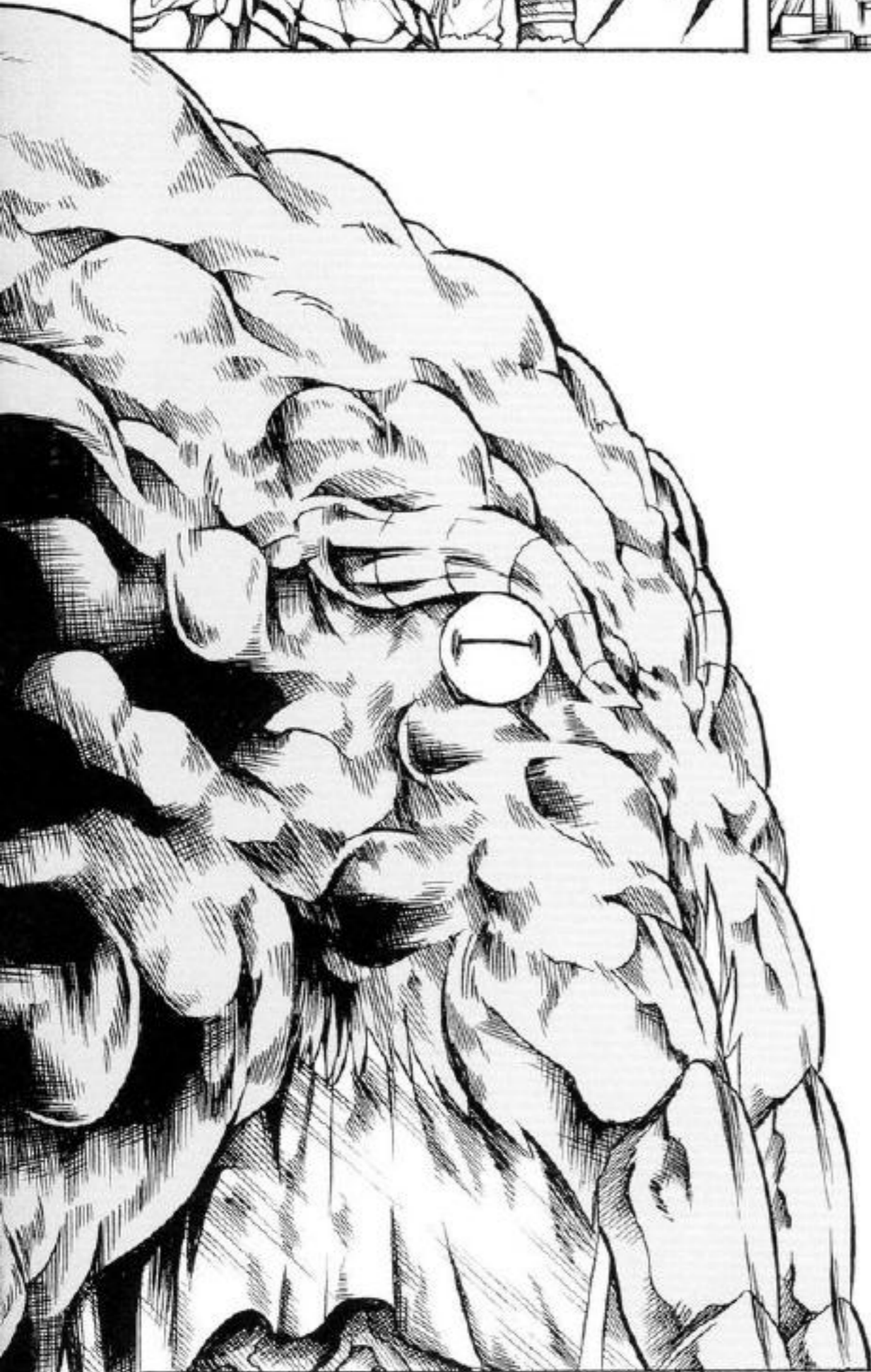
パーサーカー
IONA!?
女だったの!?

あつちで準備運動
してるのがGG



サムライGG?
死んだって噂百回は
聞いたわよ








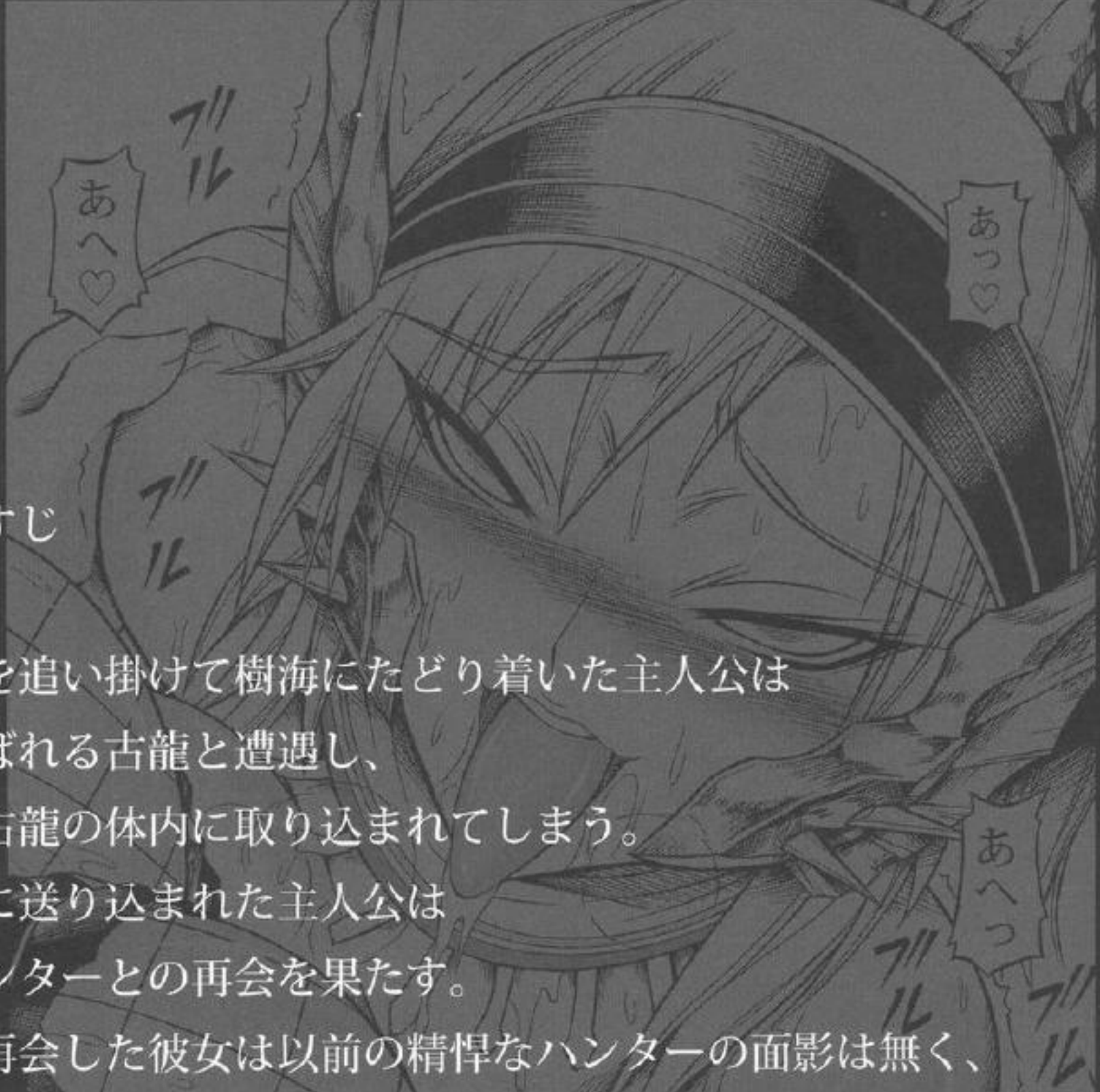
殺さなきや
いいんでしょ？

To be continued





前回までのあらすじ

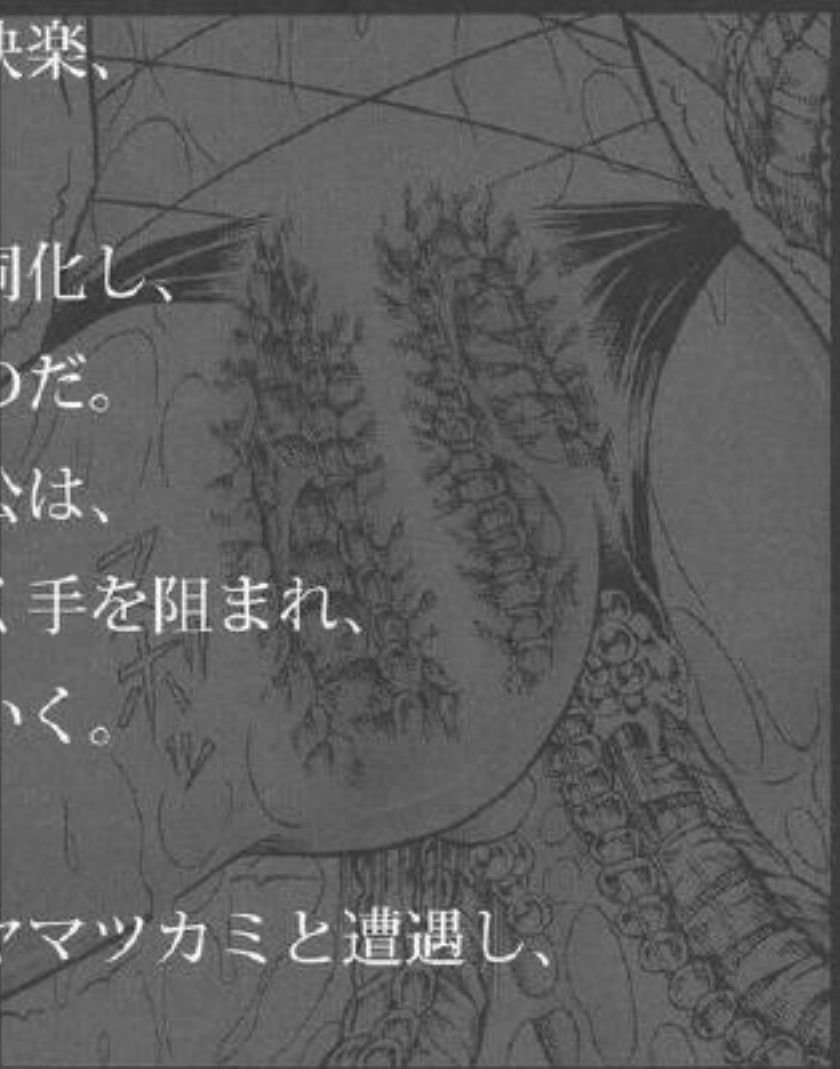


憧れのハンターを追い掛けて樹海にたどり着いた主人公は
ヤマツカミと呼ばれる古龍と遭遇し、
少しの油断から古龍の体内に取り込まれてしまう。

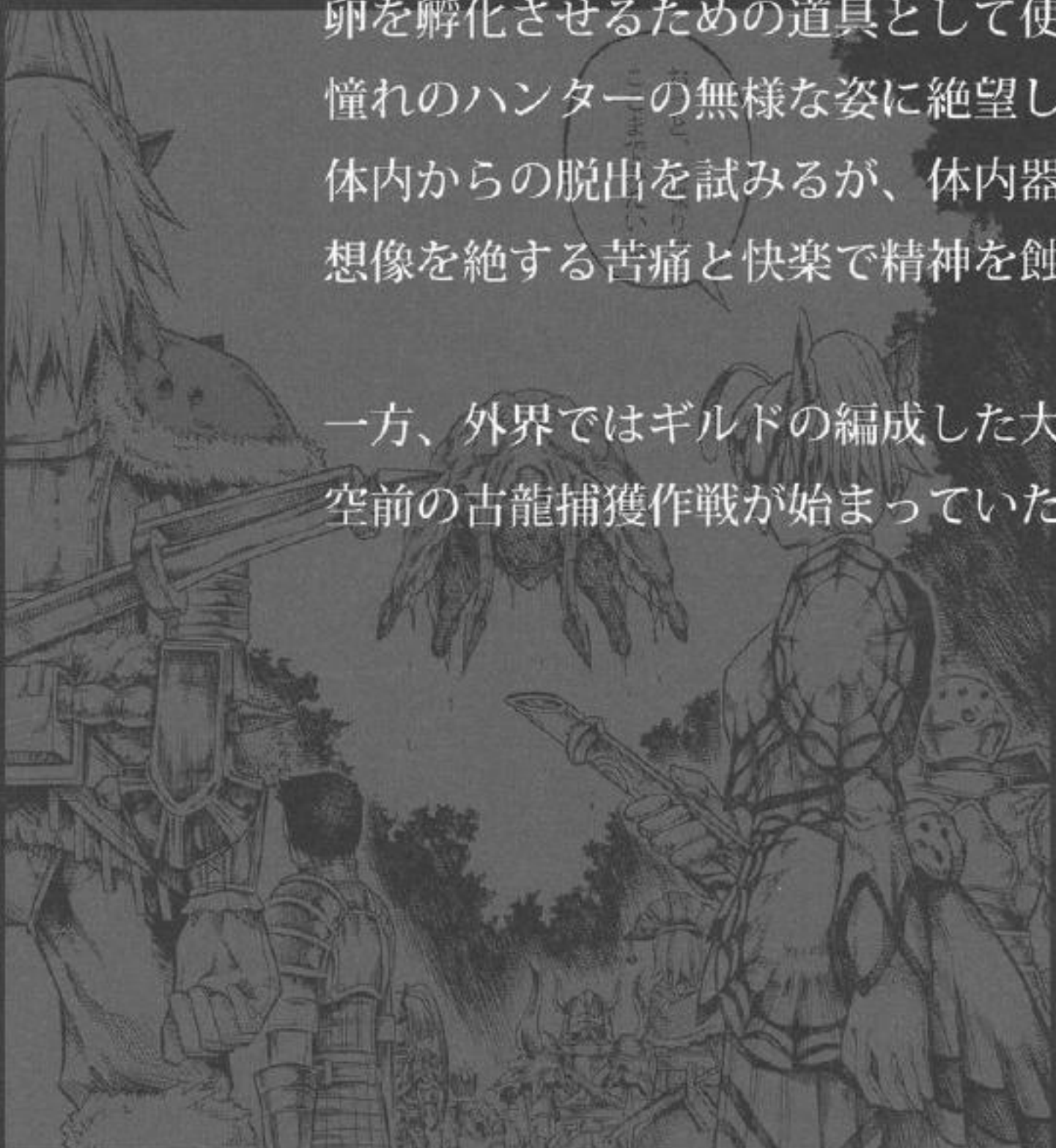
古龍の生殖器官に送り込まれた主人公は
そこで憧れのハンターとの再会を果たす。

しかし、そこで再会した彼女は以前の精悍なハンターの面影は無く、
快楽に打ちのめされた浅ましい牝の顔をしていた。


彼女は主人公にヤマツカミが与える人外な快楽、
牝としての究極の悦びを語る。



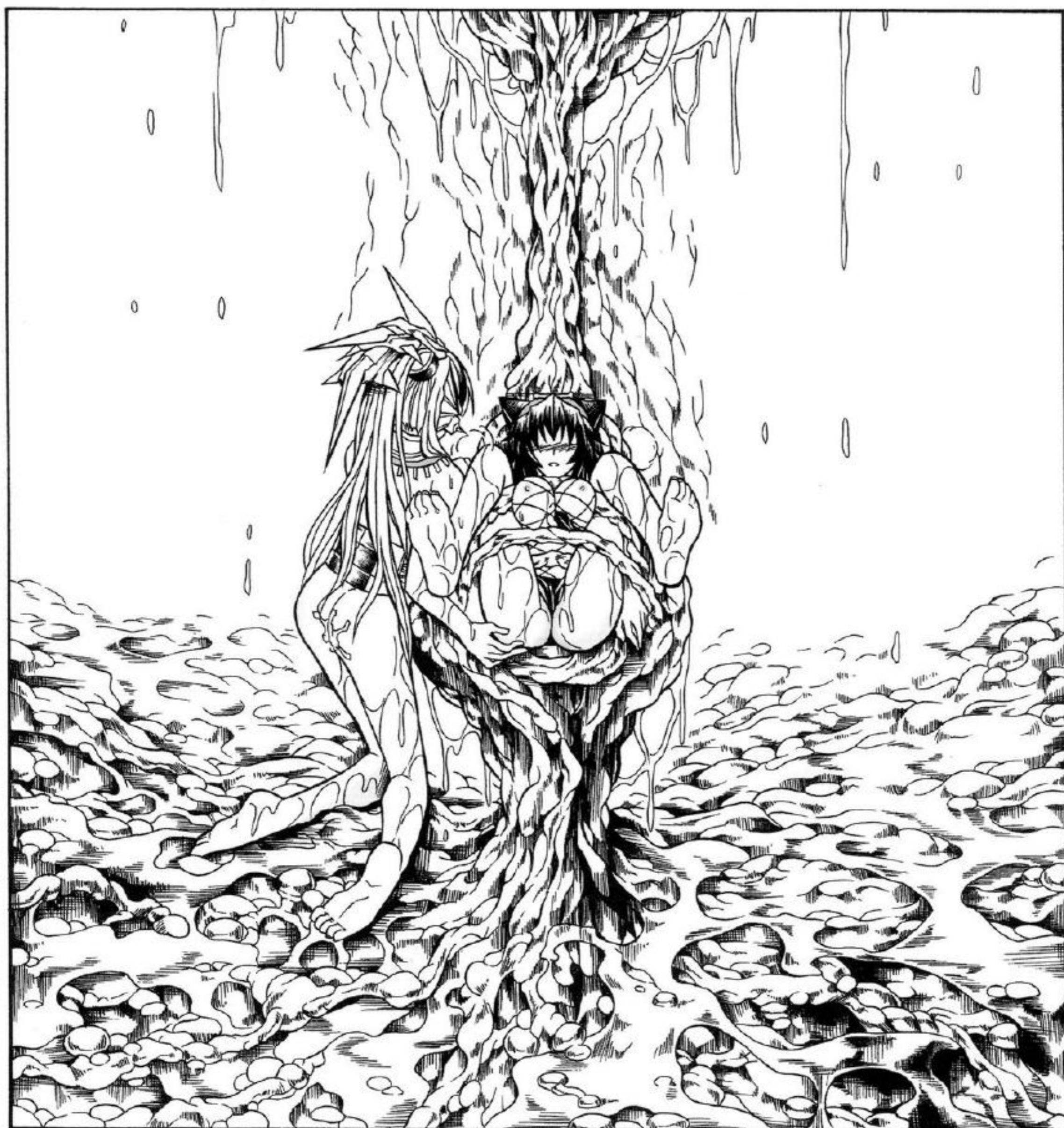
生殖器官に取り込まれた牝はヤマツカミと同化し、
卵を孵化させるための道具として使われるのだ。



憧れのハンターの無様な姿に絶望した主人公は、
体内からの脱出を試みるが、体内器官に行く手を阻まれ、
想像を絶する苦痛と快楽で精神を蝕まれていく。



一方、外界ではギルドの編成した大部隊がヤマツカミと遭遇し、
空前の古龍捕獲作戦が始まっていた。







この様子なら
第二段階も問題なく
終了するわね



フフフフ
思い出しただけで
イッてしまったのね

貴女は本当に素敵な
体をしているわ



ちよ
ちよ
ちよと待って

私 まだ
心の準備が



大丈夫よ
受け入れなさい



フッ
フッ
フッ
フッ



不安がる事
なんて無いのよ



おいしい♡

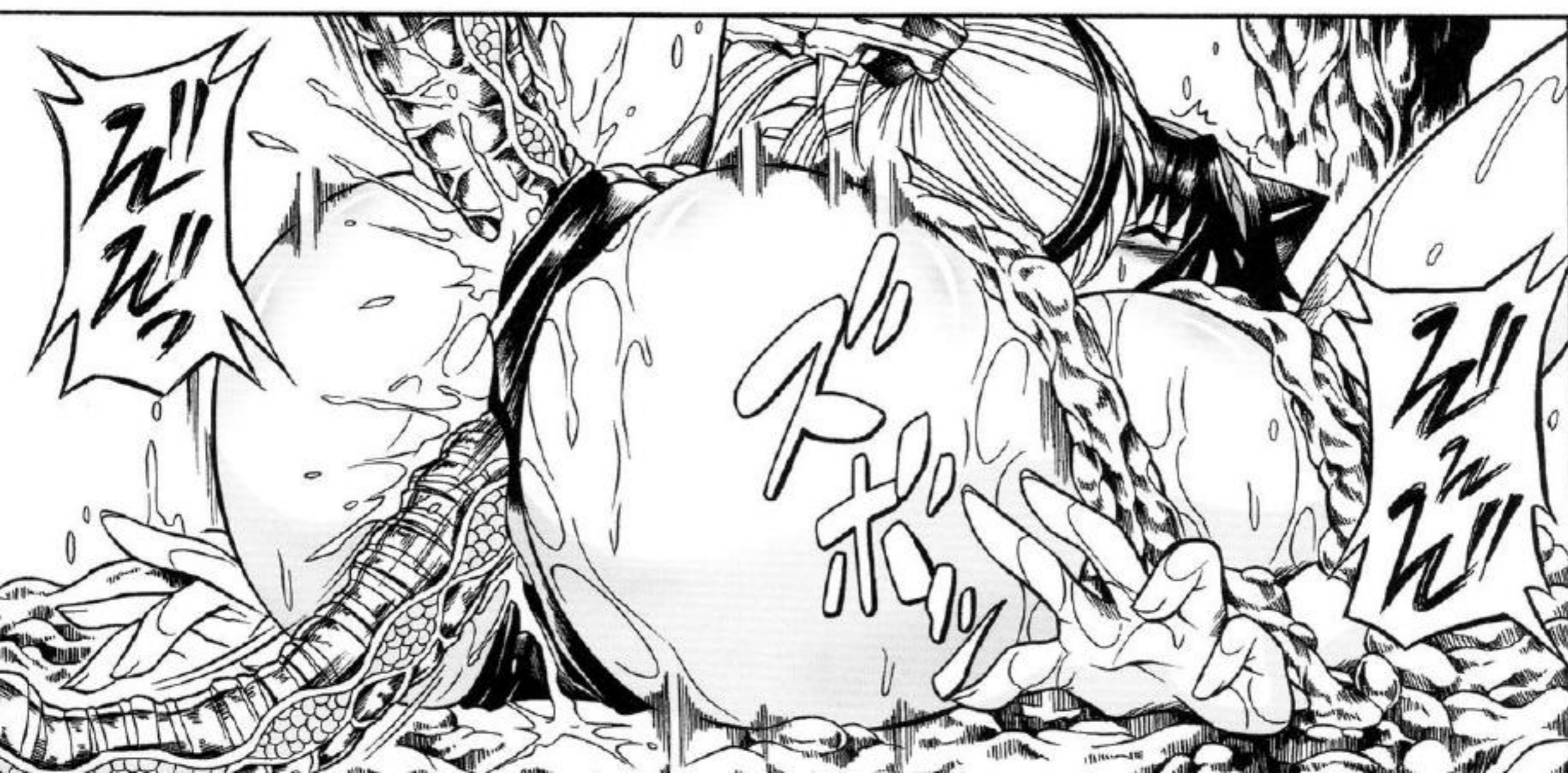
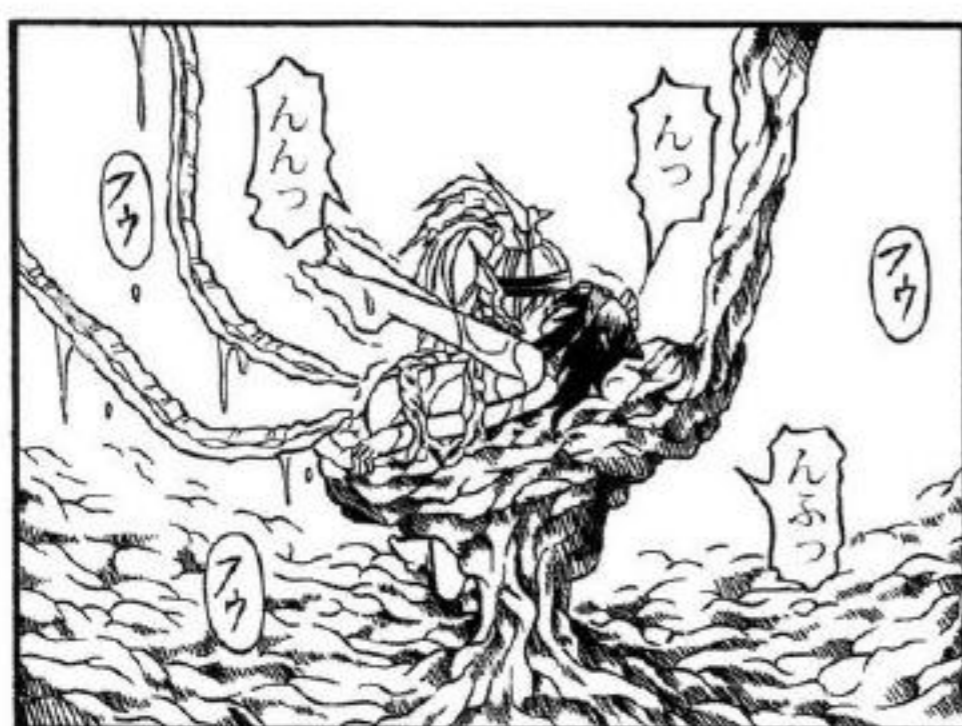


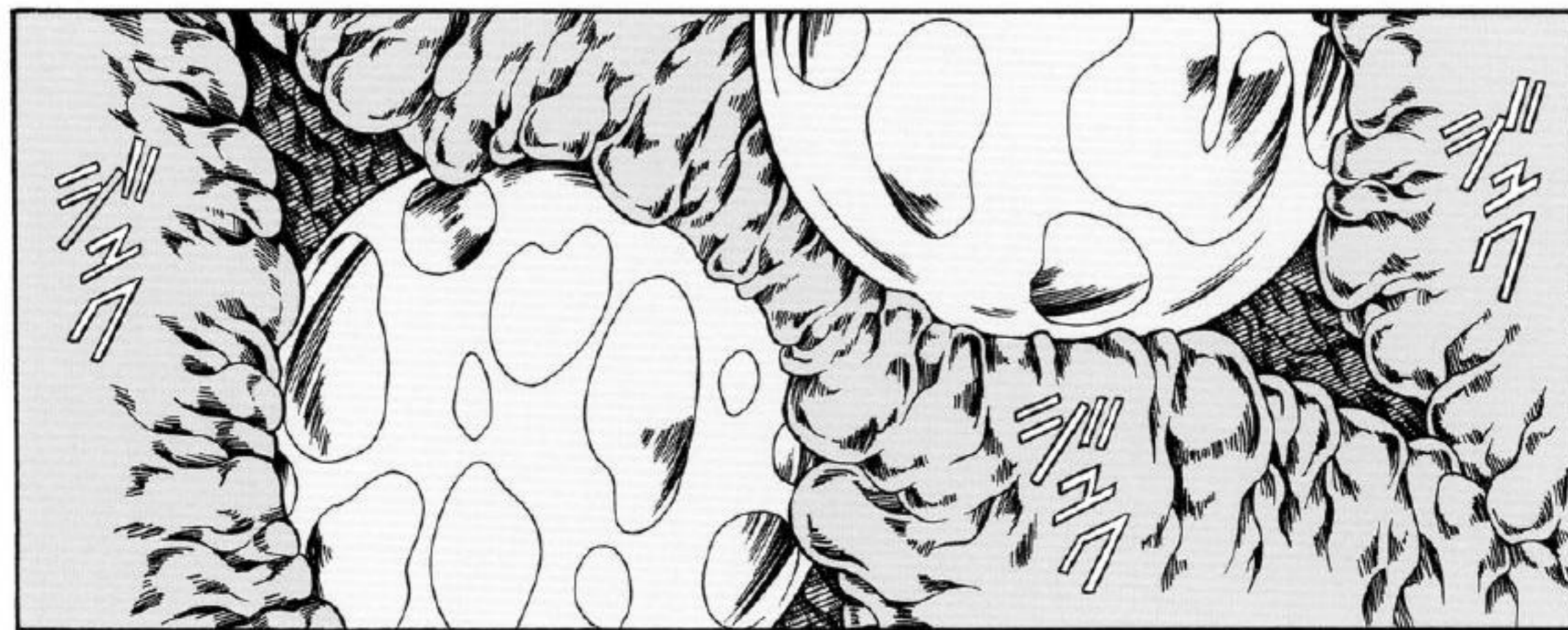
ウフフ
酷い味ね貴女の足

汗とおしっこ
愛液 後は腸液
かしら??



そんなに
怖いのか？



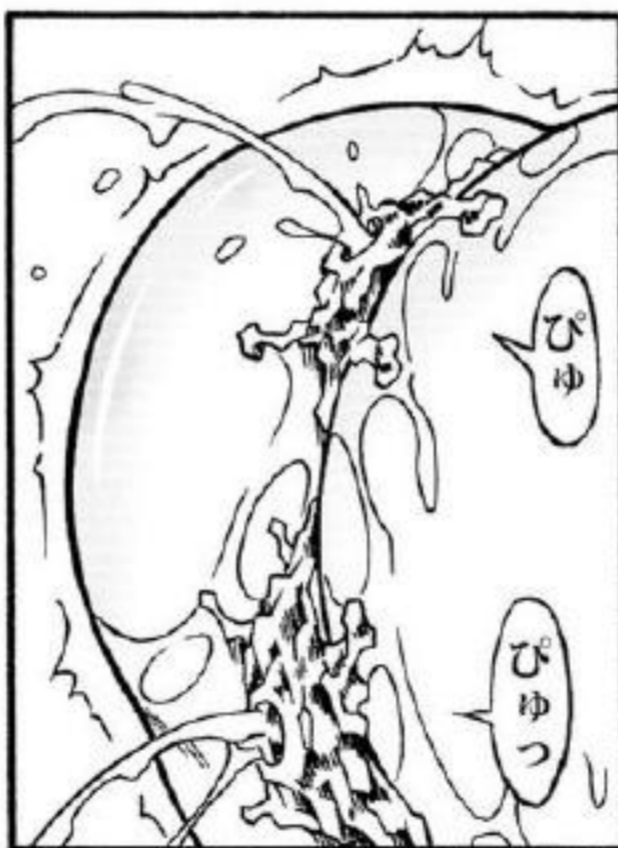




うふふ、どう？
性フェロモンの結晶を
入れられた気分は？
感想を聞かせてくれる
かしら？



こんなに苦しいのに
……体が熱くて
……気持ち良くて
……気持ちよくて



は…はい
お、お腹が圧迫…
されて…苦しくて

出そうとしても…
おまんこも…肛門も…
何かが張り付いていて…
出せないんです…



私…
苦しいのに
イツチャウ

イキそう…
…なんです

はあ

はあ



イツ…イクツ

グルッ

イ……クツ……

ぴゅ

イクツ……ウツ

ぴゅ

ぴゅ

ズズ

ズズ



ハア

ハア

これが体内にある間は
イツた時の感覚が
ずっと続くのよ
それが普通なの



な何これ!?

もとに戻らな…
…うああああ

グルッ
グルッ



あ…あえ?

完全に融解した時
貴女の体は
その数千倍の快楽を
得られるようになるわ

気が狂っても
容赦なく高められる
ただの肉の器に
なるのよ

融解した性フェロモンを
排出した時が人間としての
尊厳を全て捨てる瞬間……

見せてあげるわ

はあ

はあ

はあ

はあ

ブルッ

ブルッ

ブルッ

ブルッ





ブリュリュ

ブリュリュ



あああ

うあっ

ああっ



ぶちゃ

いい！
気持ちいいのお

もつと

見てえ！

わたしの無様な
姿をもつと

見てえ！！

もつと

ぶちゃ

排泄で

イツちやうのお！！

彼女は排泄の悦びに
体を震わせ
嬌声をもらしながら
何度も達しているようだった



伸縮を繰り返す彼女の
性器と肛門からは止めどなく
温かな液体が溢れ出てくる



私は彼女の匂いのするその液体を
夢中で吸った
こうすれば体の中まで彼女の香りで
満たされる事が出来るのだ



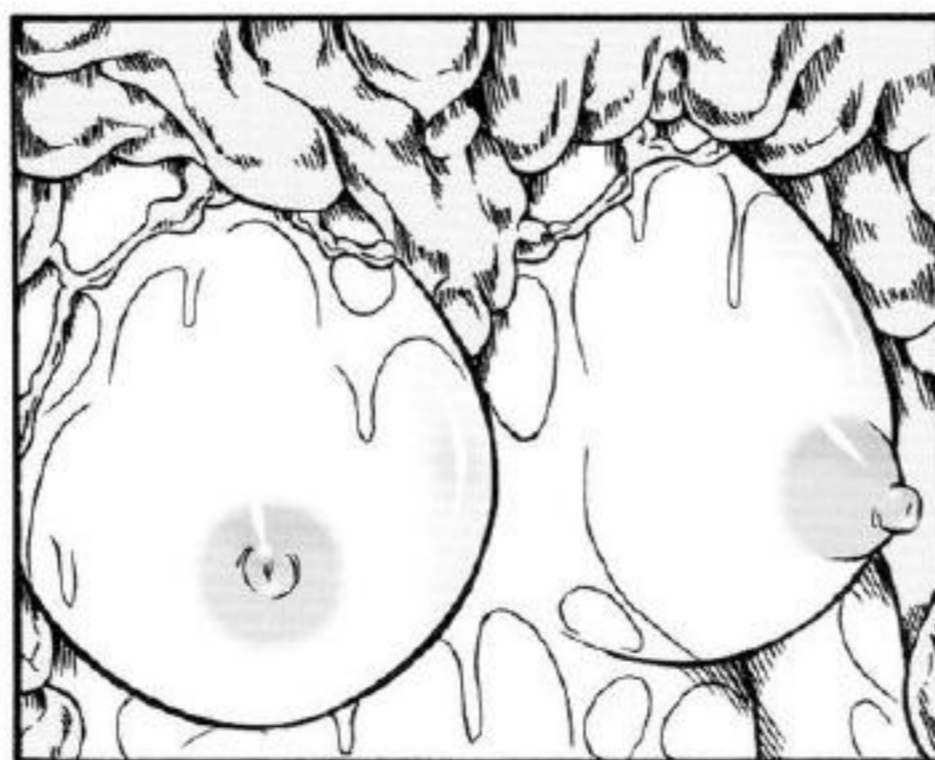


やはり彼女は美しい
繊細で瑞々しい白い肌は
神々しくさえある

私は誰よりも幸福だ
こんなにも美しい肌に
顔をうずめる事を赦されて
いるのだから









ほら
産まれるわよ

ハア

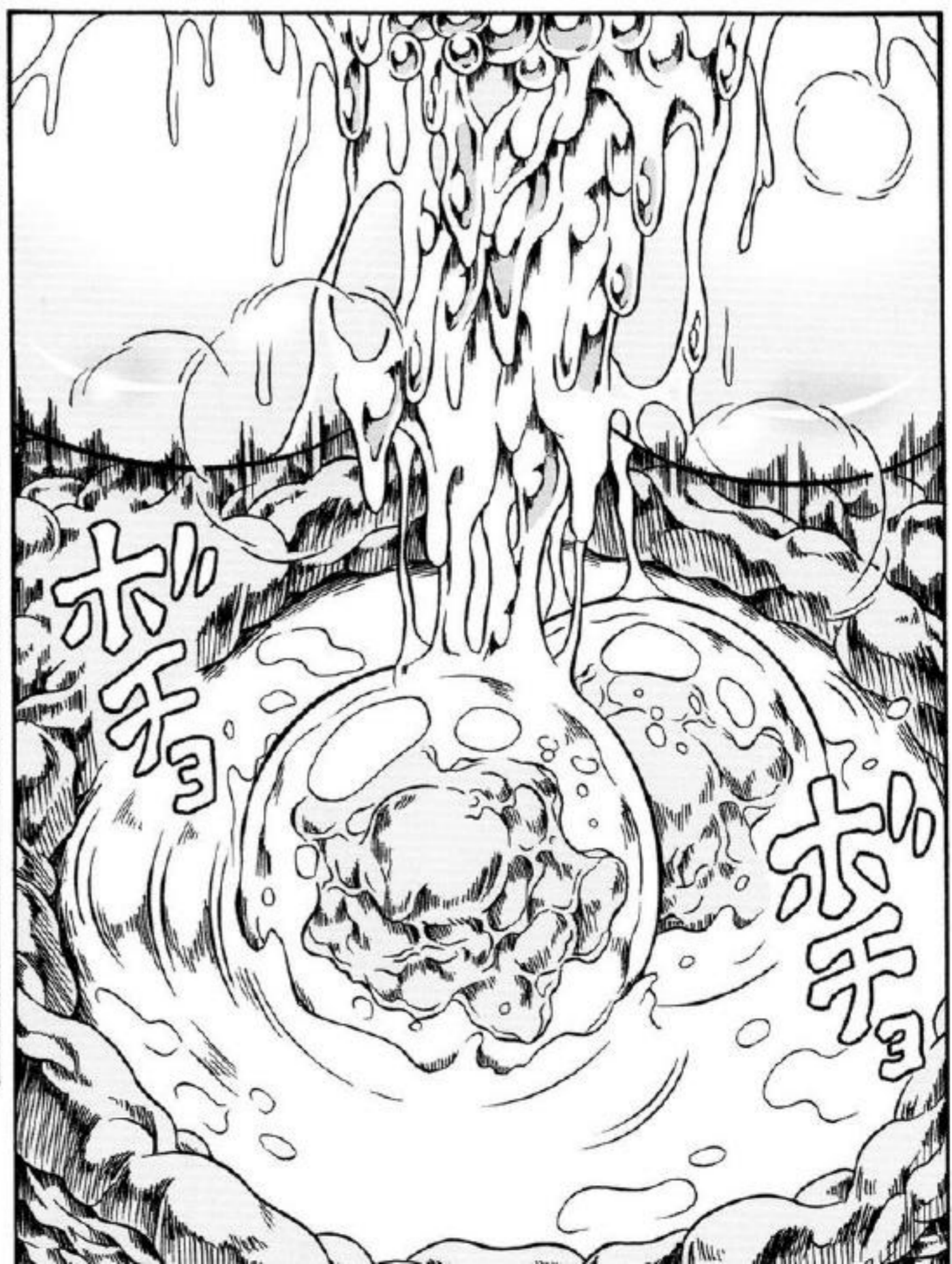
ハア



彼女達は古龍と同化して
卵を育てるだけの
存在と化した者達よ

極限の快樂と引き替えに
肉体を差し出した
幸福な牝達……

ハア
ハア
ハア





彼女達は幼生に
啜られる事で更なる
悦楽に苛まれるわ

古龍の一部になった牝は
この古龍が朽ちるまで
歳も取らず死ぬ事も無い

ただ永遠に続く
快樂の連鎖に
身をよじる事しか
出来ない存在

貴女もわたしも
今から
こうなるのよ

ハア

ハア

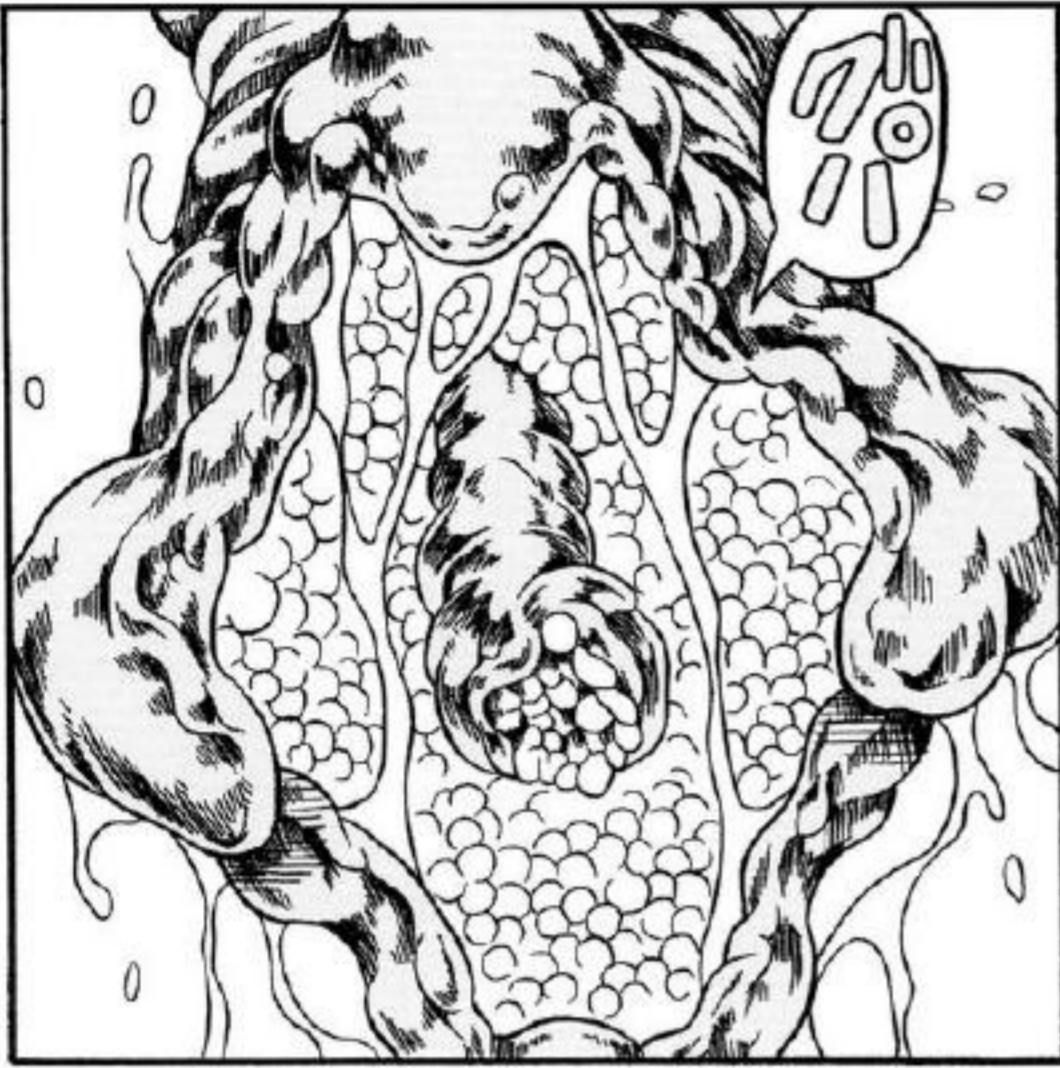
ハア

やり方を
見せてあげる

ハア

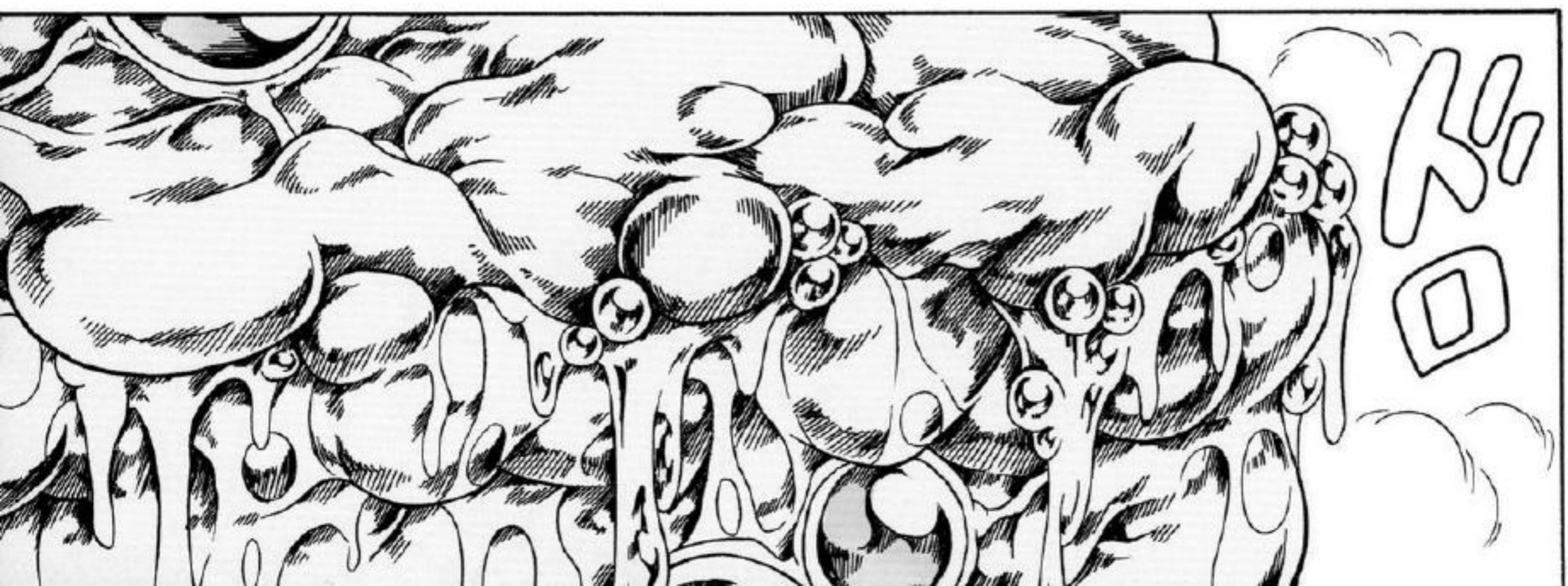
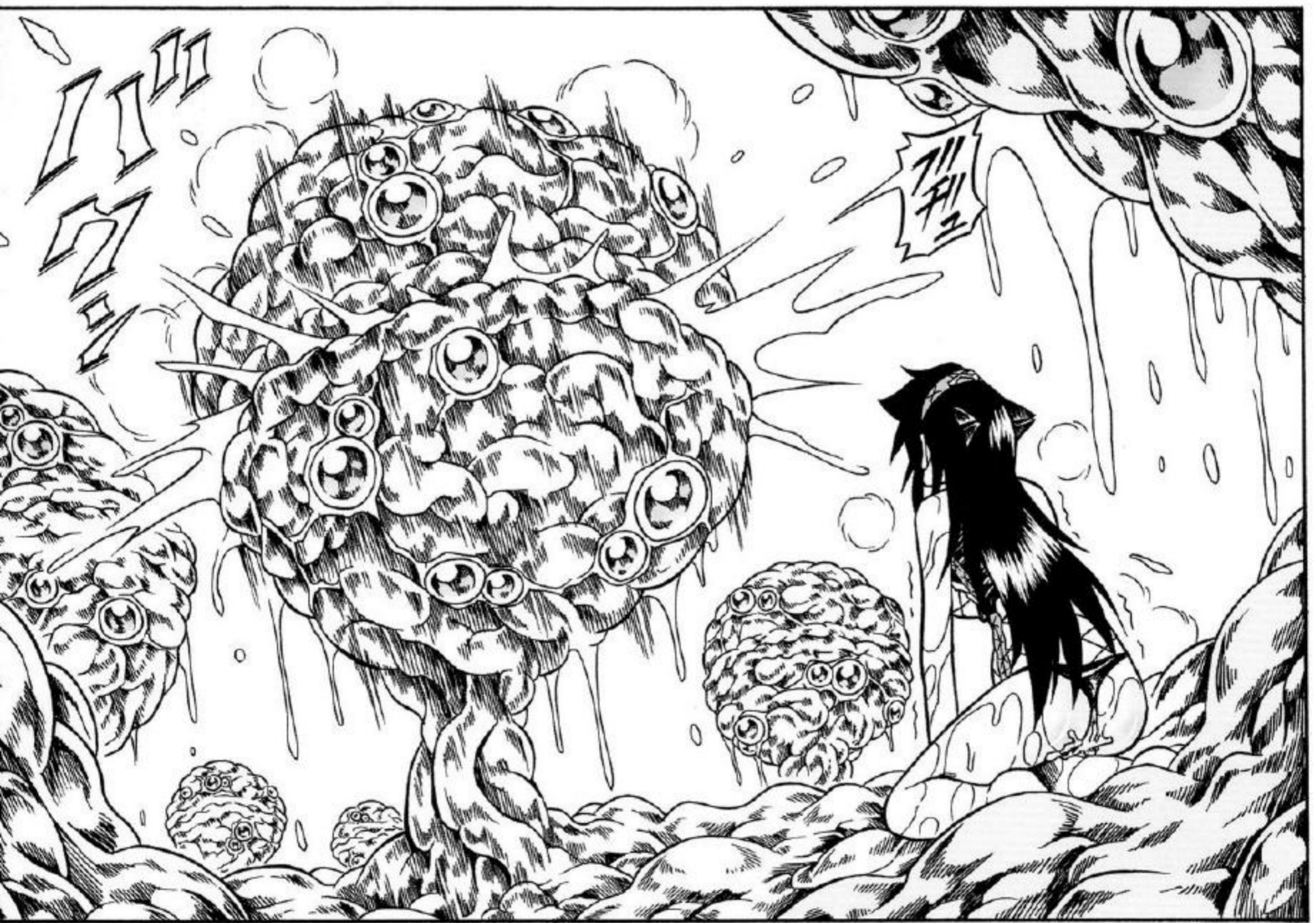
ハア

ハア













大惨事よね
これ



首が取れても
死なないらしいから

サムライGG
じゃない アレは
生きてるわよ多分



...おじい



アイツらは？

ああ

なんかギルドの
救出部隊だとか

救出部隊？

食われたハンター達を
助け出すんだとさ



何でまたそんな事を？
食われた奴なんて
とつくに消化されて
るんじゃないの？

私に聞かれても
分からないわよ
……でも

ギルドにとって
重要な人物があ
の古龍に
食われた可能性
がある
……とかね



そりゃ
ご愁傷様だわ

私達には
どうでもいい話ね





融解した性フェロモンを
排泄しながら
気が狂いそうな快樂に
必死に耐える

彼女の言う通りだ
これ以上の快樂を
与えてもらえるのなら
人でなくなっても
一向に構わない



もうこの快樂無しでは
生きていけない
もっと...もっと欲しい...



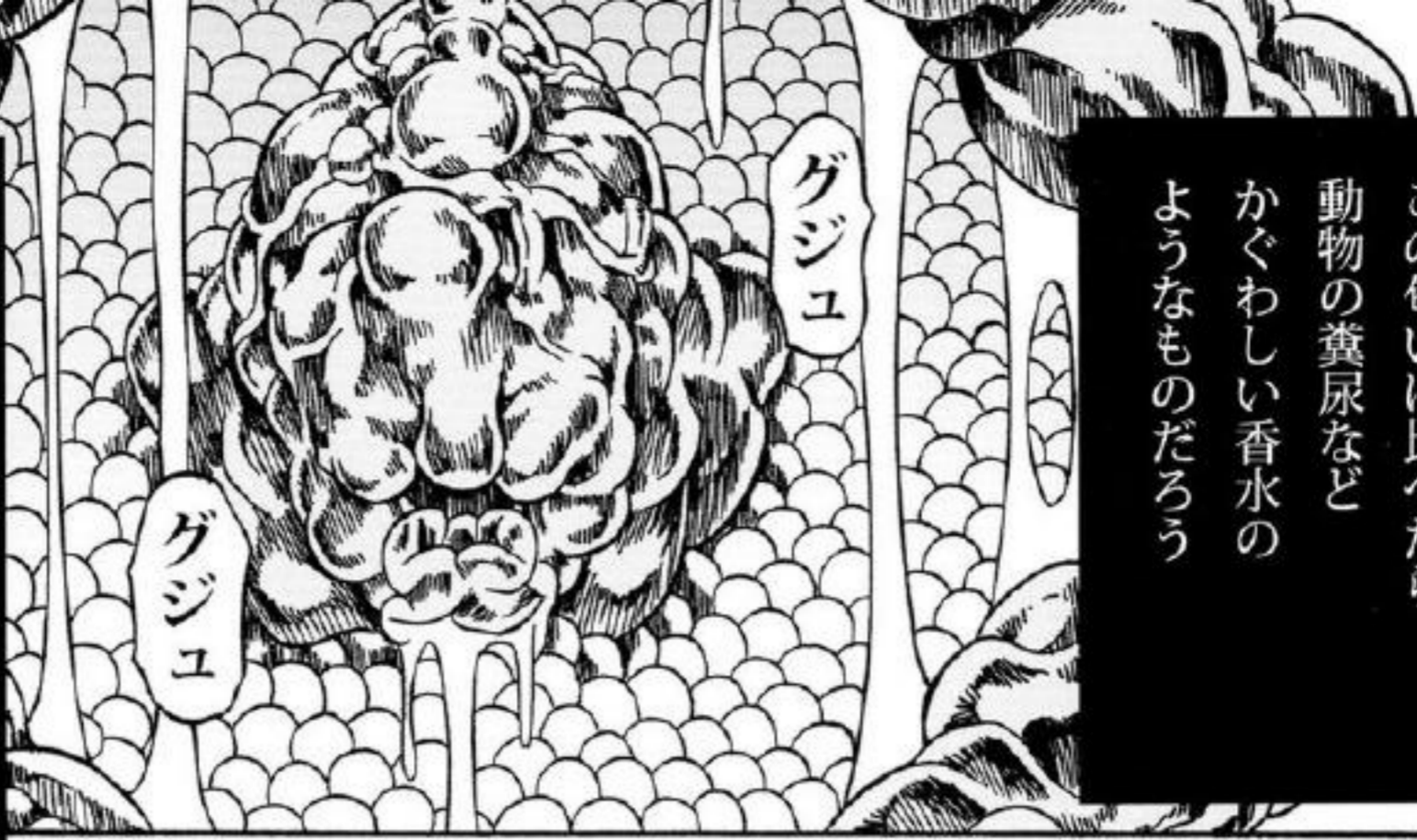
かばあ



二チャ



鼻が曲がりそうな程の悪臭
この匂いに比べたら
動物の糞尿など
かぐわしい香水の
ようなものだろう

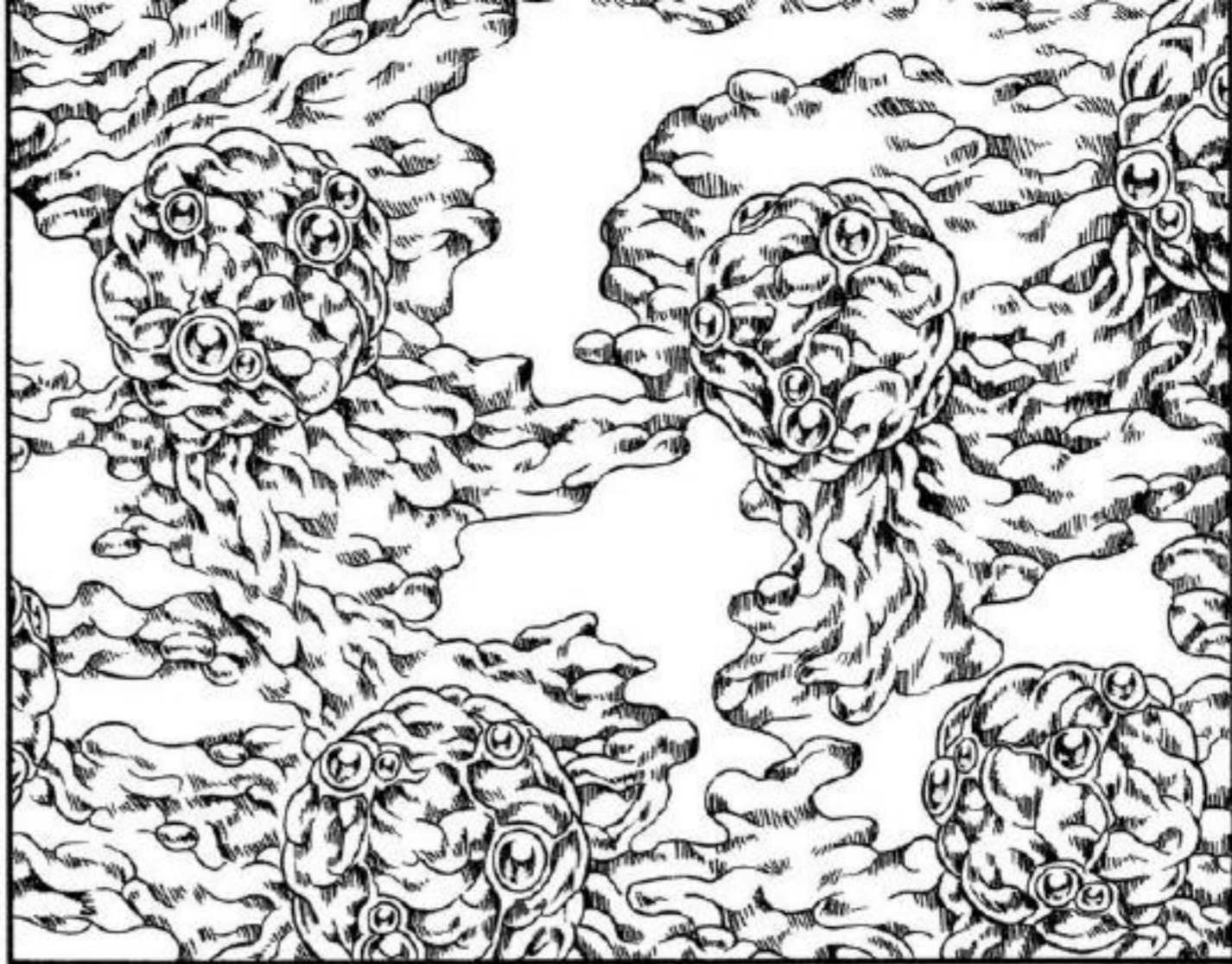


だが それすら今の私には
官能を昂らせる蠱惑的な
スパイスでしかない
私が欲しいのはただひとつ

快樂だけ

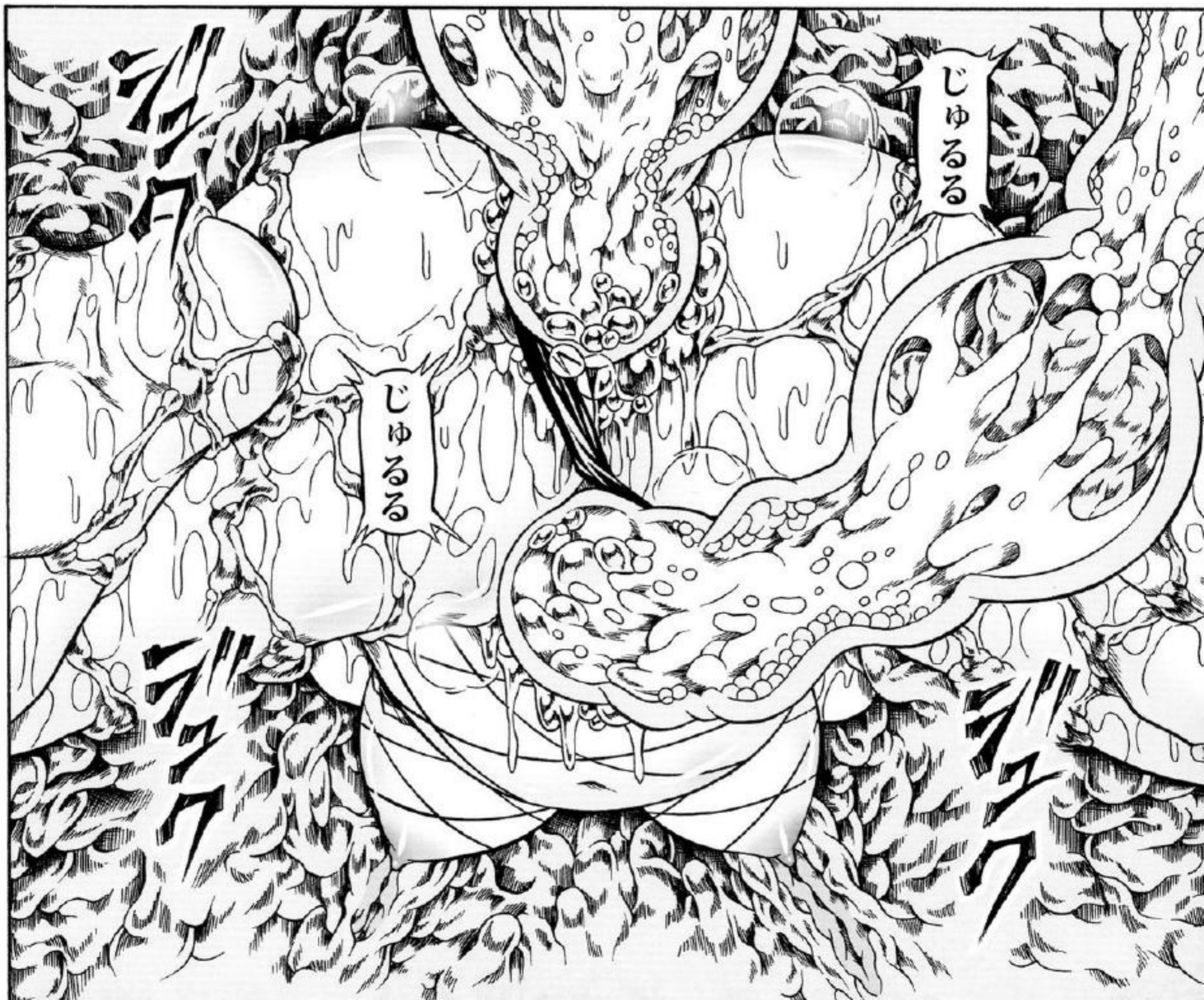














カッ
カッ
カッ
カッ

バッ
バッ
バッ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

シクシク

体の感覚が
溶けて無くなっていく…
最早どこまでが自分の
体なのか分からない



シクシク

それなのに

脳を包む快感と幸福感は
際限なく高まっていく



ぐほっ♡

達して収束していく人間的な
快感ではなく、いつまでも
昇りつめていく魔的な快樂



ブピッ

ブピッ



ぐほっ♡

自分が人間という生き物であった
事すら曖昧になっていく
ただ、ただ
広がり続ける無限の幸福感に身を
まかせるだけ



ぐほっ♡

ぐほっ♡



ビクン

ビクン



幸せで

ギユポ

ギユポ

ギユポ

幸せで

幸せで



ギユポ

幸せで

ギユポ

ギユポ

ギユポ

ギユポ

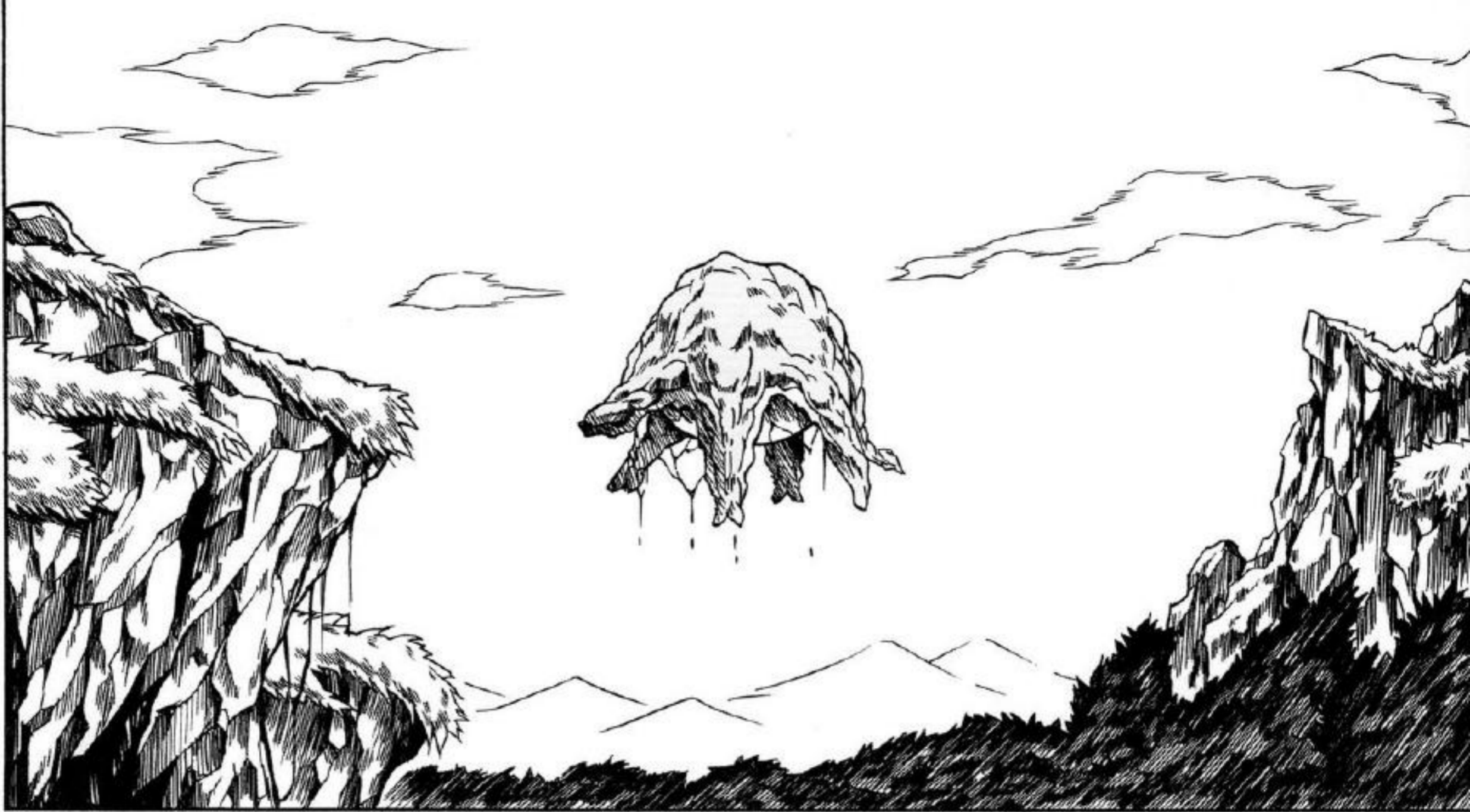
幸せで



フゴ

フゴ

フゴ



最後の最後まで足掻く事
それが出来ない奴は助からない
そんなの当たり前的事でしょ？

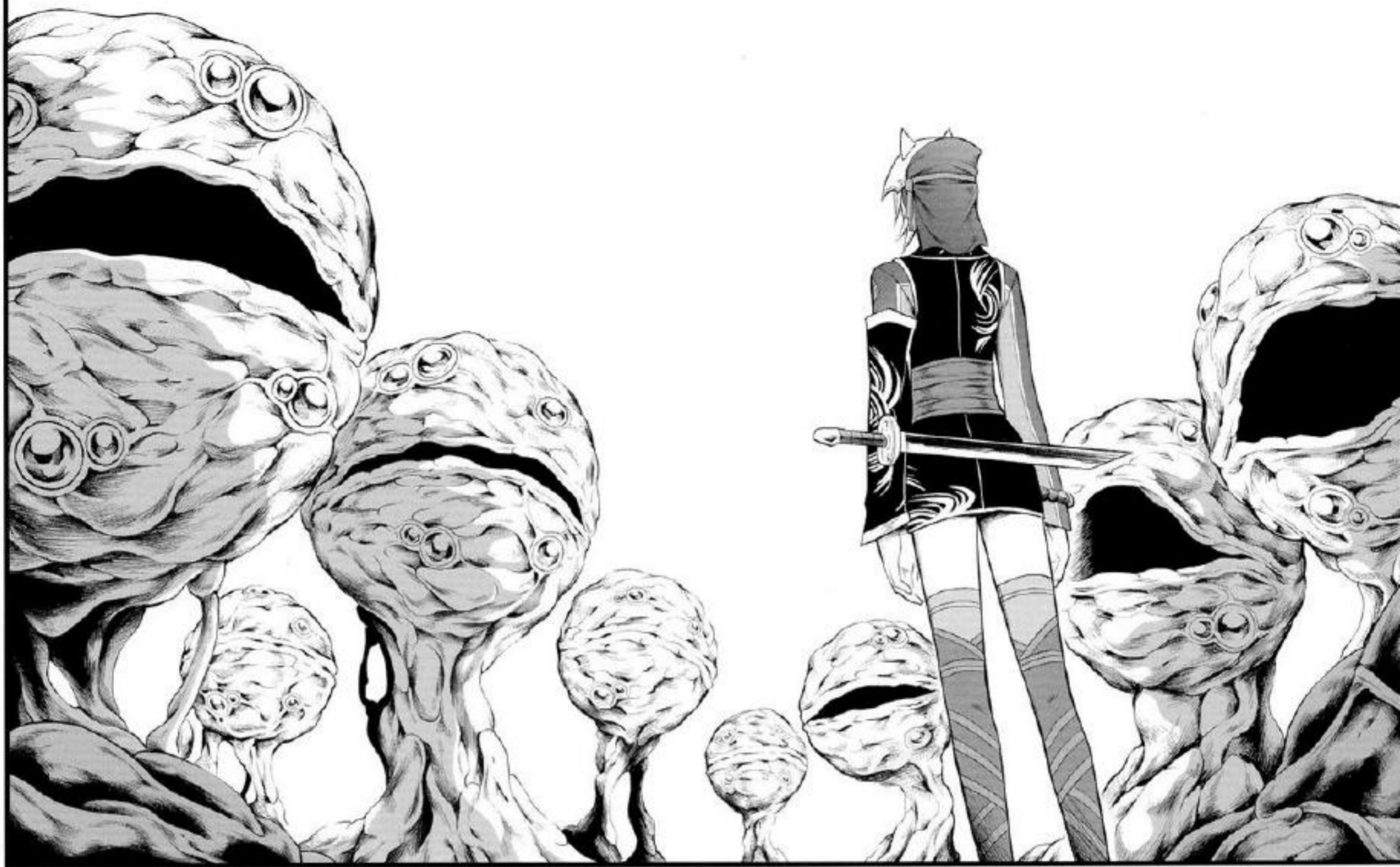


自分を守ることが
出来るのは所詮
自分だけなんだから



これで任務は完了だ







大丈夫
これならまだ助かる



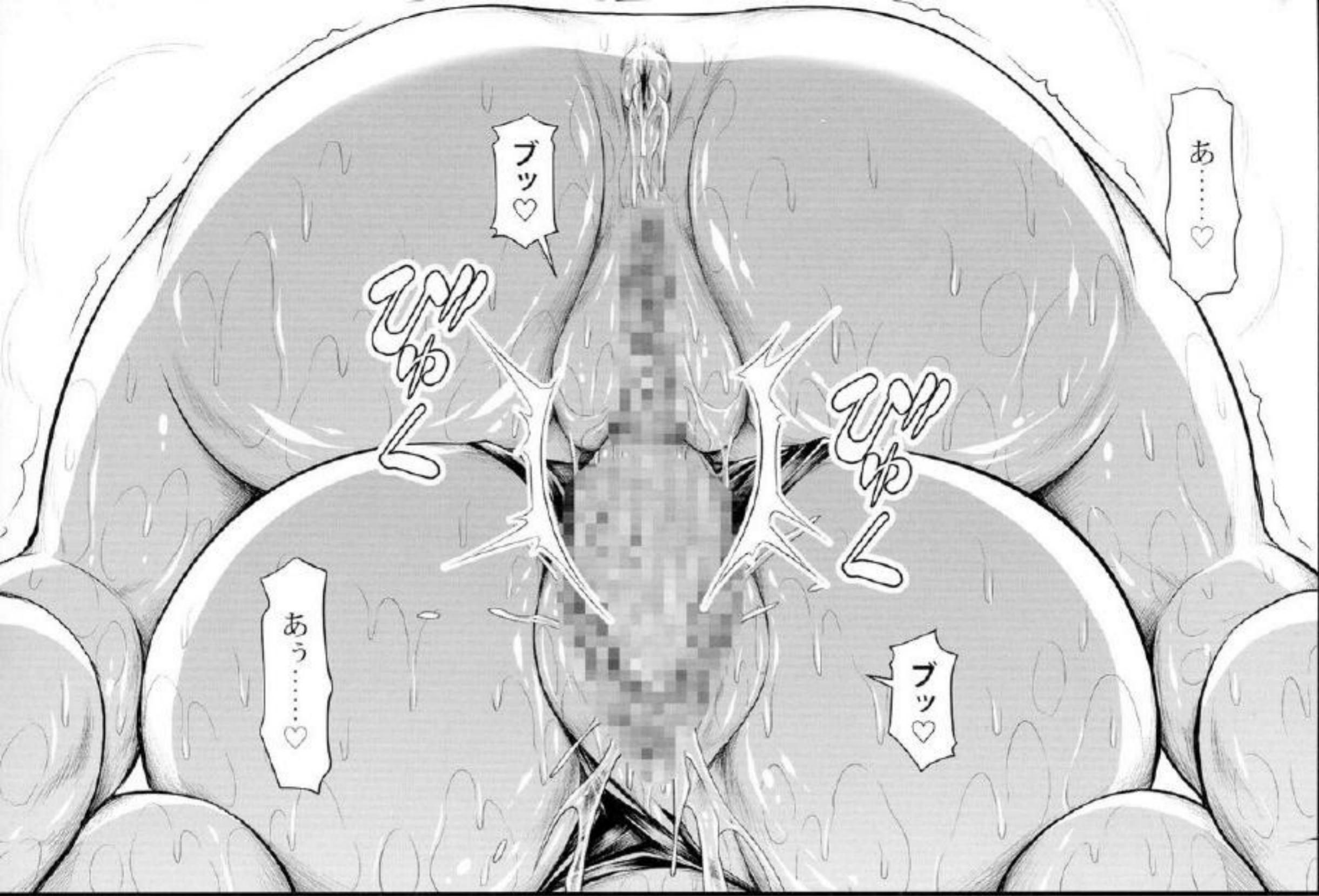
私はいったい何を
している？

この女を助けて
どうしようというんだ



ゴク





あ……♡

ぶっ♡

あう……♡

あう……♡

ぶっ♡

あう……♡



腰を動かすまでも無く私のペニスはあっけなく女の肉壺に屈した

私に出来たのはただ温かな肌にしがみついてはしたなく漏れ続ける精液の快感に耐える事だけ

もしこれが恋人同士の性交なら私は惨めで無様なパートナーだろう

うっ♡

うっ♡

ぶっ♡

ぶっ♡

ぶっ♡



挿入しただけで達してしまいう無能な相手はどう罵られるのだろうか？早漏？粗チン？

いや、罵る価値も無いきつと興味の無い目で見下されるのだろう

ハア

ハア

ハア

ハア



あの時のように



ああ……ダメ
漏れちゃう♡

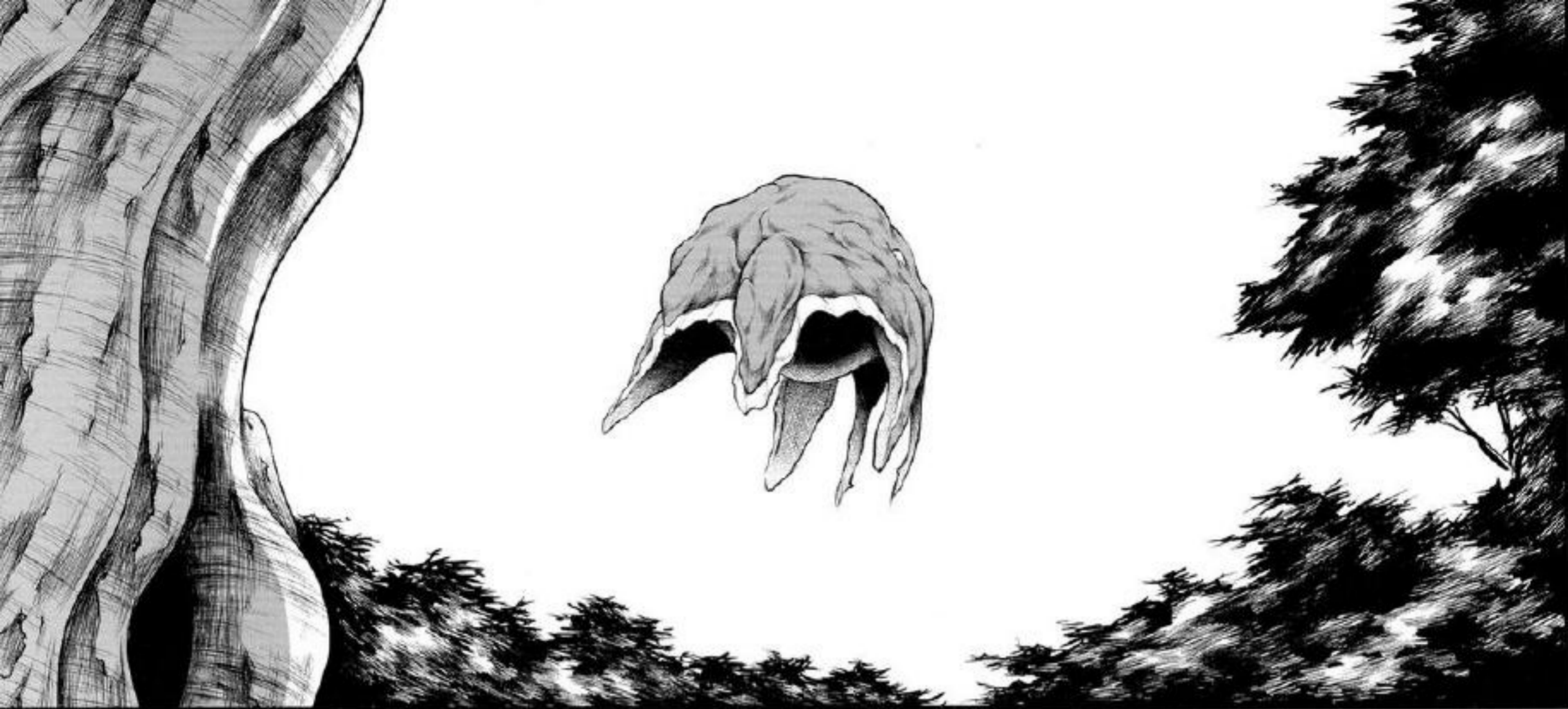
また漏れちゃう♡



大丈夫……
誰かに見られる事なんて
無いんだから……もう少しし
もう少しだけ♡



こんなの
やめられない♡



ああ漏れる♡
精液また漏れちゃう♡

ごめんなさい
ダメなチンポで
ごめんなさい♡



射精を繰り返すたびに
彼女の体はビクビクと痙攣し
膣は精液を絞りだそうと収縮する

彼女の絶頂をペニスで感じる事で
私の性感は再び高まってしまふ



もう一回……
もう一回だけ……



ゲエツ!!







閃われた瞬間
私のペニスは屈した

ワブル

ワブル

人間の膣など比べものに
ならない快感に包み込まれる



…あっ♡

ハハ♡

ハハ♡

ミク

ミク

ハハ♡

ジユク

ジユク

…あっ♡

ミク

ハハ♡



柔らかな突起一つ一つが
ペニスに快感を与えるため
だけに優しく蠢く

フッ♡

フッ♡

フッ♡

射精していないのに
まるで途切れなく射精を
続けているような悦楽



チュク♡

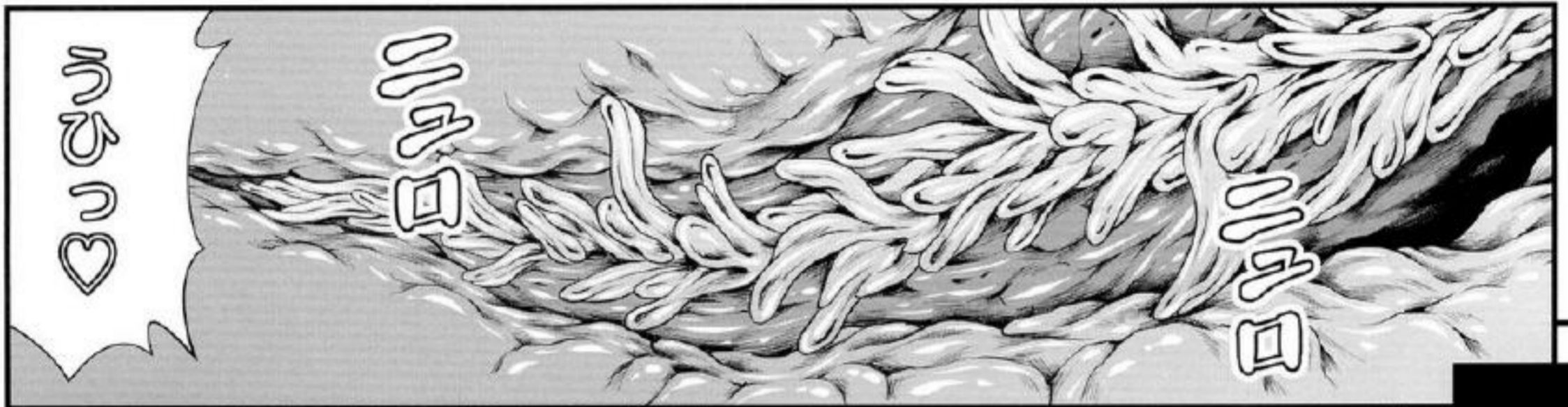
チュク♡

まるでペニスで
感じる事が出来る性の
悦びが全てが詰まって
いるかのようだ





ああ…ダメ……
コレだけは…ダ…メ……



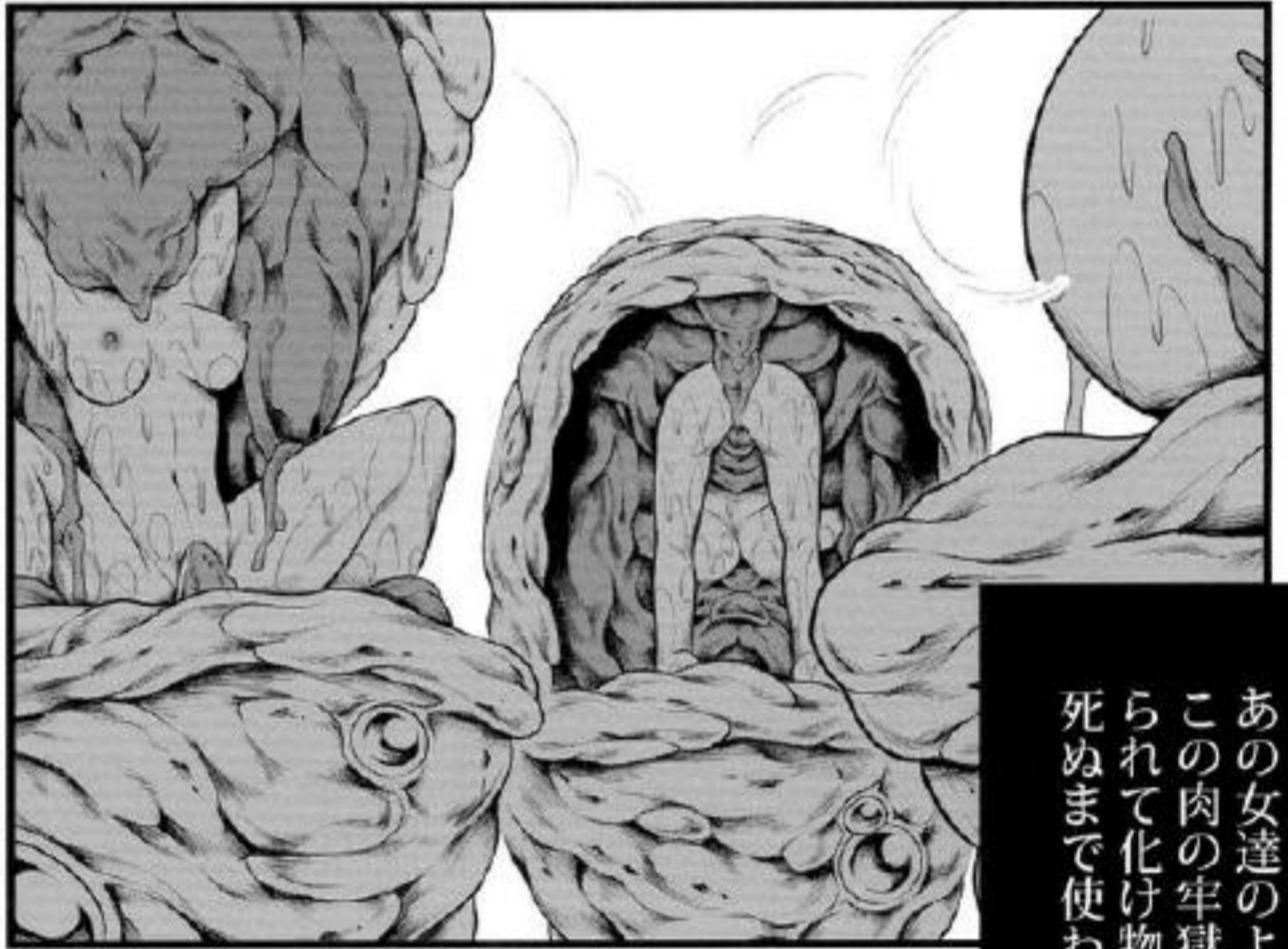
この体で注意している事がある
自慰行為に關してだ

性処理はどちらか一方で
処理しなければならぬ
男性器か 女性器か

「女の深い所でイキながらの射精」
これは絶対にしてはいけない
際限なく昇りつめていって
確実に意識を失うからだ



こんなところで意識を失っ
たらどうなるのか……
考えるまでも無い



あの女達のように
この肉の牢獄に閉じ込め
られて化け物の器官として
死ぬまで使われるのだ



人間の尊厳を捨てて
快感に身を震わせるだけの
惨めな肉の塊に堕ちるのだ

こんなの我慢出来るわけ
無い♡♡

アハ♡

ズル♡

ズル♡

ジュルル♡

プ♡

プ♡

ハ♡

ズル♡

どうなっても良いから
射精♡ 射精するの♡

ハ♡

アハ♡

ズル♡

ズル♡

ズル♡

プ♡

プ♡

ズル♡

ハ♡

プ♡

ズル♡

ズル♡

ハ♡

ズル♡

ズル♡

おまんこイキながら
サーメン出すうう♡

ズル♡

ズル♡

ハ♡

ズル♡

ズル♡

ズル♡



あぁ♡
くるぅ♡♡♡♡

ぎーめん
あがつてくるぅ♡♡

えへっ♡

わたし
しんぢやうう♡♡♡♡



おまんこも♡

おちんぽも♡

のーみそも♡

えへっ♡

アス♡

グポッ♡

アス♡

ジュリ♡

ハッ♡

グポッ♡

ハッ♡

アス♡

とろとろになつて
しんぢやうう♡♡♡♡



じあわけえええ♡♡♡♡

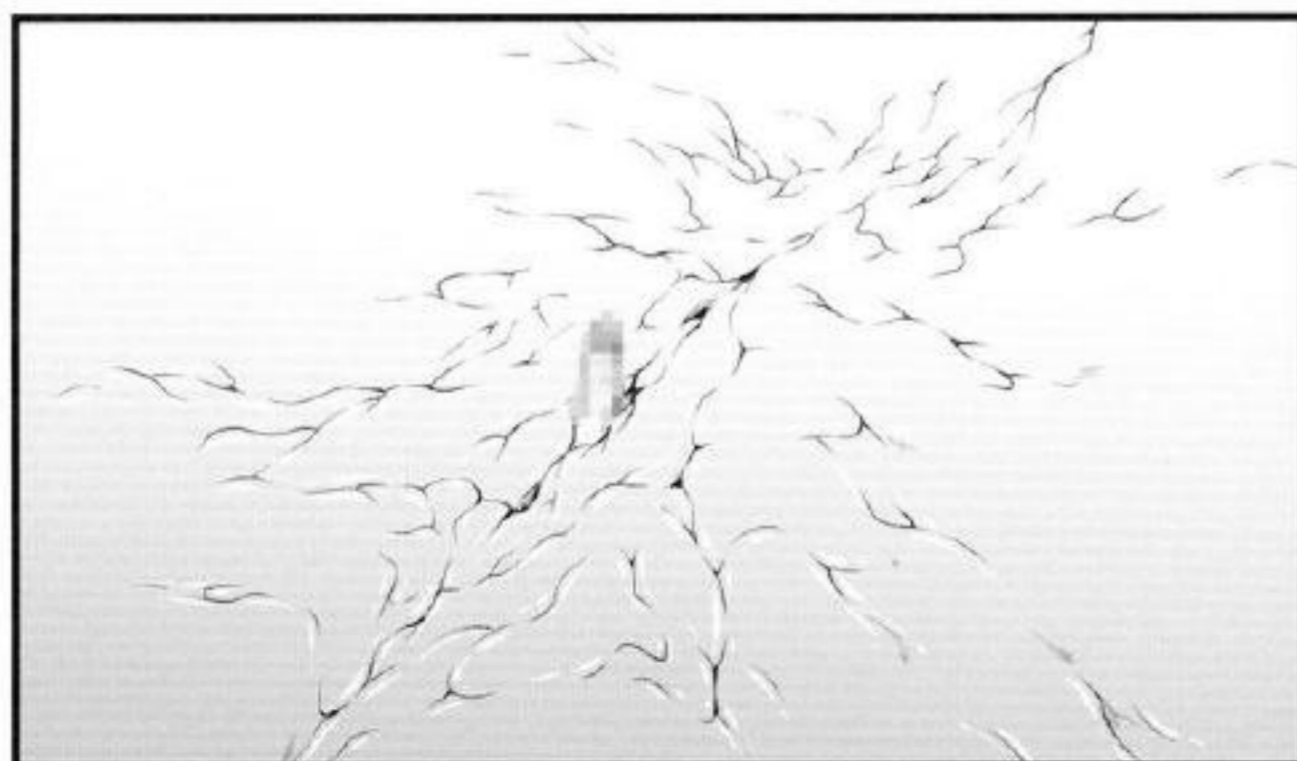
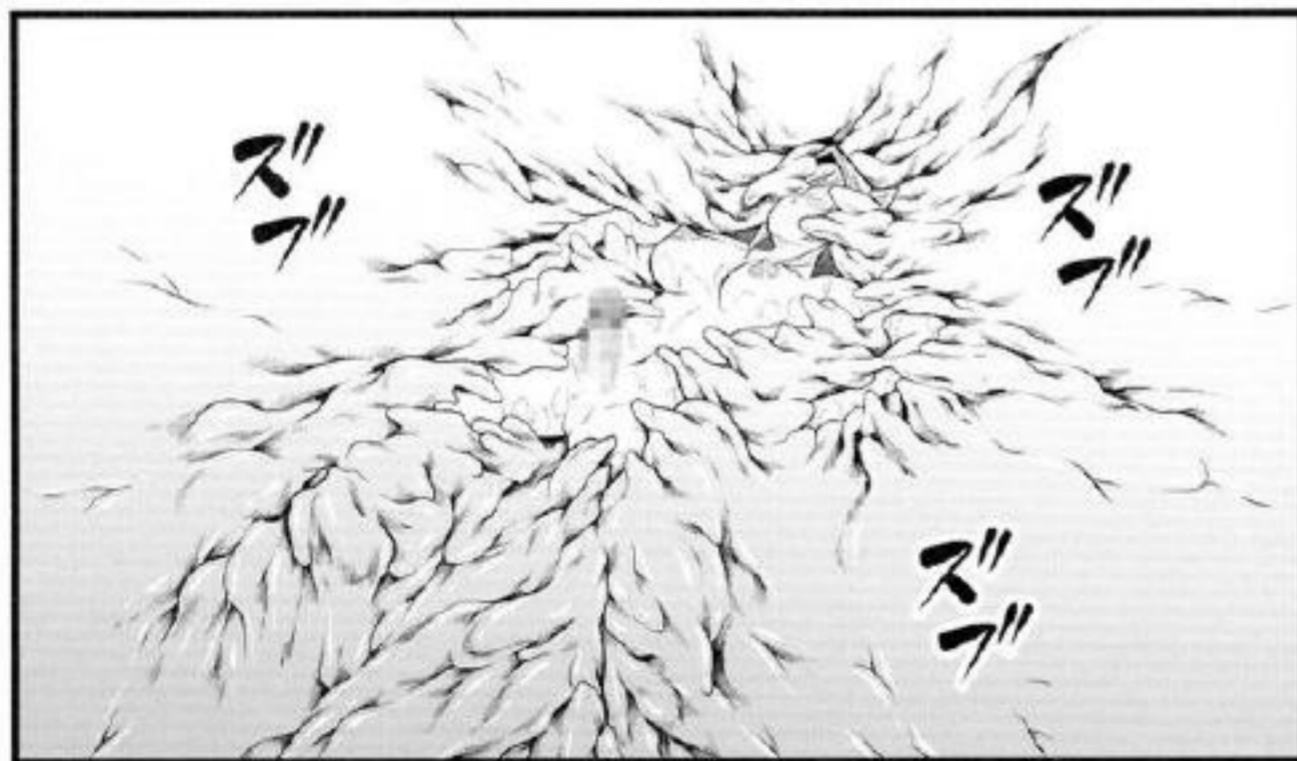
ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡











それは残酷な話ですわね
同情しますわ





でも現実の話なんですのよ
残念ながらこのような話は
沢山あるんです



おっしやる通りですわ
本当に恐ろしいこと



そ そうですの？
できれば他のお話も
拝聴してみたいわ

ええ
構いませんわよ



あまり大きな声で
お話しする内容じゃ
無いのだけれど

こんな話はいかがかしら？



Yokohama Junky



助け...て...
お願い...
誰か...



彼女は
芋虫のように
這いつくばって
懸命に逃げたわ

無様に助けを
求めて必死に
神に祈った



でも そんなの無駄
全くの無意味



ゴクン



ゴク

……でもね

彼女は胃袋の中で
まだ生きていたのよ

意識があるまま

少しずつ

消化されていった

聞いた事あるよ
肉食モンスターにとっては
獲物を丸呑みにするのが
何よりのご馳走なんだって

えー アタシ
ポポは焼いて食べたい
けどなあ

いや ウチらは生で
食ったら腹壊すし
ポポはデカすぎて
飲み込めないし

しかし 生きてたまま
消化されるなんて悲惨だな
さぞかし苦しかっただろう

そう思うでしょ？
でもね

緩慢に体を溶かされていく
彼女が感じていたのは
苦痛とは正反対の感情――



快樂だったそうよ



モイッ

緩慢に 緩慢に
肉体を溶かされながら

彼女は意識があるまま
少しずつ消化されて
いったわ

モイッ



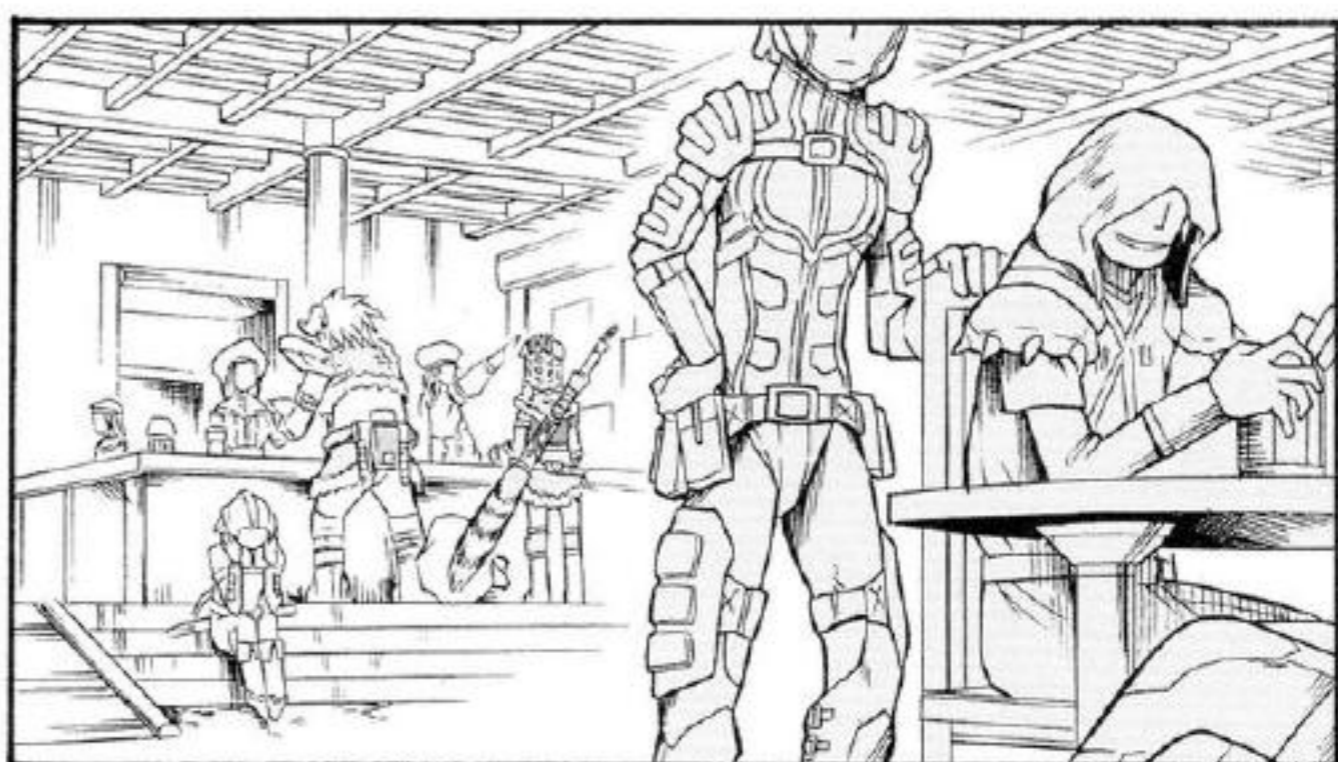


普通では絶対味わう事のできない人外な悦楽を感じていたそうよ

……最期の時まで



今日もあの娘来てるわ



お?

カリタ



熱心ね

ここどころ毎日じゃない よっぽど欲しい素材があるのよ



どんな依頼?

ポン

狩猟です! クルペッコの

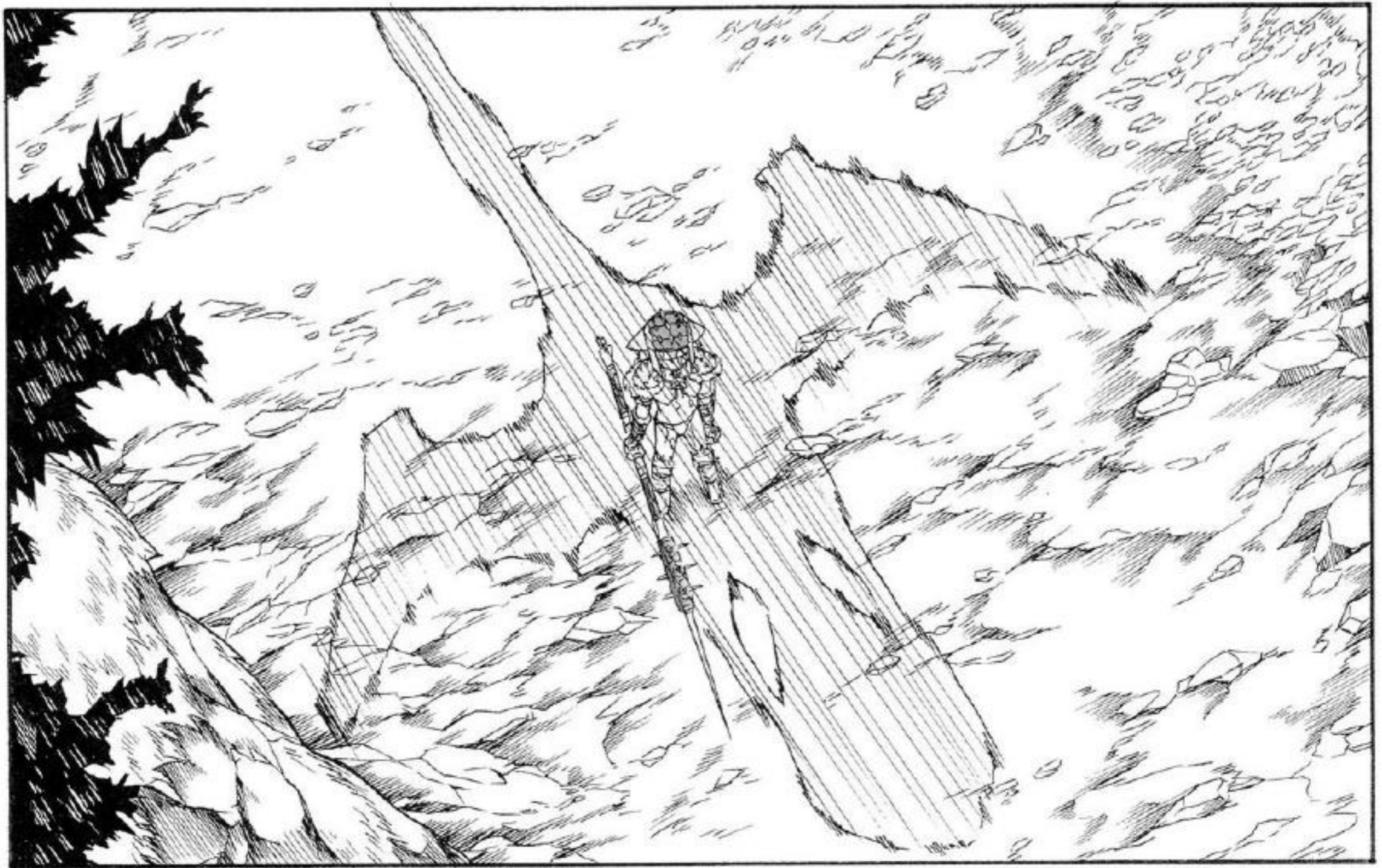
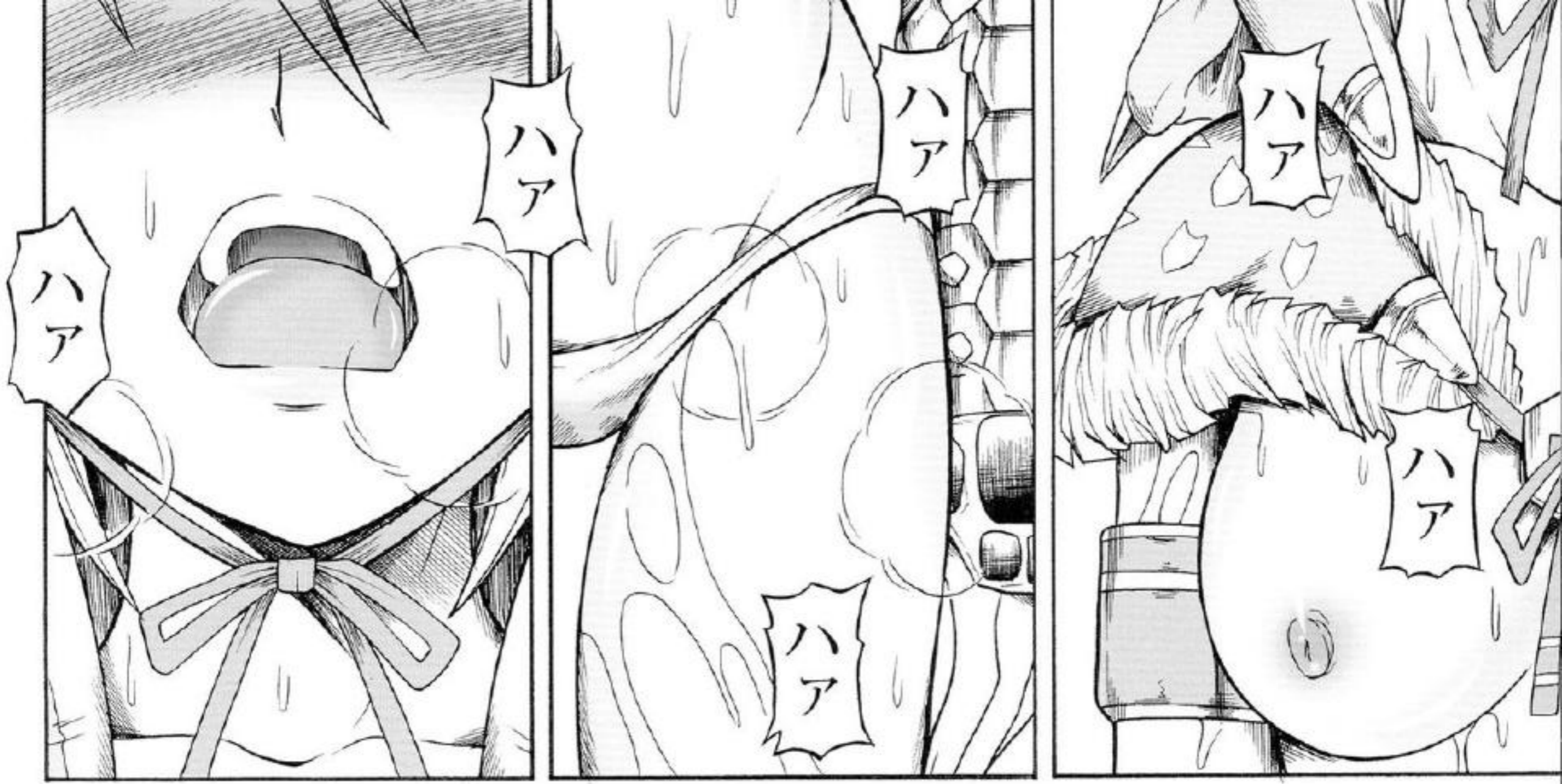


カリカリ





こんな姿
人に見られるわけには
いかないもの





ちやんと……
ちやんと狩らなくちや



クエツ

じゃないと……

じゃないと……

クエツ





がはっ



はあ

はあ

はあ

こ…このままじゃ
私やられちゃう



ゲホッ

ゲホッ

ゲホッ

クルルル

クルルル

こんな……はしたない
格好で……こんな弱い
モンスターに……

ハア

ハア

ハア

なす……術もなく……
一方的に痛めつけ
られて……

トロ

トロ

無様に……地面に
這いつくばって……

そのうち立ち上がる
力も無くなって……

ハサツ

ハア

ハア

惨めに肉食
モンスターに食べ
られてしまうんだ……

グル

グル



ぶちゅ

ぶちゅ

ダ…ダメ……
戦闘中はダメ……



うう

くう

グチュ

グチュ



あつ

うあ

ああ

慰めるのは
後に……しないと

本当に……
取り返しのつかない
事に……なっちゃうから

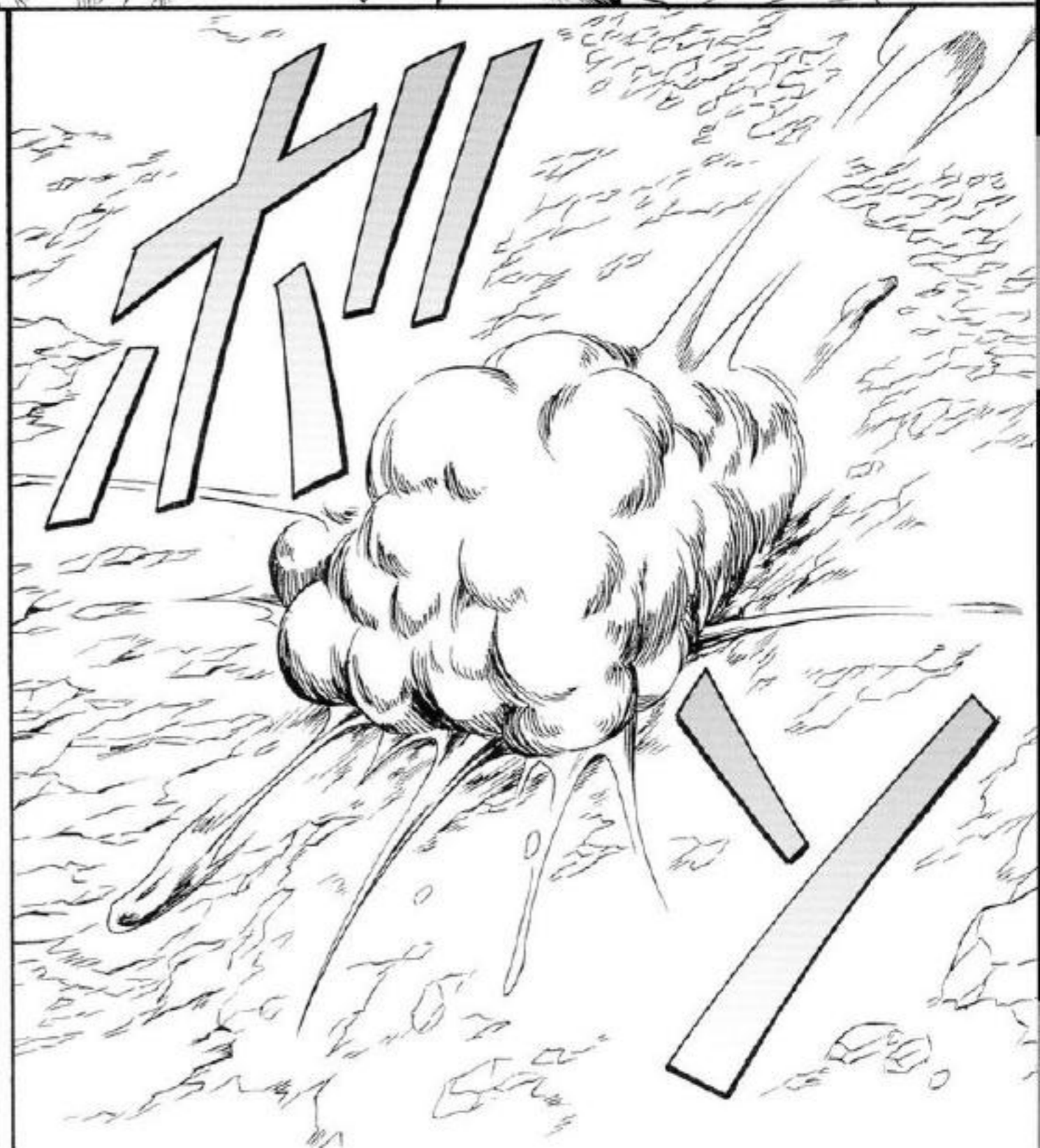
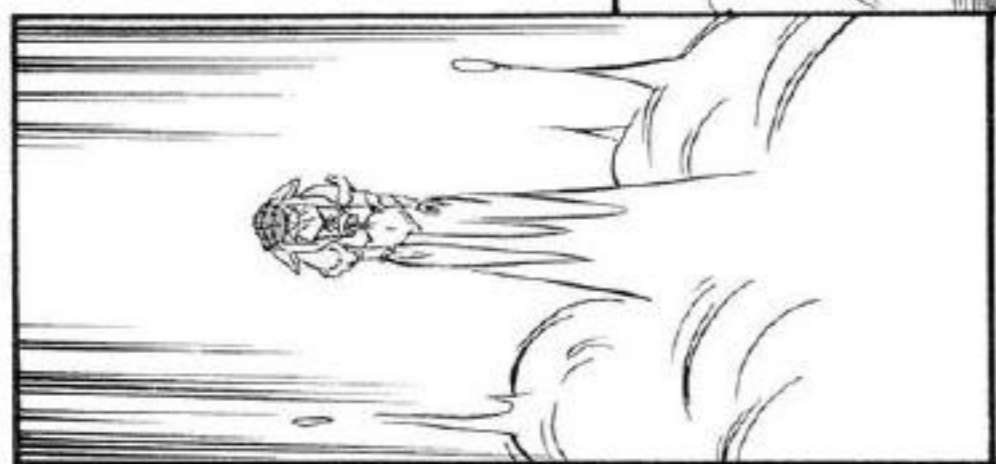
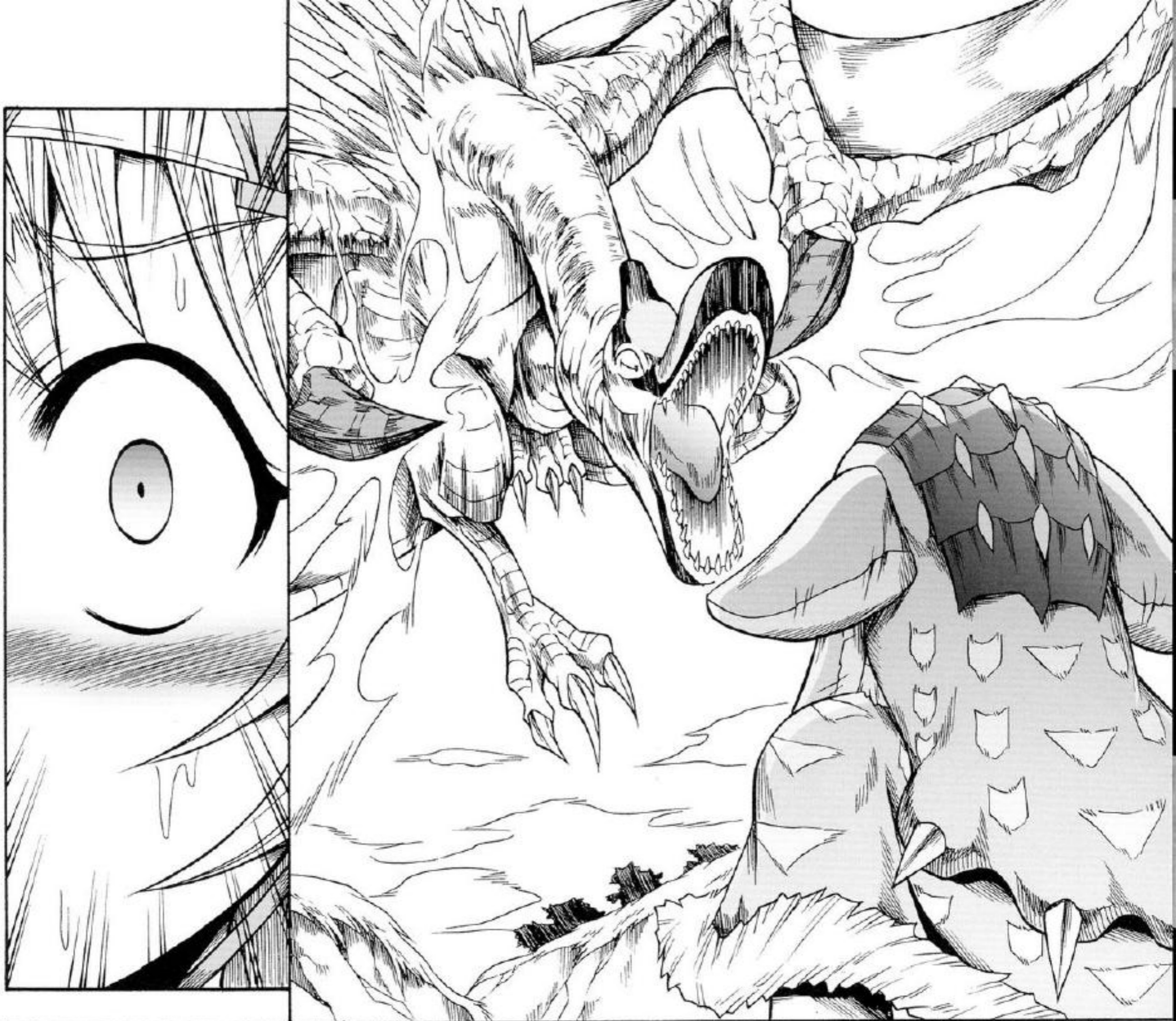


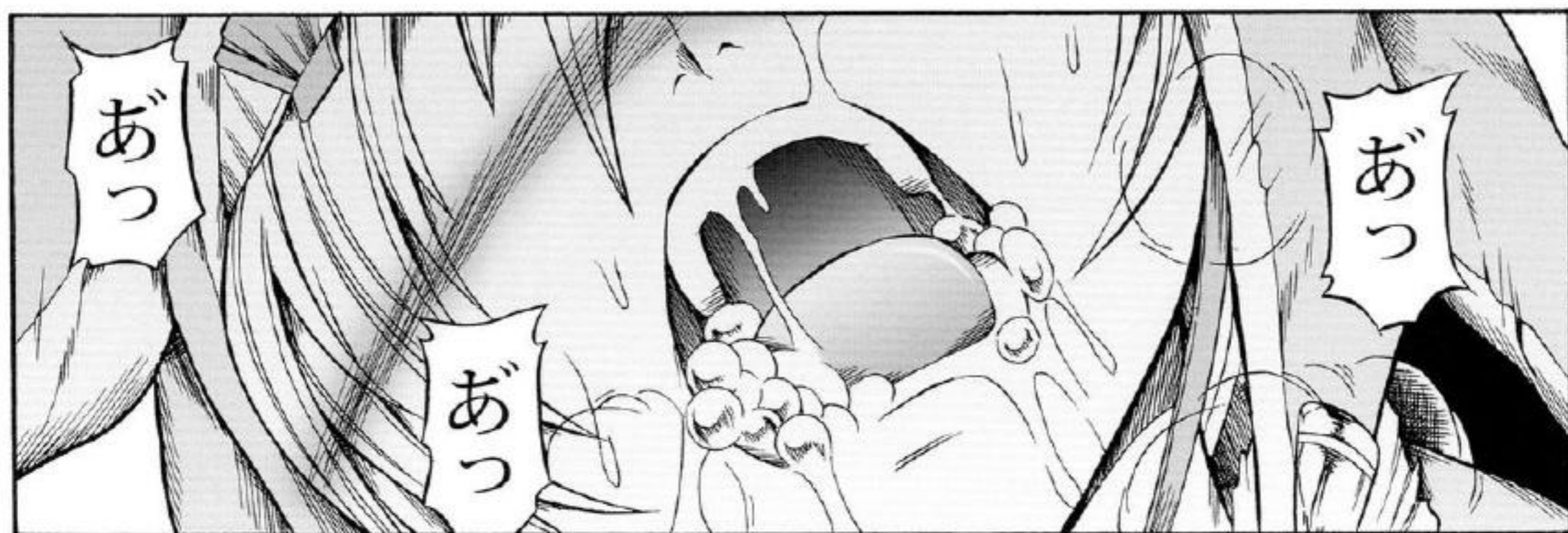
はふ

はふ

はふ

うあ……
止まらな…





す…凄い……
全身がバラバラに
なりそう……





と…とにかく
…逃げなきゃ…



はあ

はあ

これ以上は……
体が…もたない
……から



うづうづ

ゴキ

ゴキ

うづ



あづう

あづう

イツてる場合じゃ
ないのに!!

まー待って!!
イツてる場合じゃ





なんとか逃げ出して
来れたけれど……

ハア
ハア

これ以上は……
本当に体が持たないよ
……もう……おしまいに
しないと……

……でも

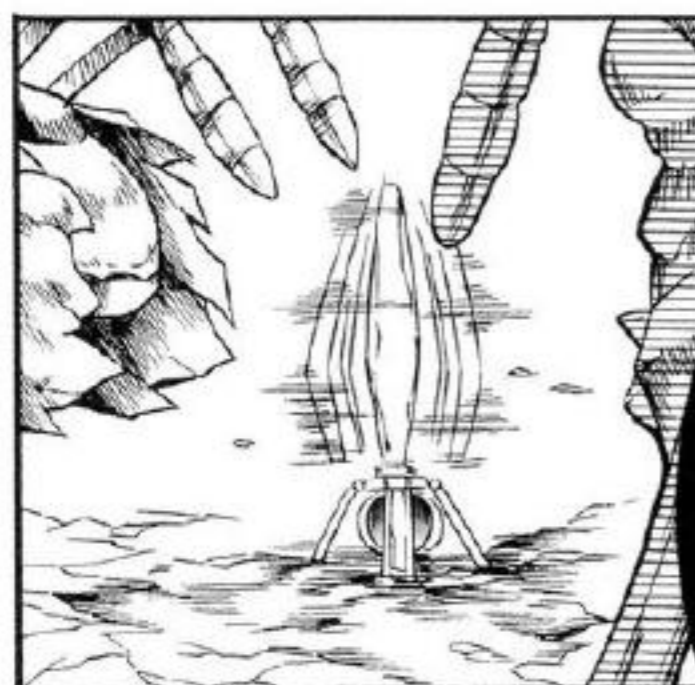


体の火照りが
全然治まらない

ハア
ハア

さっきのは本当に
凄かったから……

命の危険を感じる程の
凄まじいスリル
だったから……



振動で人が聞き取れないような高音を発生させてブナハブラやオルタロスをおびき寄せる

これは虫を引き寄せる為の機械

でもこれは本来の働きをしない

音を出す為の金属のカバーを外して 代わりに上からギイギの皮を何重にも巻きつけてあるから

つまりこれはただ小刻みに振動するだけの物でしかない





この機械は振動によって自動的に竜頭が巻き上げられる仕組みになっている

ガガガガガガ！

つまり自分でスイッチを切らない限りずっと動き続けてしまう

本当は人体の中に入れるのは凄く危険な行為

振動のレベルは一定ではなく最大時は外側の金属カバーに触れれば指が切断されてしまいかねないほど強力になる

いくらカバーを外してギイギの皮を巻きつけてあるとはいえ、そこまでの振動ではどうなってしまうのか見当もつかない

ガガガガガガ！

だからコレにはバネの部分に一本の金属の棒を通してあるこれで振動が一定以上上がる事は無い

誰にも言えない私だけの秘密の玩具だ



大分弱らせてあるし
イザとなれば捕獲でも
構わない

大丈夫……
この状態でも十分
出来るはず





な……何？

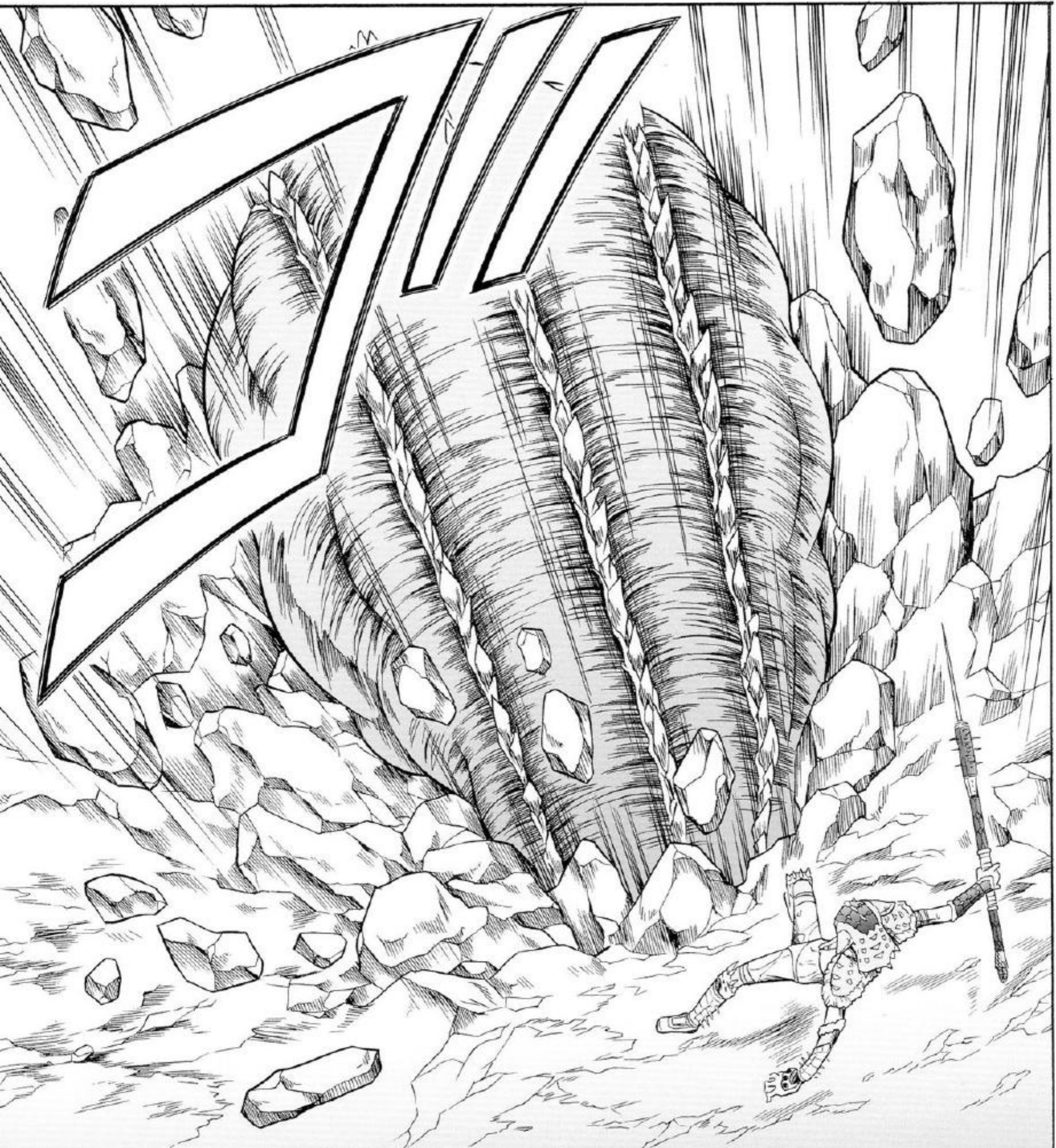
何かを呼んだ？
いったい何を？



聞き覚えの無い
咆哮だった…でも
間違い無く大型の竜

クエツ

クエツ





逃げなきや！

逃げなきや！

逃げなきや！

早く逃げなきや
殺される!!

このままじゃ
あの化物に
飲み込まれて

消化液で体を
溶かされて

私という存在が
消えて無くなって
しまう

そのくらいの事
分かってよ私の体!!

お願いだから
これ以上

ビクッ

ウウウウ

ウウウウ

ビクッ

興奮しないでえ!!

おおっ

うおっ

いぐっ

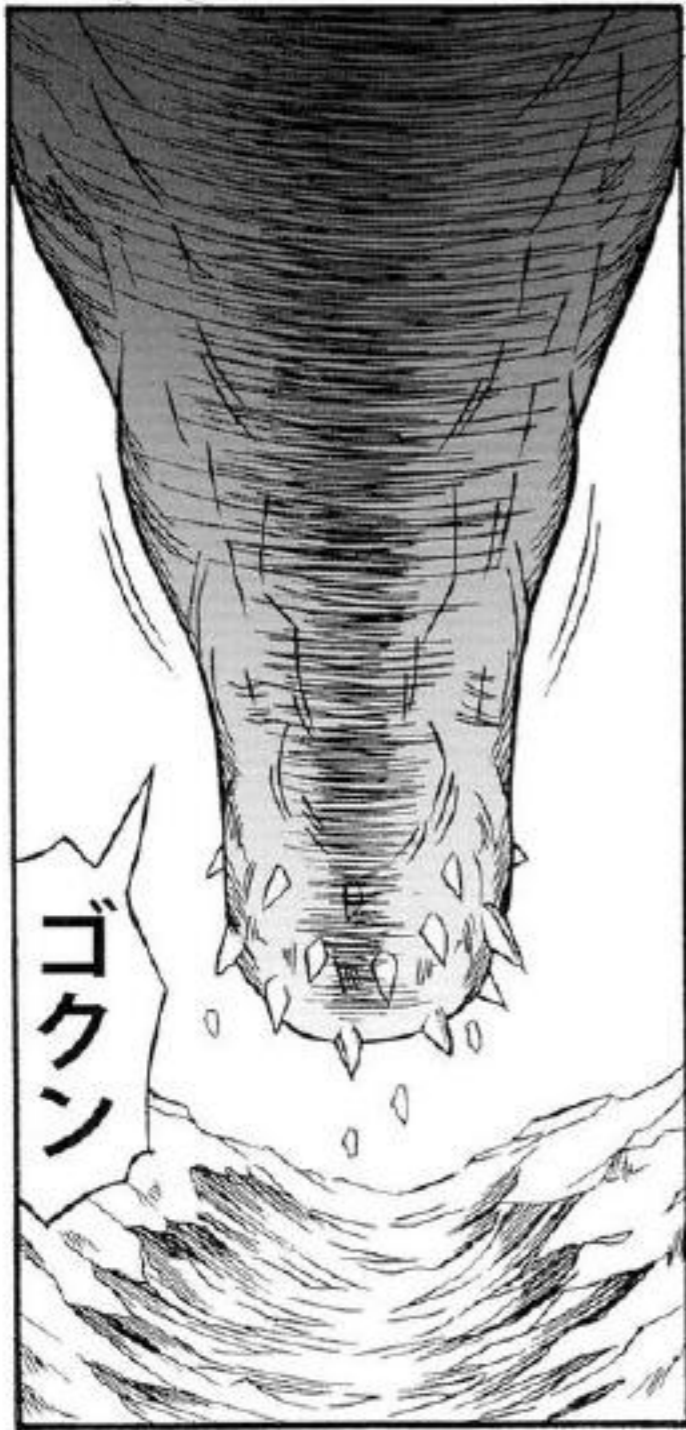
いぐうう

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ



うあああ

私……本当に
飲み込まれちゃった……



熱くヌメった
肉の塊が凄い力で体を
締めつけて来る



絶え間なく分泌される
化け物の唾液が全身に
まとわりついて
酷い悪臭を放つ

うあああ

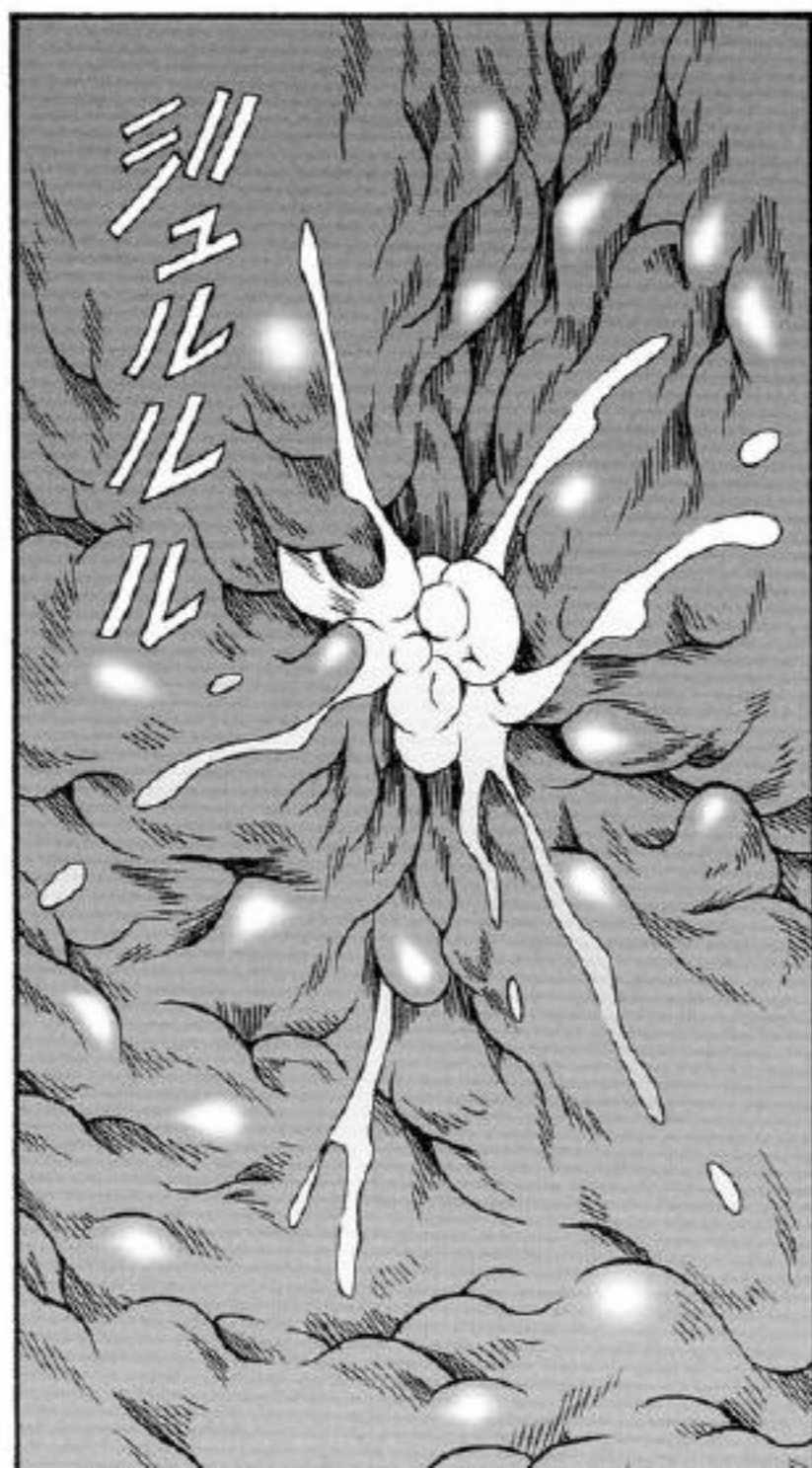
ア+
ア+



でも今の私には
鼻をつまむ事すら
出来ない



化け物は喉越しを
楽しむように私の肉体を
奥へ手前へと滑らせる



まるで性行為の最中の
男性器のようにキツク
肉壁に擦り上げられて…

体中が性感帯に
なったのではないかと
錯覚してしまうくらいに
肌が敏感に感じる

気が狂いそうな程の
全身愛撫

化け物に飲み込まれている
事なんて忘れるくらいに
脳がとろけていく……

あ——っ

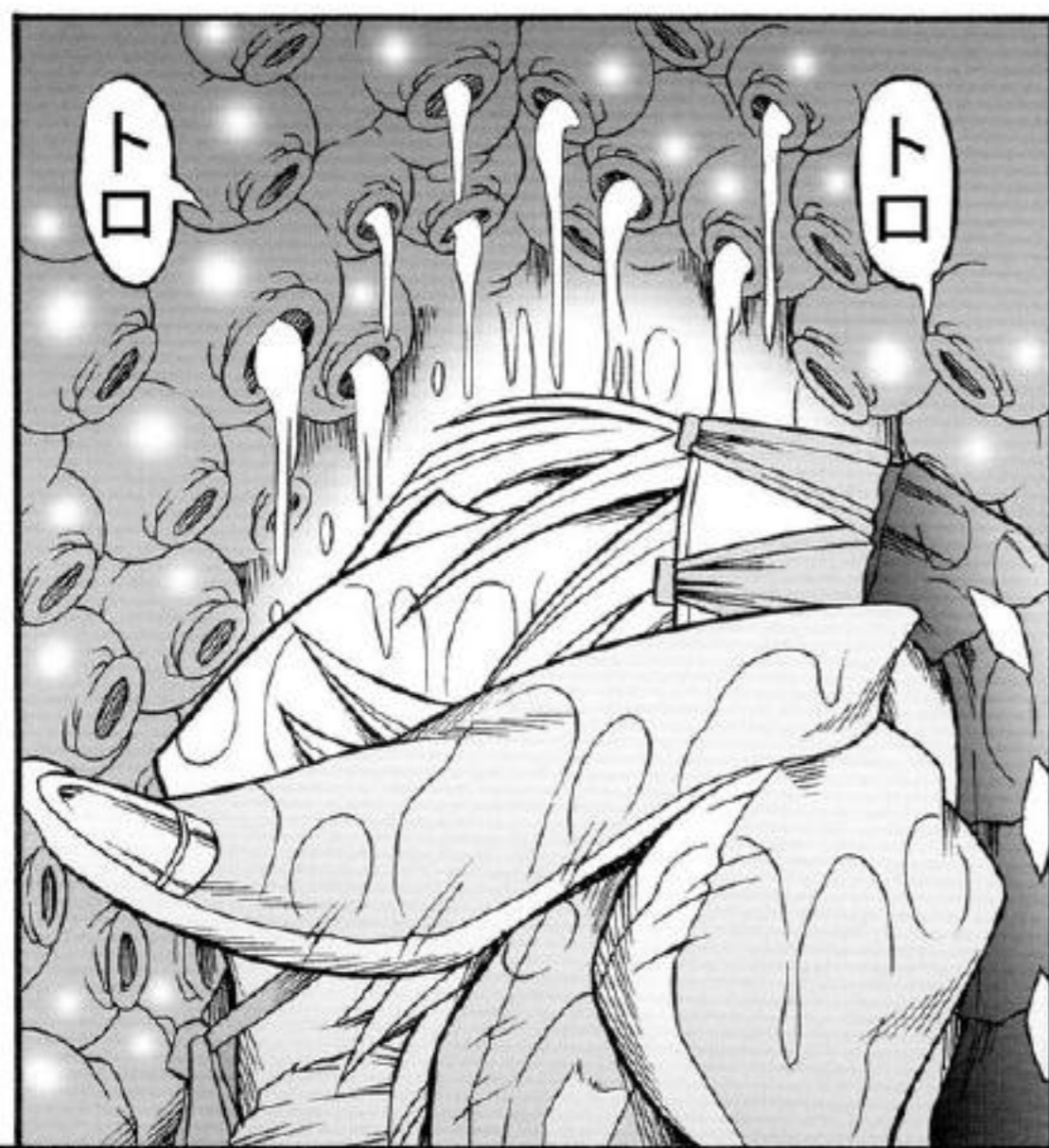
あっ——

へっ

へっ

キョルル

ニクニク





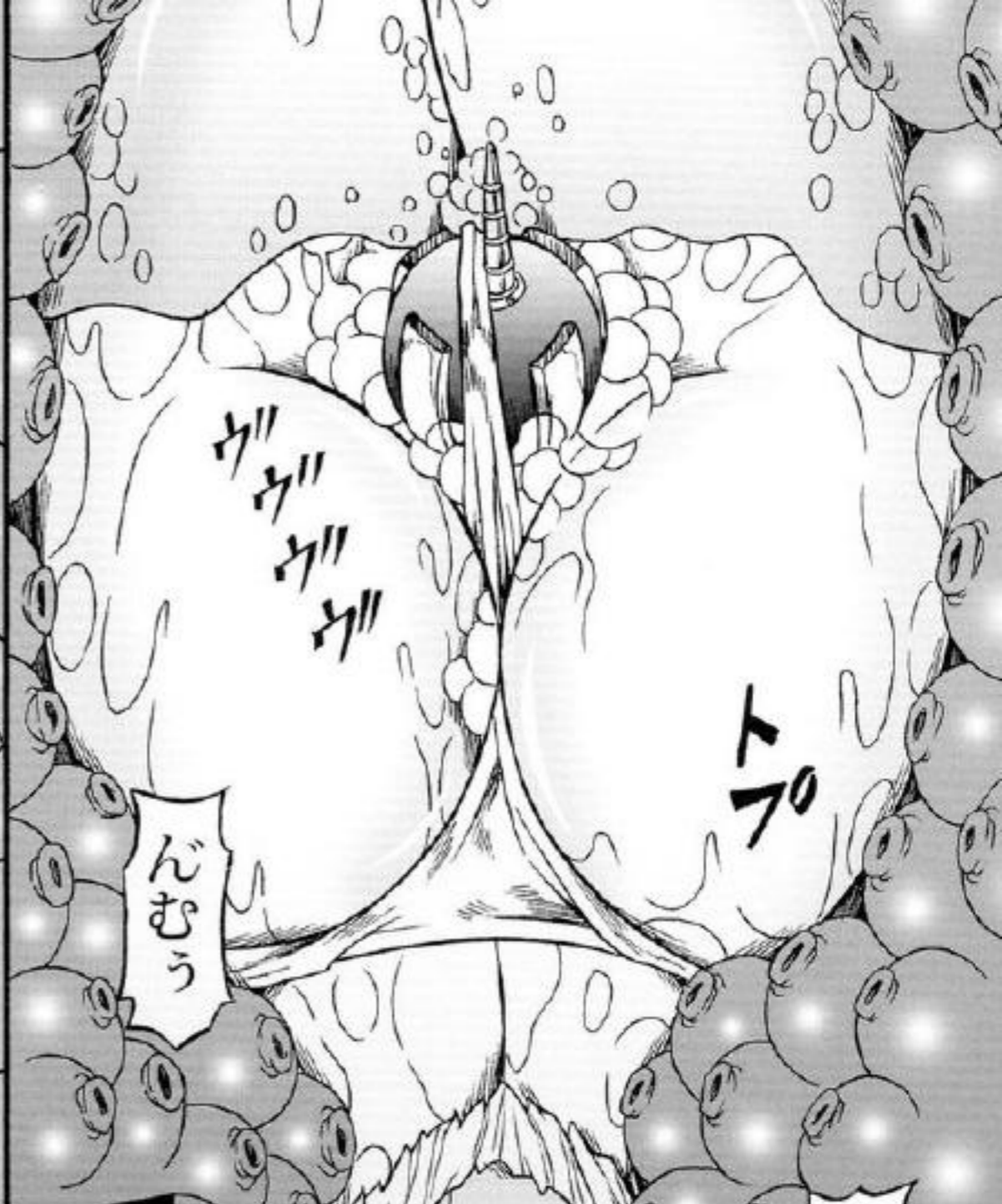
なにこれえ……

へっ

へっ

……
……

へっ



ガッガッガッ

んむう

ト
70

んぐう

ト
70

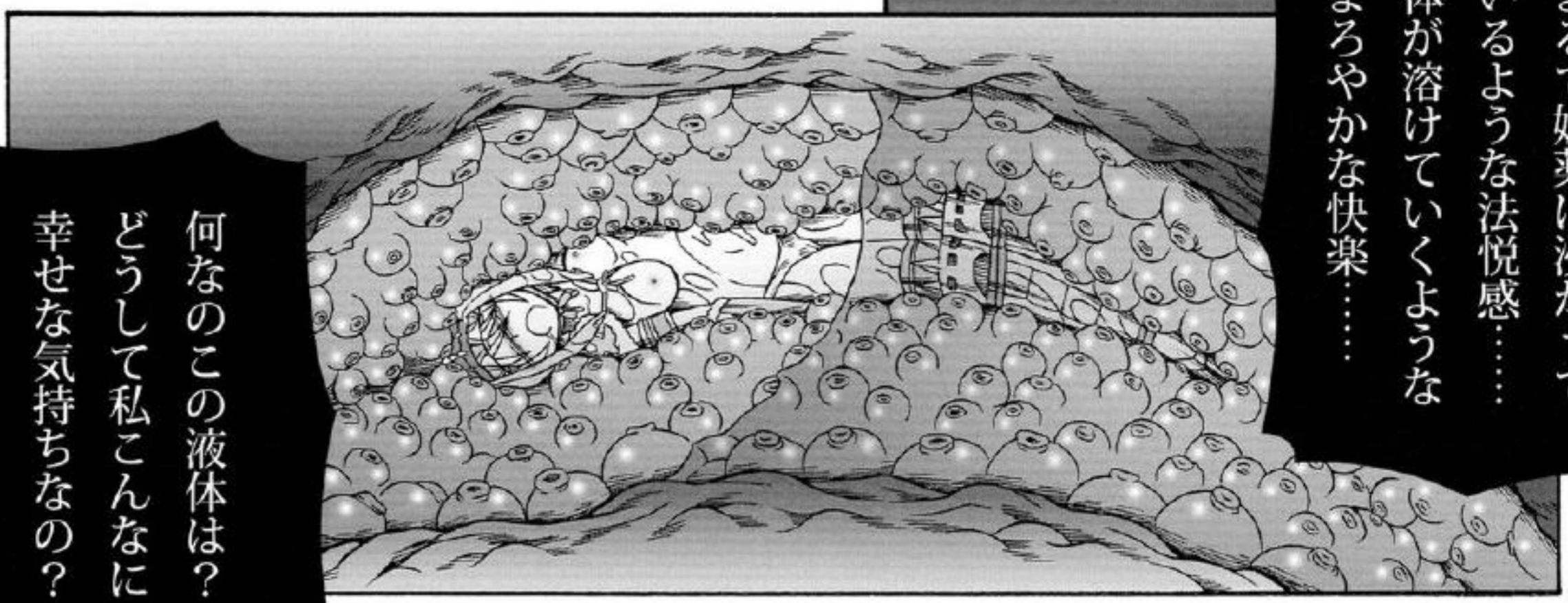
肌が心地良い痺れに
包まれて……
頭が幸福感でいっぱいになっ
ていく……



ドホ

ドホ

ト
70



何なのこの液体は？
どうして私こんなに
幸せな気持ちなの？

まるで媚薬に浸かって
いるような法悦感……
体が溶けていくような
まるやかな快樂……



まさか



AAAAA

まさか

彼女は意識が
あるまま少しずつ
消化されていった

快楽を感じながら
緩慢に……
緩慢に……



消化液!?



とにかく腕だけでも自由に動かせる状態に……

はあ

はあ

はあ

ハッハッハッ



イヤッ

イヤッ

イヤッ

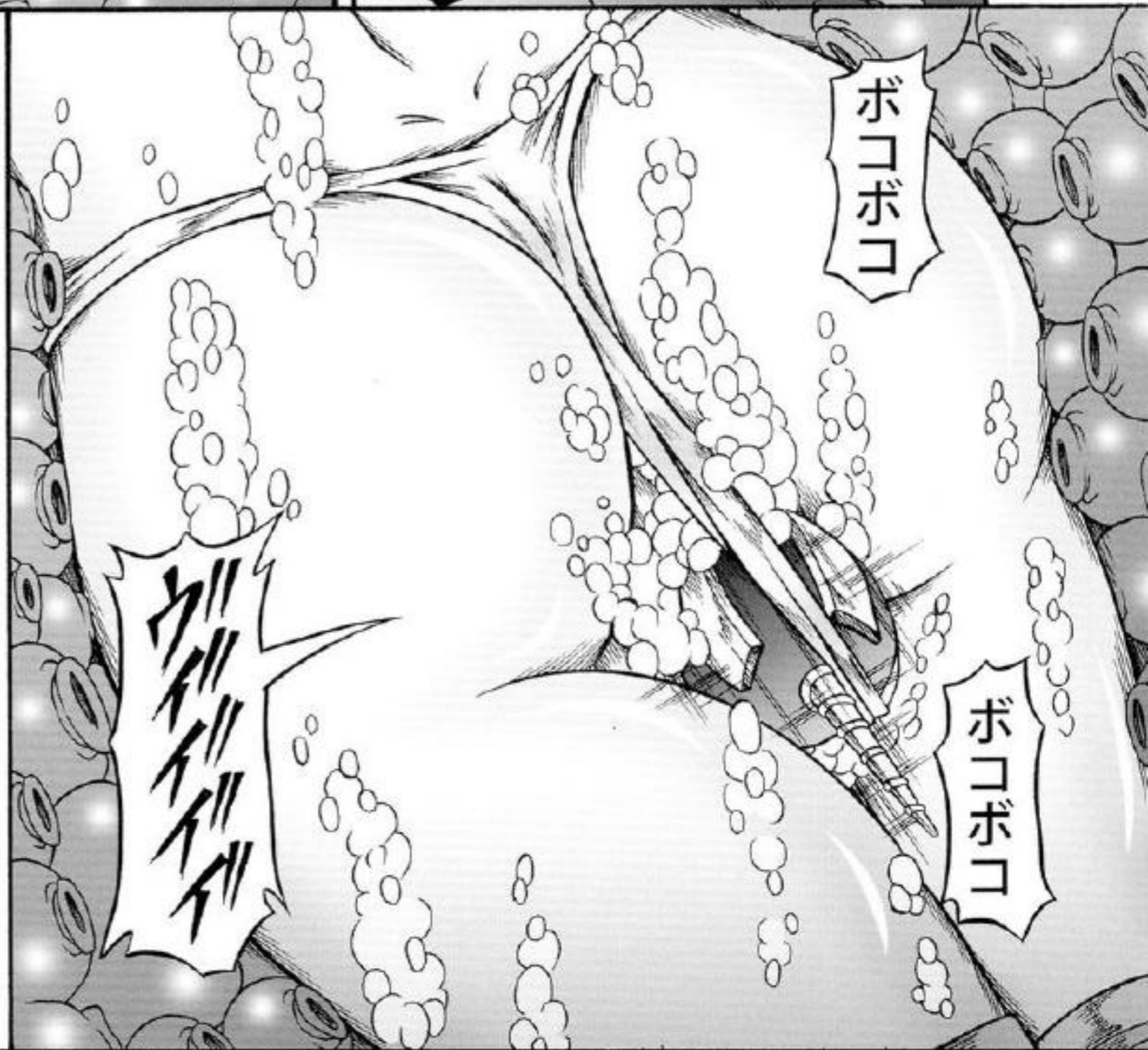
イヤッ

そんなの

イヤあ



なんか……振動が随分強くなってる気が……



ボコボコ

ボコボコ

ハッハッハッ



まさか!?



衝撃でつかえ棒が外れたんじゃ

……待って……今はダメ……今はやめて

ハッ

お願い……

お願いだから……

今だけは……

ハッ

ハッ







ゴッゴッゴッ

ゴッゴッゴッ



んおお

んおお

ガッガッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ガッガッ



おああ

肉体を拘束されている
せいで逃げ場の無い
振動が体内で荒れ狂い



まるで絶頂を迎えるスイッチを
連打されているかのように
絶え間ないエクスタシーの波に
思考が押し流されていく

えづづ

苦痛を感じる程の
絶頂地獄に
さらされているのに

えづづ

肌を包む消化液は
あくまでも優しく
緩やかに私の性感を
高めていく

こんなの

あつ

あつ

あお

こんなの

こんなの

耐えられるわけ
ないじゃない!!!



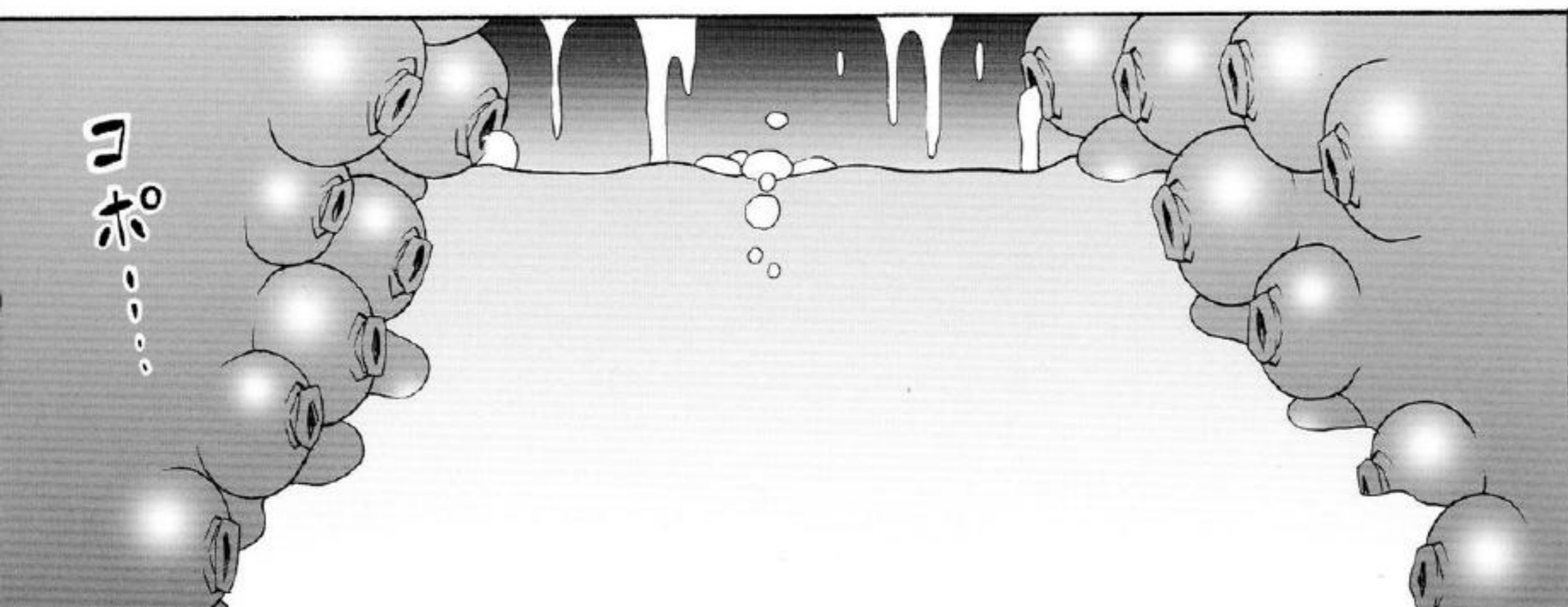
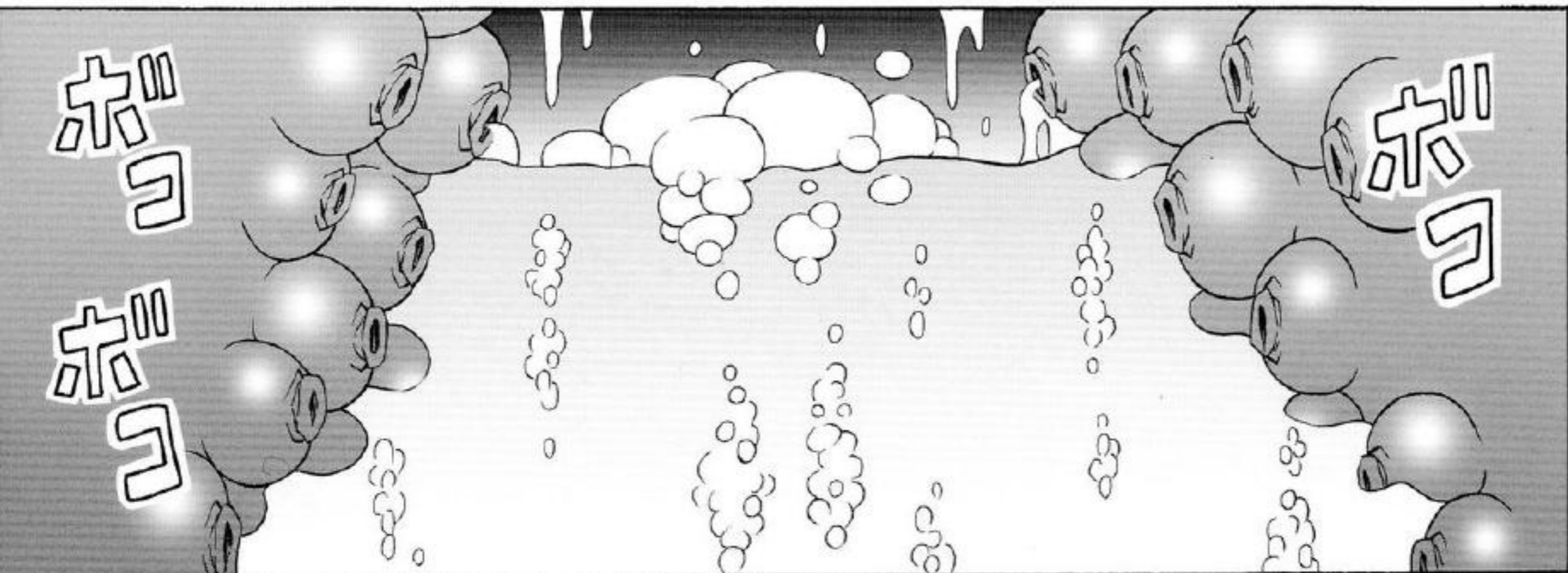
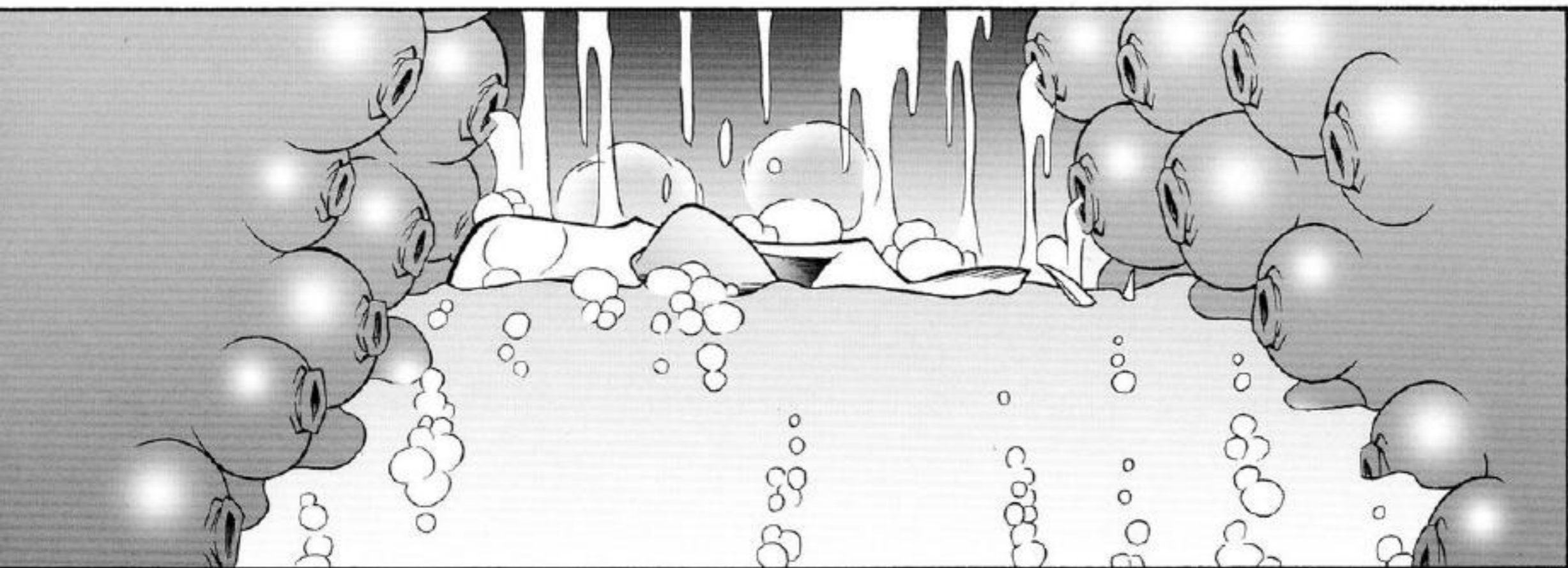
ひび

ひび

ひび

ひび

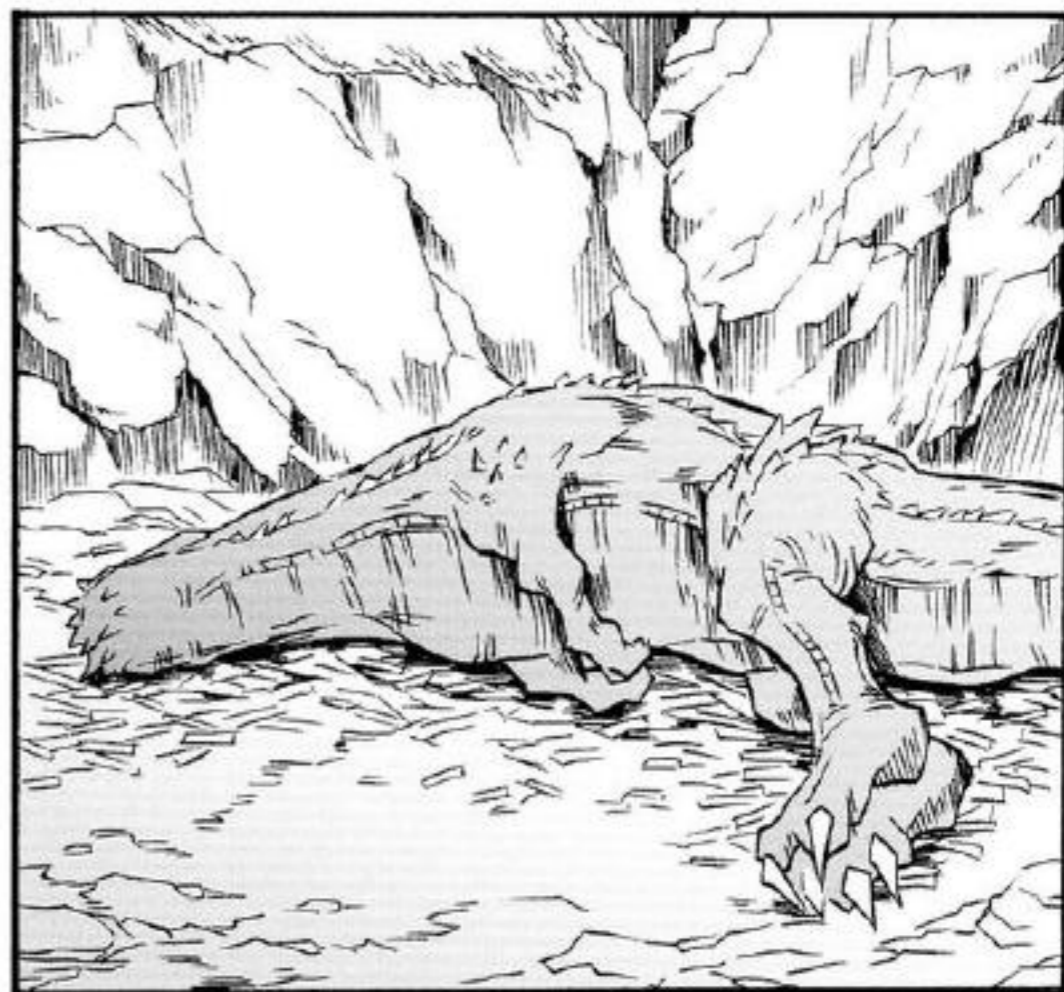






あれが
イビルジョー
じゃないかな？

なんか
凄いデカイの
居るわね



あ！
ちよっと

そんじや
捕獲つて事で

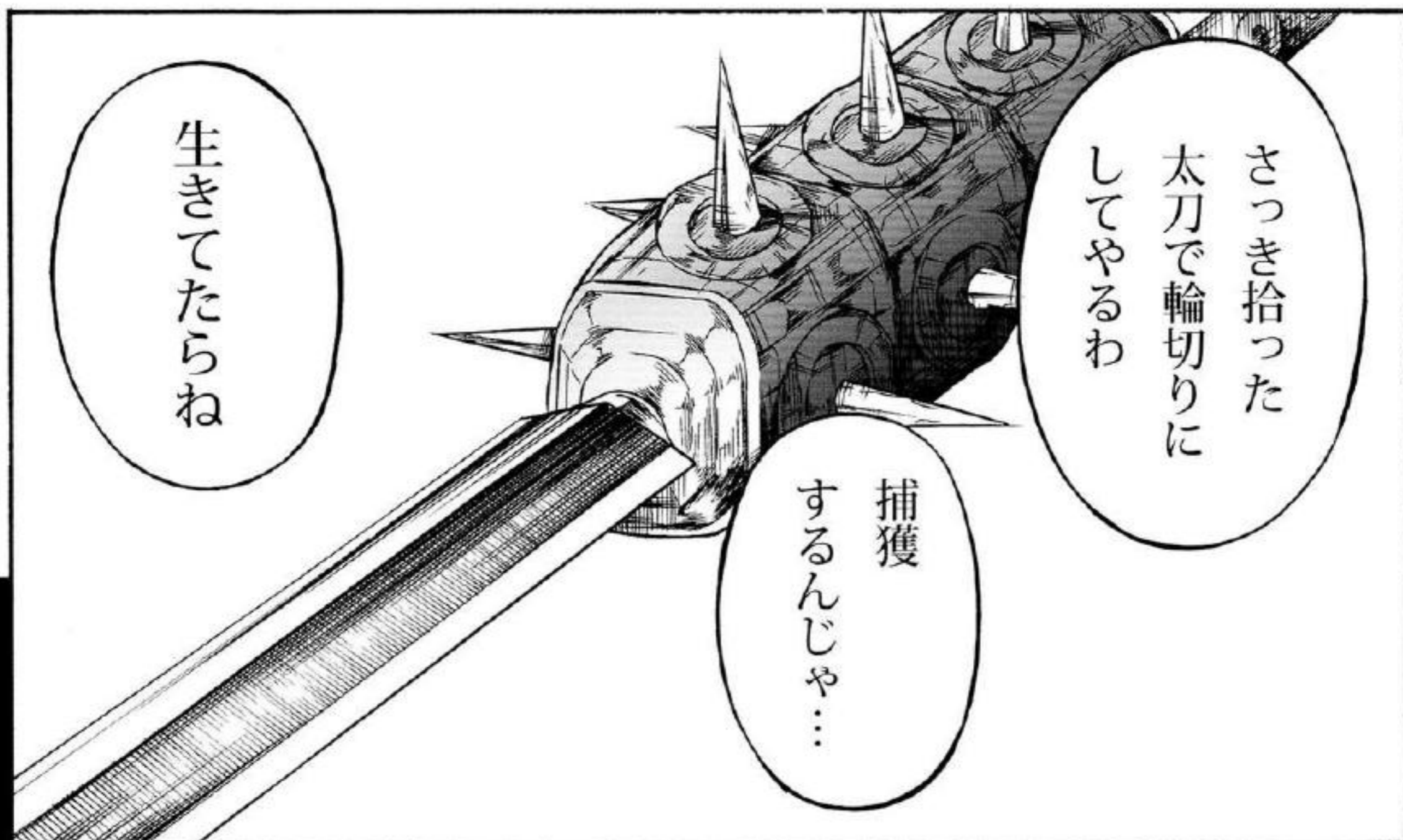


もちろん

捕獲用麻醉玉
持ってきた？



もう 君は
いつも先走るな




さつき拾った
太刀で輪切りに
してやるわ

捕獲
するんじゃ…

生きてたらね

Fin



あら もうこんな時間
お話が興味深くてすっかり
長居してしまいましたわ

ごめんなさい
お引き留めしてしまったわね
気をつけてお帰りになって









食われちまえ

この物語はフィクションであり、実在の人物団体
及びギギネブラの設定とか一切関係ありません



どうして...

どうしてなの？

カチカチ

カチカチ



どうして
ラギアクルスが
こんなところに？



こんな事なら
あの時……



あなたもそう
思うでしょ？



いやー
今日のクルベッコは
強かったな

粉塵が
無かったら
ヤバかったぜ

まさに
チームワークの
勝利って感じよね



あんた達弱すぎ
正直言って
足手まといだわ



レベル低すぎ

え？



ちょっと私一人で
行ってくる

お、おい

あんな事
言わなければ
良かった

カ
カ

皆が居れば見つからずに
やり過ごせたかも
しれない



カ
カ

資料でしか見た事の無い
化け物なのに
どうしたらいいかなんて
分からないわよ

とにかく
出来るだけ
距離を取って

隙を見つけて
何とか逃げないと





何が
起こったの？

カ

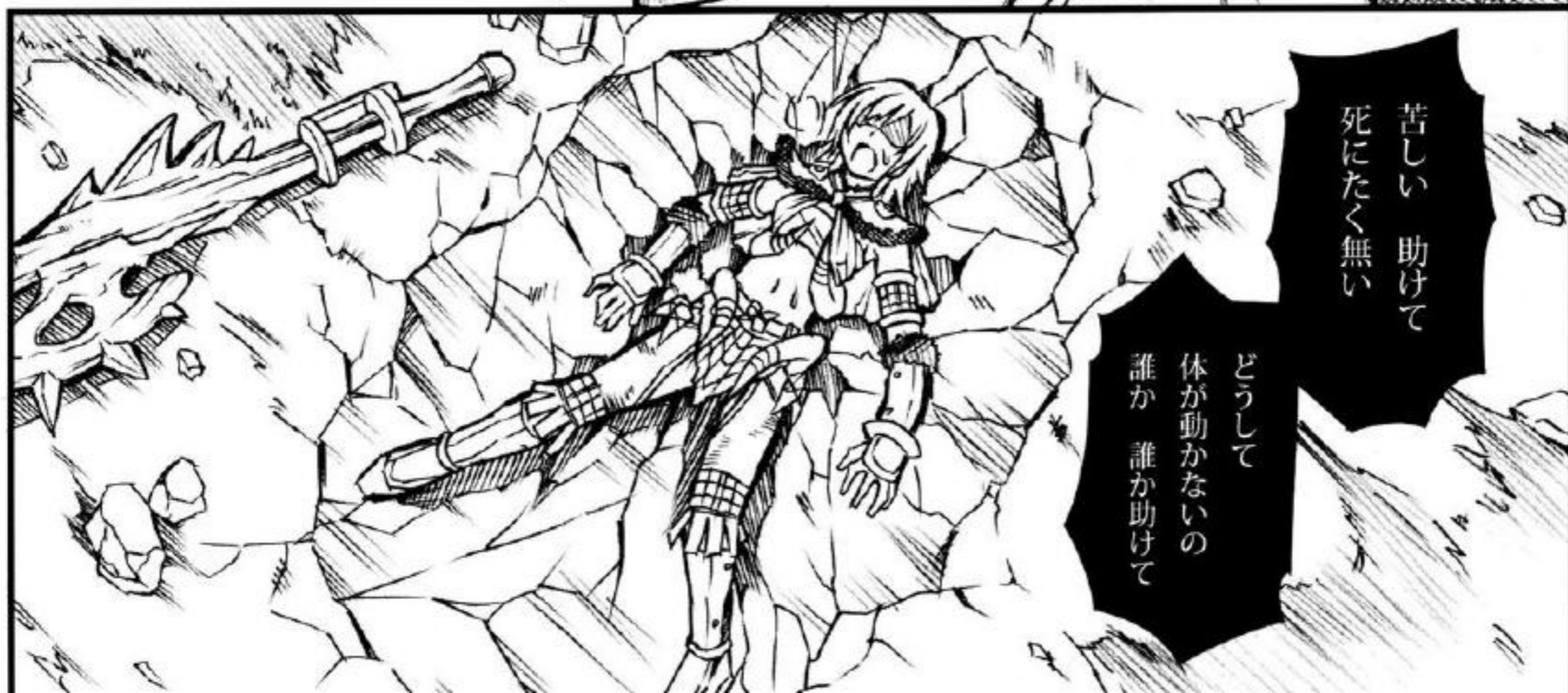


呼吸が出来ない

カ



かはっ



苦しい 助けて
死にたく無い

どうして
体が動かないの
誰か 誰か助けて



あがあがあが

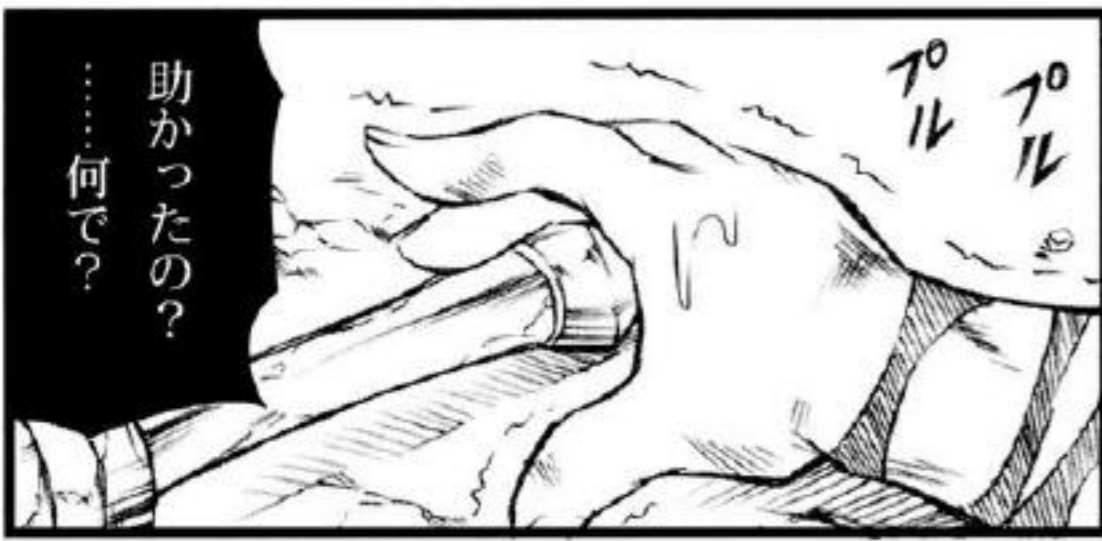
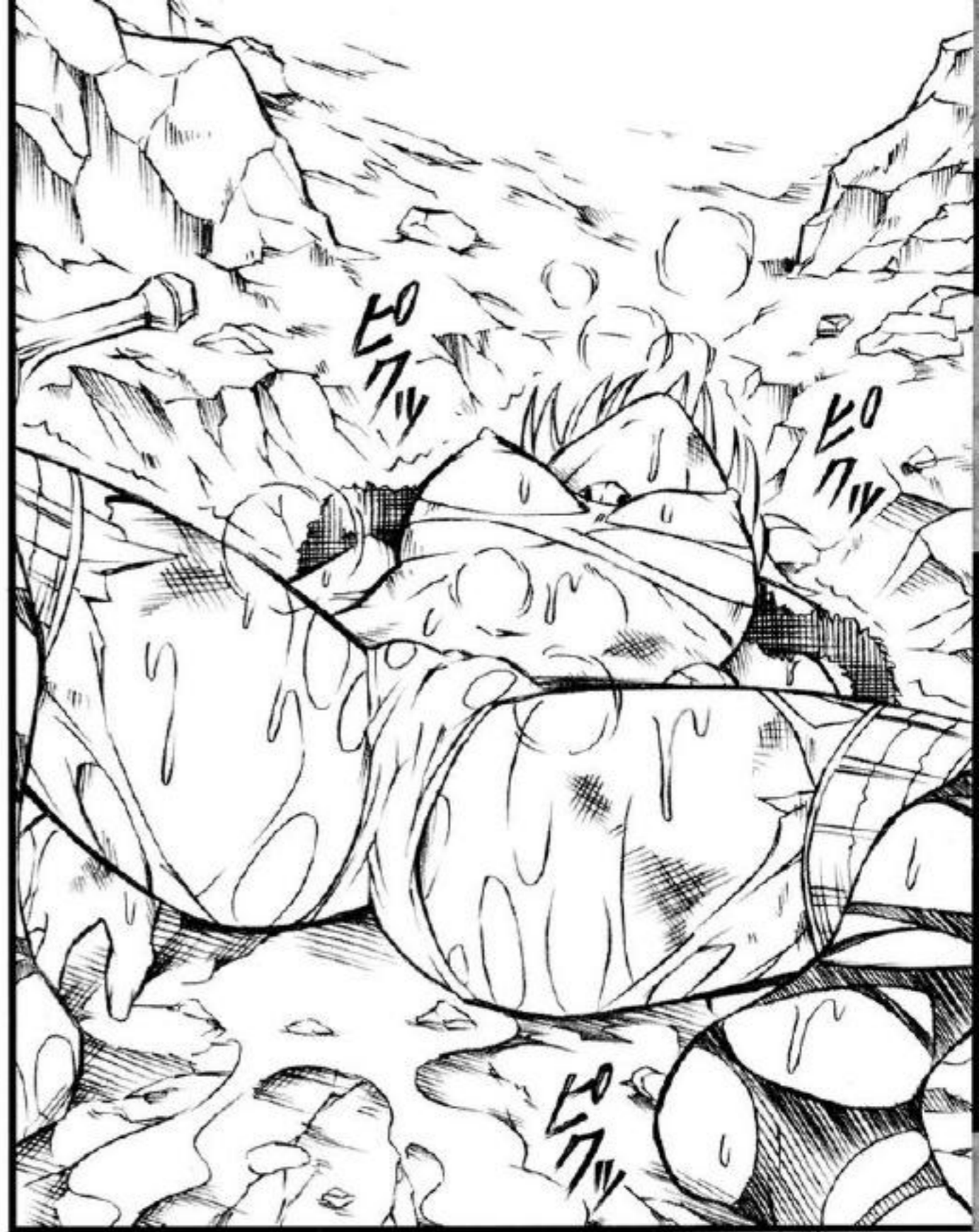
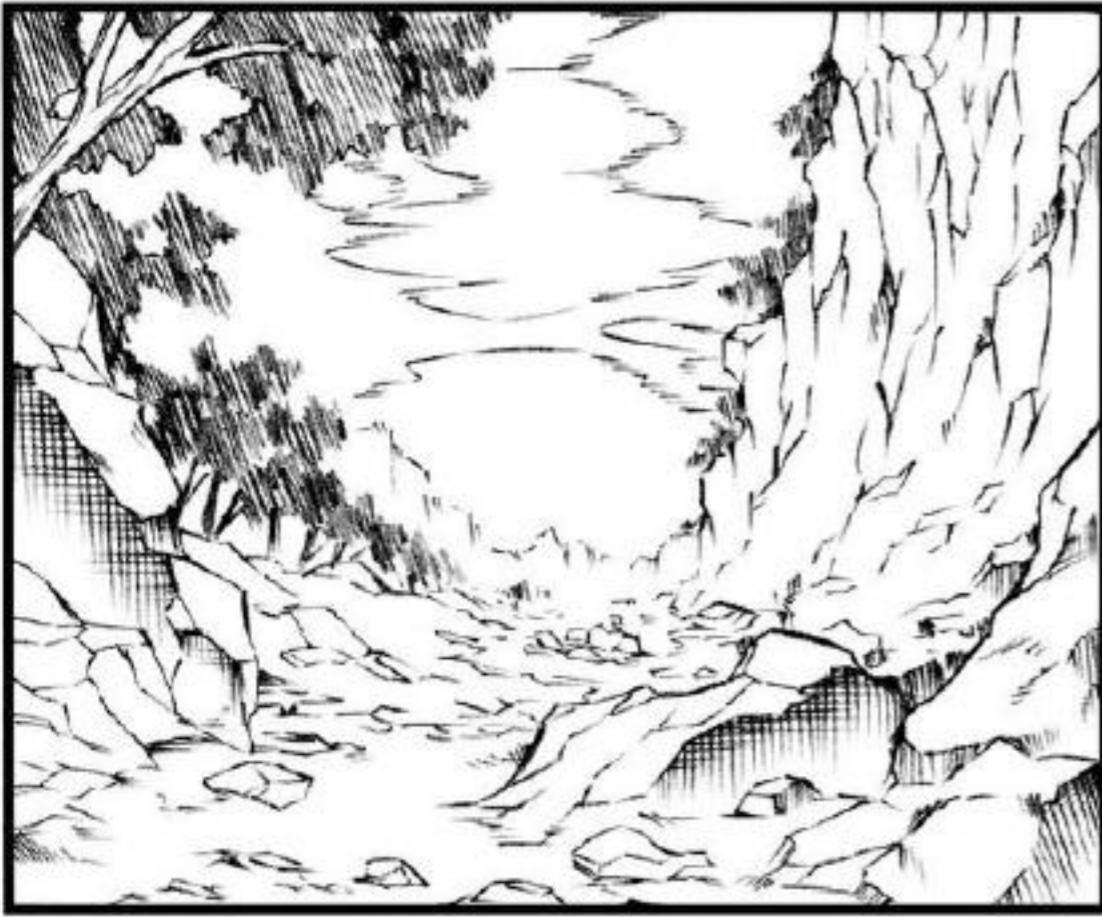


あがあ

あがあ

ヒクヒク



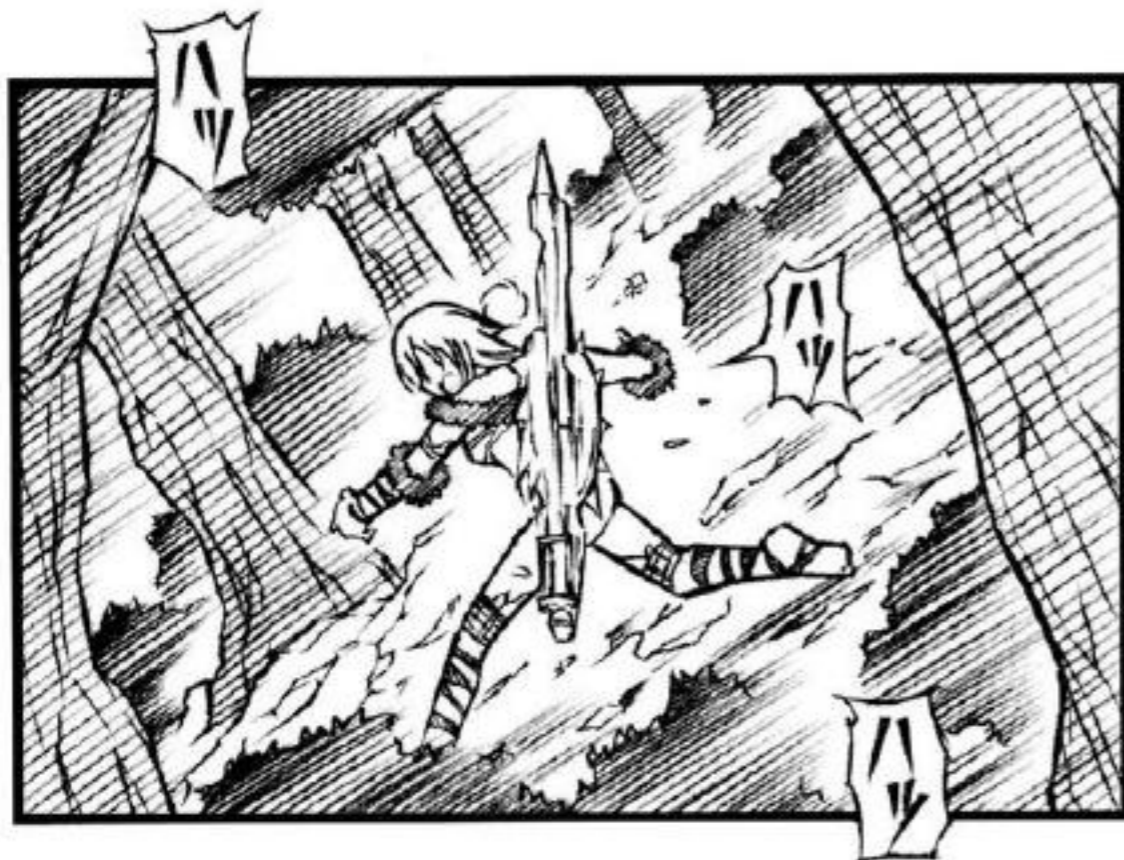


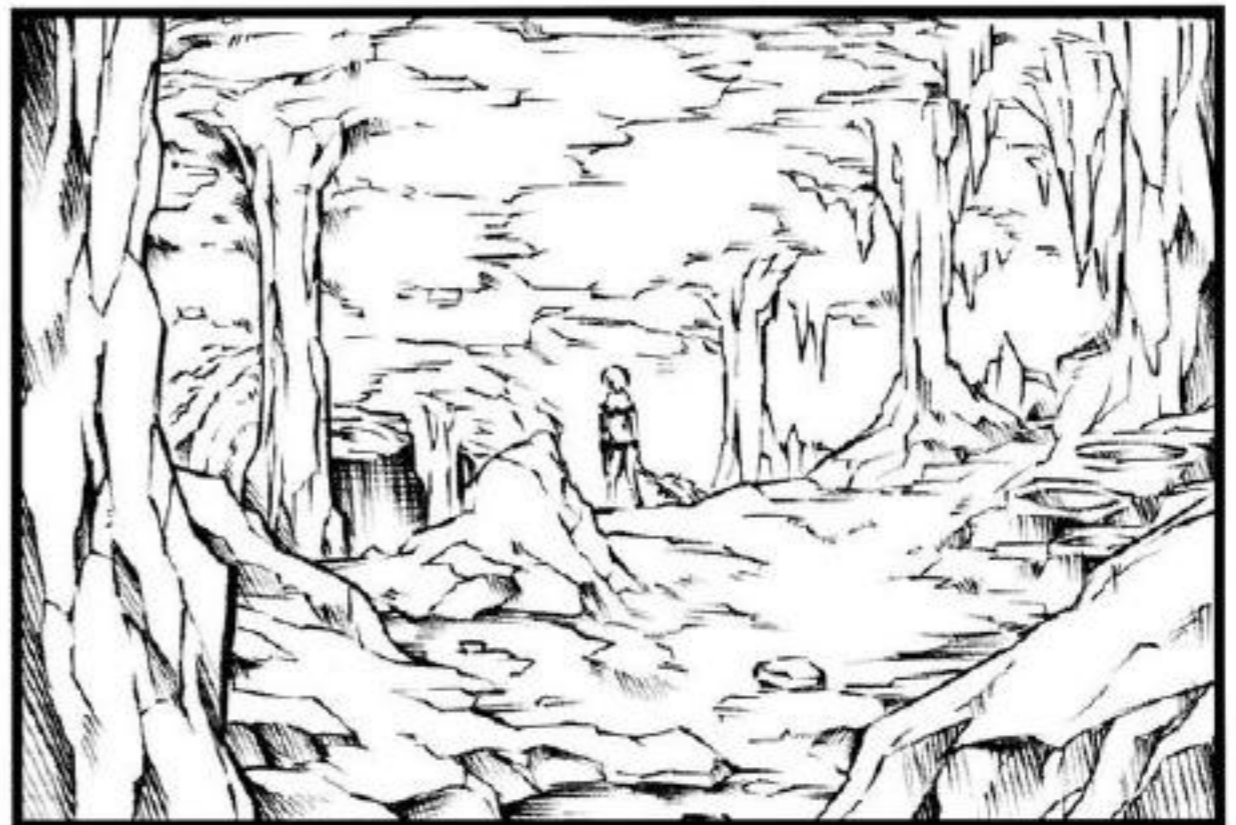






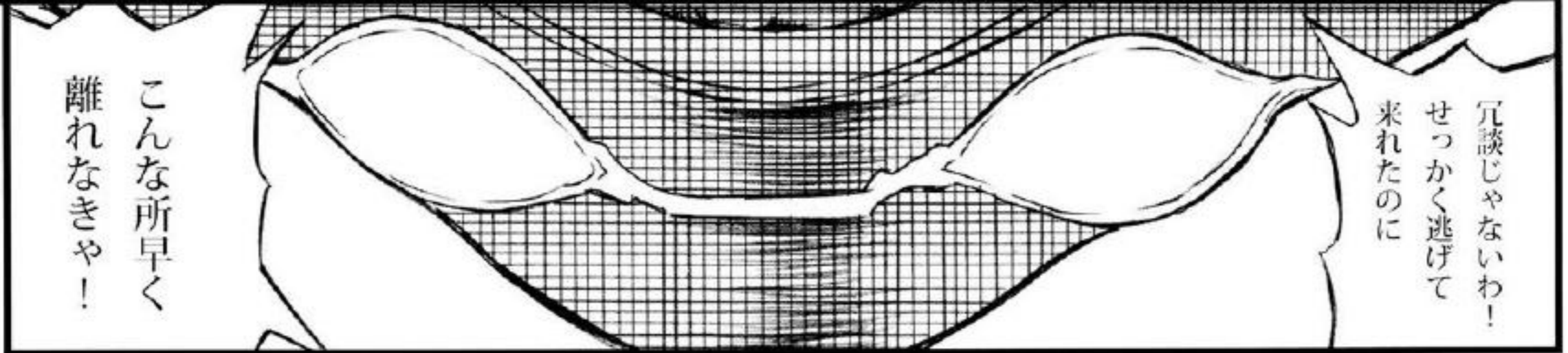








キギネブラの巣



冗談じゃないわ！
せつかく逃げて
来れたのに

こんな所早く
離れなきゃ！



毒液をかけられた？
ギギネブラの毒は
猛毒のはずだわ

早く解毒剤を飲まないと……
いや それより……何か変
これは本当に毒なの？

ホア

体の力が抜けて妙な気分……
これが毒液の症状だって
いうの？

媚薬じゃない！

ジワア

そんなわけ無い
こんなの聞いた事無いわ
これじゃまるで……

ここに居たら
食べられちゃう

……とにかく
逃げなきゃ

ホア

ホア



ひよっとしたら
体液なら血でなくても
いいのかもしれない
私の足は汗と
失禁したときの尿で汚れている

ギィギィは血を吸うって
聞いていたのに
嘔み付きもせず
針で刺しもしない

ただ肌に吸い付き
味を確かめるように
ニユルニユルと
舐めまわすだけ



ダメえ そこはダメ!
入って来ないでえ!

ケムケム



イヤアア
アアアアア



狂っちやう
狂っちやう
狂っちやうからあ

やめてえ!
やめてえええ!



やあああ

んきんき

ひやああ

あ……

あ……あ

何度絶頂しただろうか？
無数のギイギが餌を
求めて私の体に群がり
膣や肛門に潜り込んで
体液を吸る

私の体はあれだけ激しい
絶頂を繰り返したというのに
未だ甘い感覚に支配され
もっと高い絶頂感を
期待してしまっている

ギイギ達にとっては
絶好の餌場なんだろう
吸えば吸うほど体液が
溢れてくるのだから

その期待に応えるかの
ように更なるギイギの
群れが私の
汗に 尿に 涎に
群がって来た







ギギネブラは餌を
生きてそのまま捕らえる
と聞いた



ずっと不思議だったわ
「あんなトロい
モンスターにどうして
捕まるの?」って



でも今なら分かる
獲物達は自ら喰わ
れる事を望むのよ



開け放たれた不気味な
口を見て 垂れ流される
毒液の涎を見て
期待に打ち震えるんだ



当たり前よ
一度味わってみれば分かるわ
この世でこれ以上の
悦楽なんかある筈がない



セックスなんかじゃ絶対に
たどり着く事の出来ない
本物の絶頂を何度も
甘受する事が出来るんだもの



まるで上半身全てが
性感帯になったか
のよう



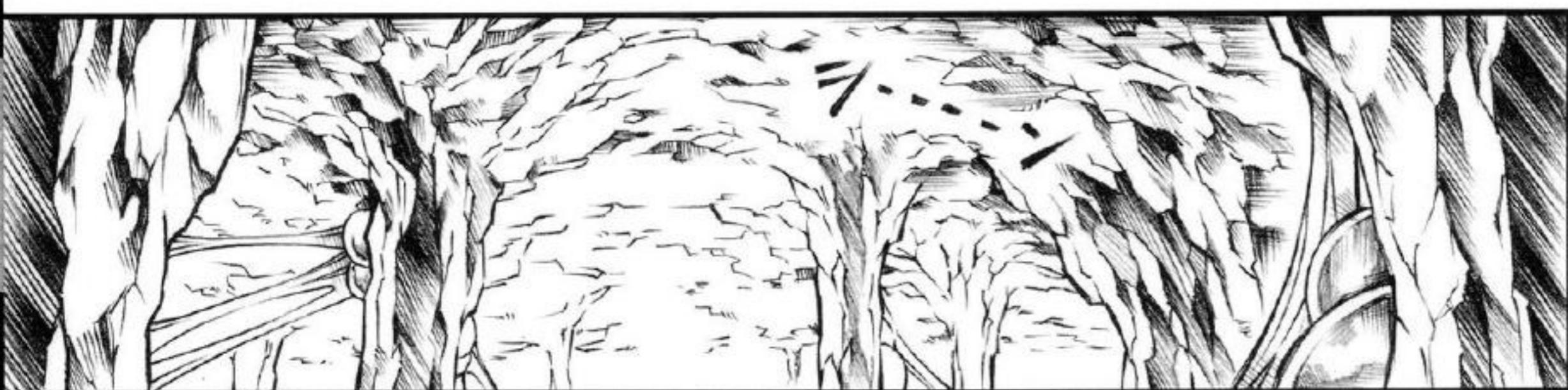
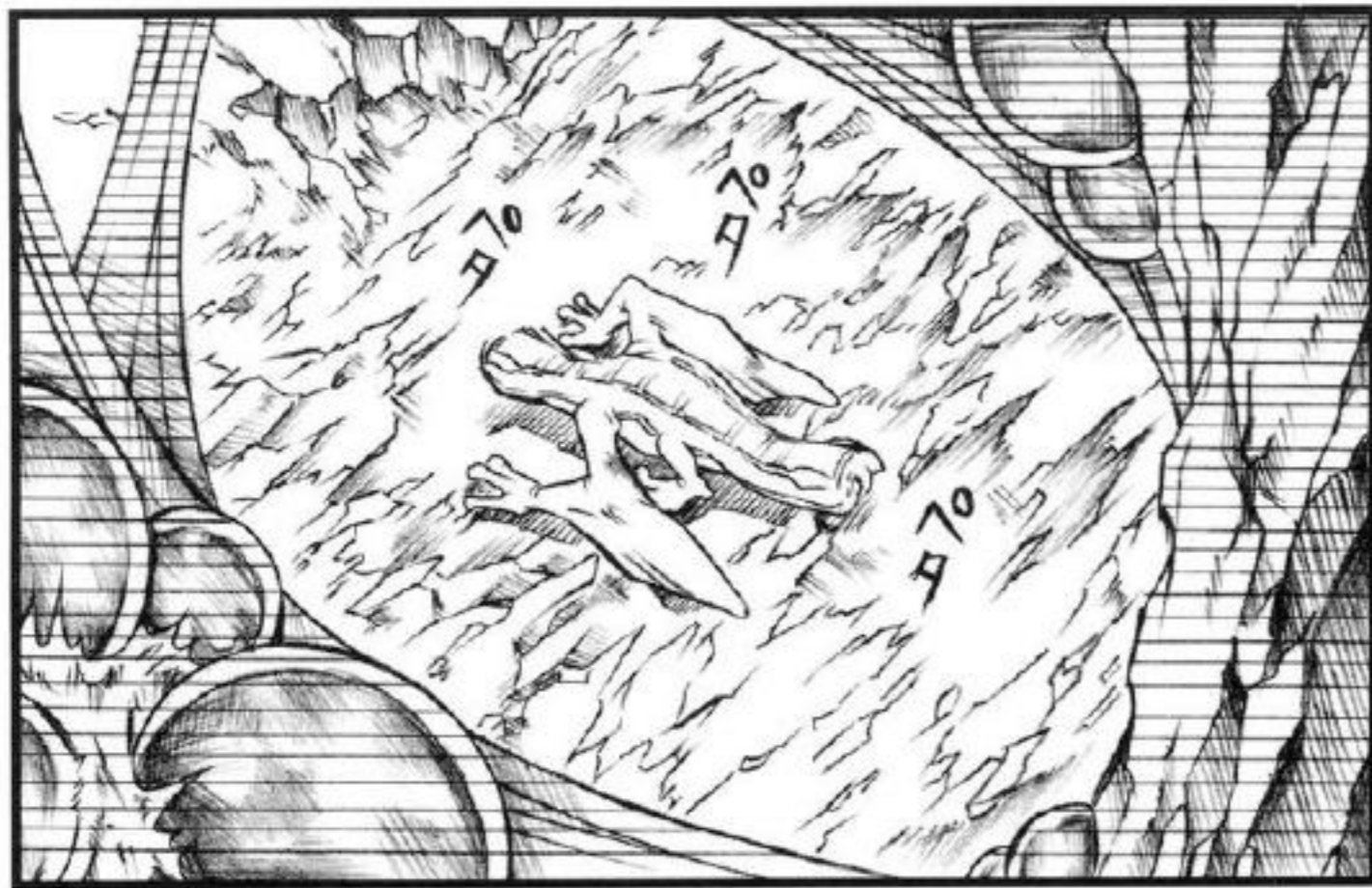
上半身を包ま
れただけで言いよ
うのない幸福感が
押し寄せて来る



早く……
早く……

早く
食べてえ!!

食べられてない
下半身が切なくて
仕方がない



あ
あおお

グ
グ

ニ
ニ
ニ
ニ

絶頂状態が
絶え間なく続き
更に高い快樂へと
導かれてしまう

消化の為に大量に
分泌される毒液が
私に更なる悦樂を与える

捕食される事が
これ程の幸福だとは
知らなかった

えええ

あええ

気持ち良くて
気持ち良くて
気が狂いそうになる


ニ
ニ
ニ
ニ

ハ
ハ
ハ

ギギネブラは獲物を
2日かけて消化するらしい
2日後には私は影も形も
残っていないだろう

ハ
ハ
ハ

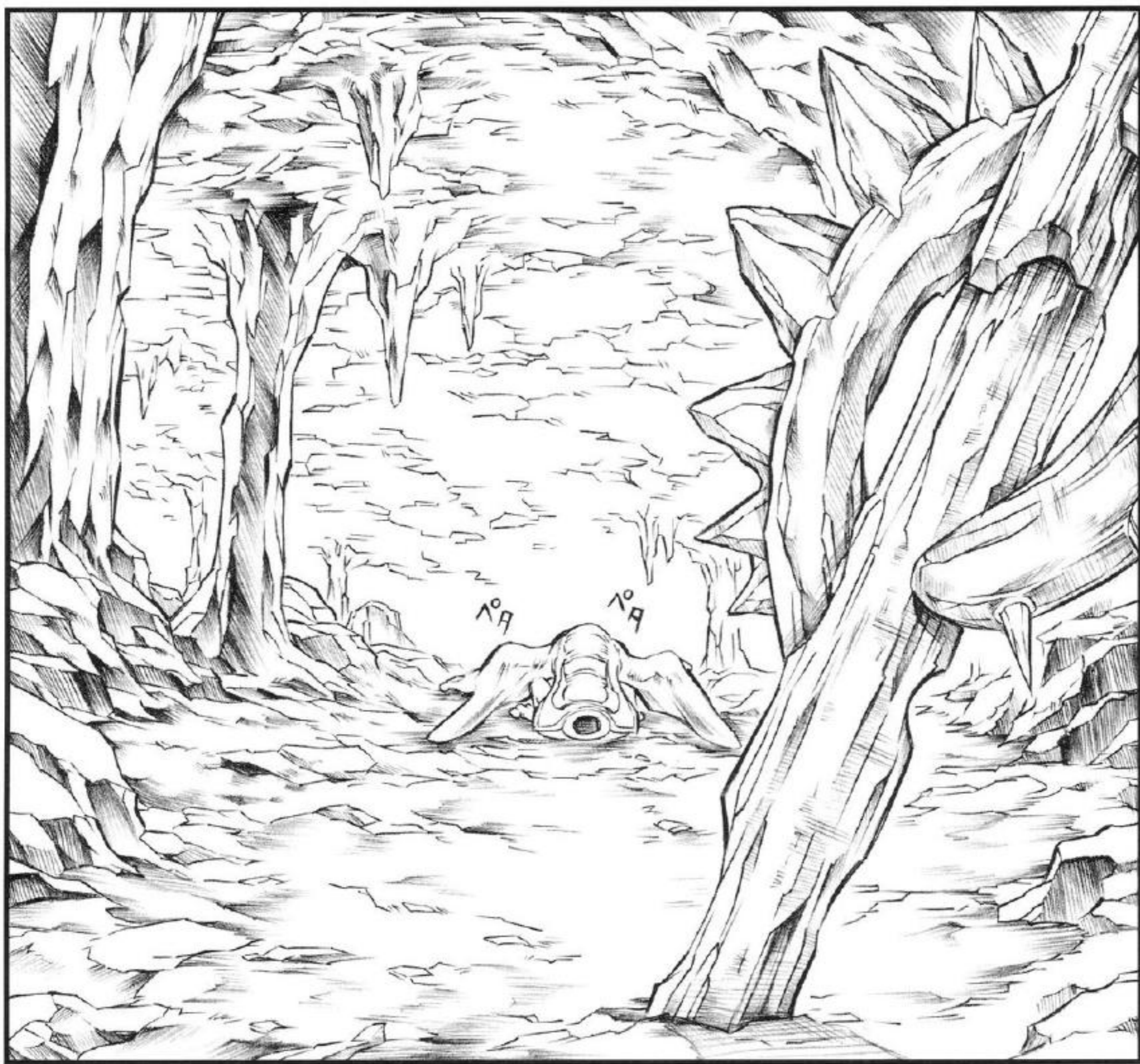
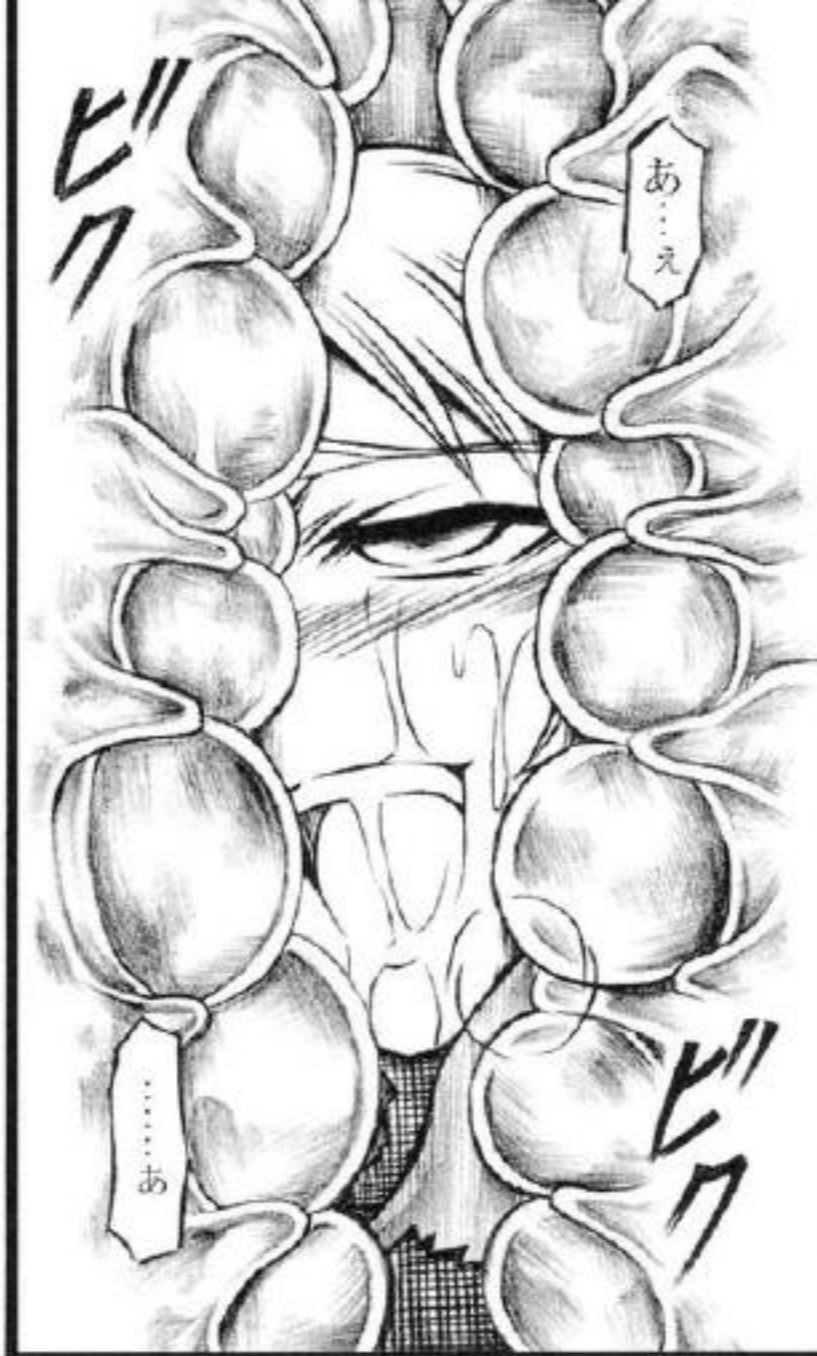
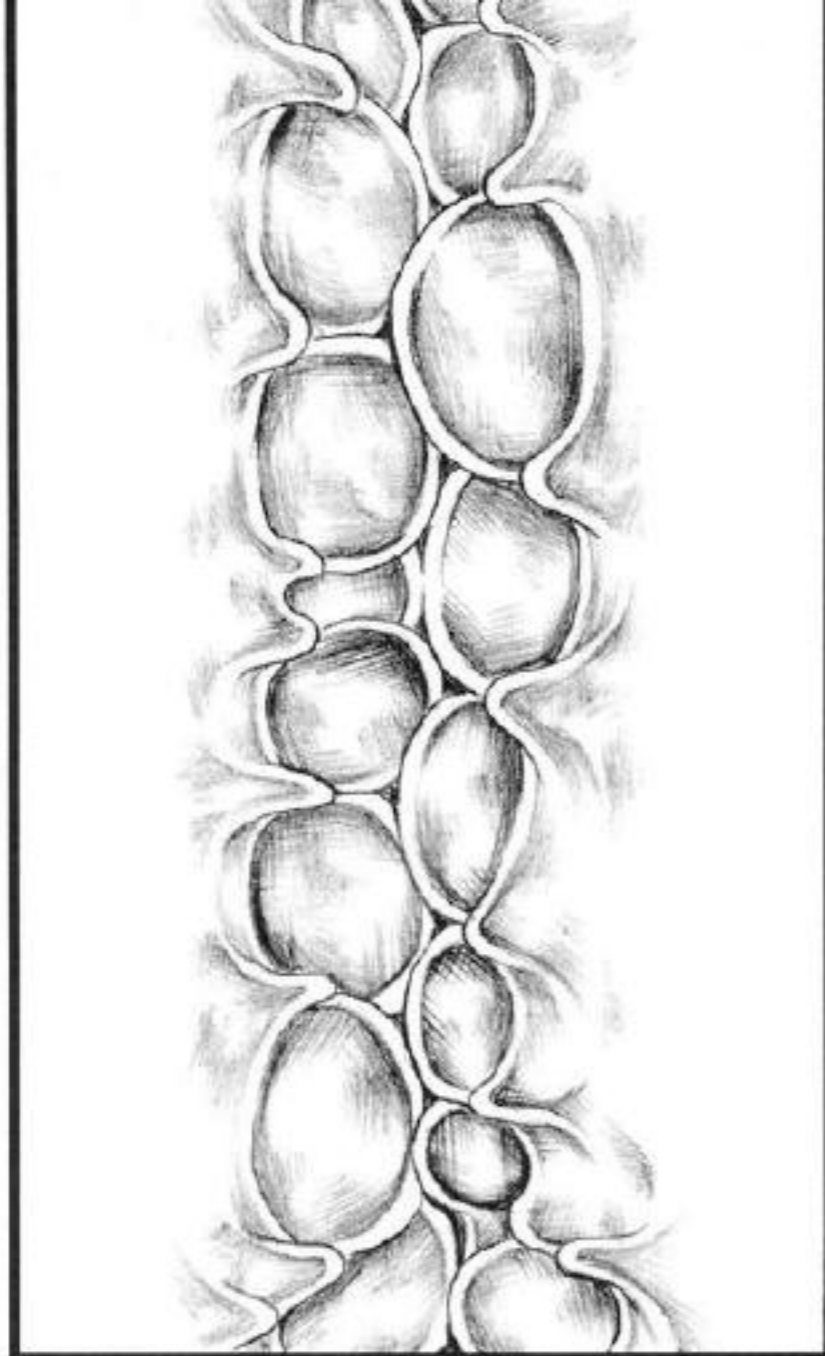
ム
ム
ム



それでも
助け出して欲しいなんて
欠片も思わない

あと2日も天国を感じる事が
出来るんだもの
死の瞬間まで消化される
喜びに浸っていたい

もつと溶かして!!
私をドロドロにしてえ







BEVU

BEVU



ブルブル

ツギ

ツギ

ブルブル

ブルブル

ツギ

ブルブル

ツギ



ブルブル

ツギ

ツギ


その後どうなったのか
ですって？

ウフフ どうなのかしら
私に分かるのは その人が倒錯的な快楽に
支配されてしまったのであろう事
抗えない絶頂に屈してしまっただであらう事
それだけです

あら 別のお話も
聞きたいのですか？

ありがとうございます♡





でも今はここまででいたしまししょう
ご縁がありましたらまたお話しさせて
いただきますわ♡

発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

発行日 2016.8.14

印刷 ねこのしっぽ

web <http://yokohamajunky.com/>

email mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及びモンスターの設定とか一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です